HONDA

FREED HYBRID
FREED+ HYBRID

OWNER'S GUIDE

オーナーズガイド

このオーナーズガイドは基本的な操作、安全に関する情報、万一の場合に必要となる情報が掲載されています。
さらに、詳しい取扱情報は取扱説明書に掲載されていますので、車両にお乗りになる際には、取扱説明書もお読みください。

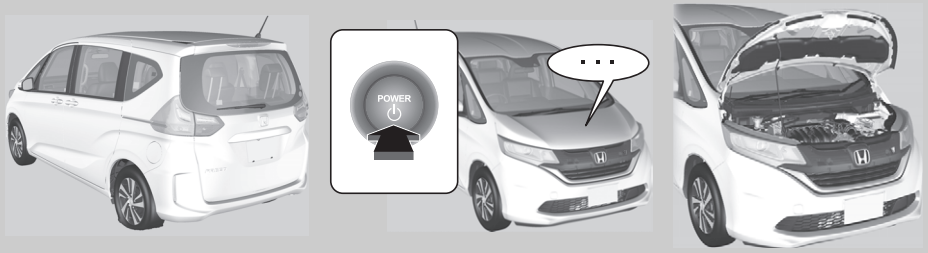
基本的な操作の例

時計設定、パワーシステム起動方法、セレクトレバーの使いかた、給油のしかたなどです。
詳しくは目次をご確認ください。



万一の場合に必要となる情報例

パンクしたとき、パワーシステムが起動しないとき、オーバーヒートしたときなどの情報です。
詳しくは、目次の “万一の場合には” をご確認ください。



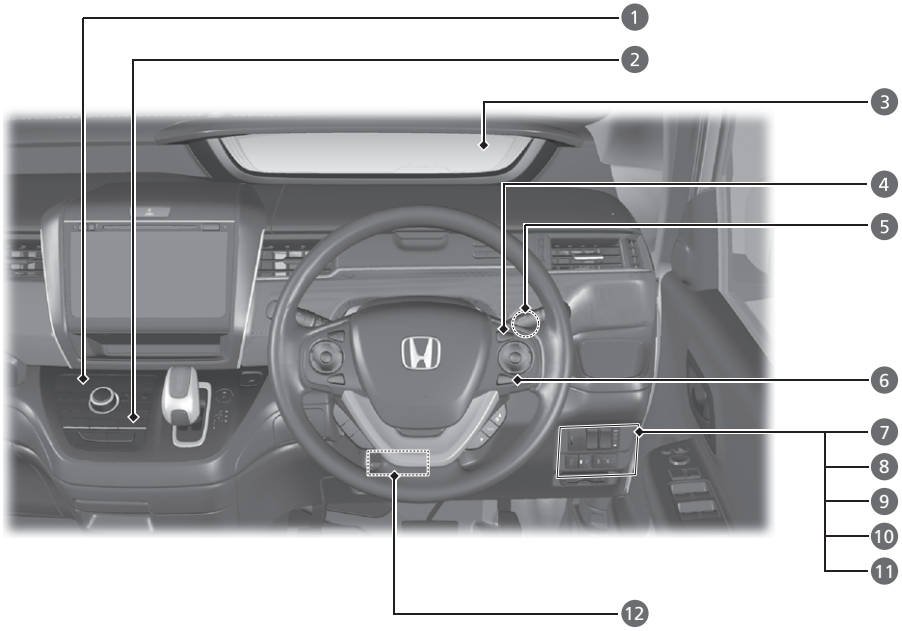
■取扱説明書のご案内

Honda ホームページにて、取扱説明書を電子データ形式で、ご提供しています。
取扱説明書の提供ページで、モデル名と年式を選択し、閲覧をしてください。

取扱説明書の提供ページ
http://www.honda.co.jp/ownersmanual/HondaMotor/auto/

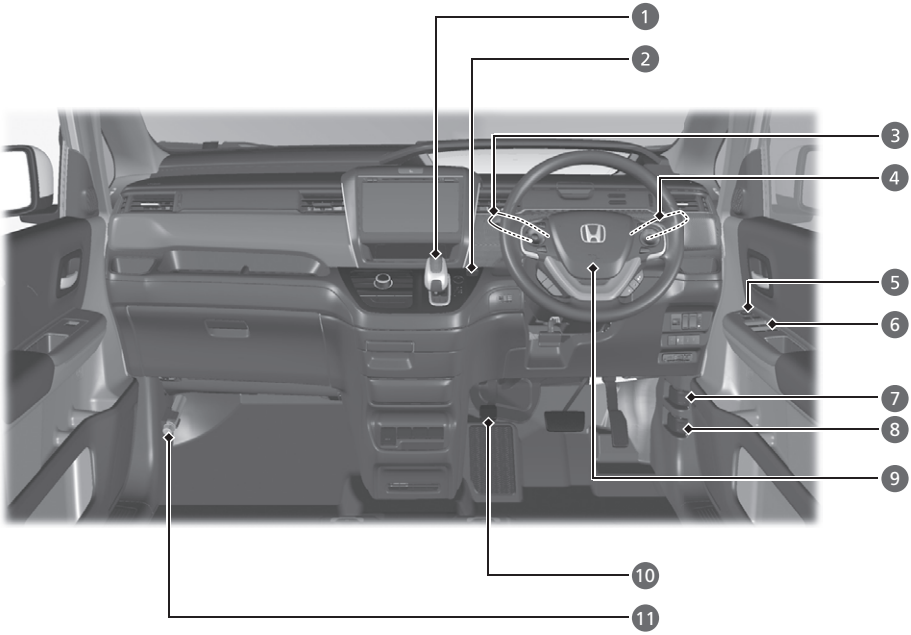
なお、Honda ホームページからは、検索ボックスに『取説』と入力することで、この提供ページを検索できます。

また、紙書籍版の取扱説明書は、Honda 販売店にて、ご購入いただけます。
ご購入を希望される方は、Honda 販売店にご相談ください。



1. オートエアコン（P. 127）
2. リヤデフロスター / ヒーテッドドアミラー* スイッチ（P. 99）
3. 警告灯（P. 45）
4. MAIN スイッチ*（P. 159、174）
5. POWER スイッチ（P. 93）
6. LKAS スイッチ*（P. 174）
7. VSA OFF スイッチ（P. 178）
8. ヘッドライトレベリングダイヤル*（P. 95）
9. CMBS OFF スイッチ*（P. 190）
10. フロントガラス熱線スイッチ*（P. 99）
11. 路外逸脱抑制スイッチ*（P. 153）
12. ハンドル位置調節レバー（P. 100）

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。



❶ セレクトレバー（P. 135）
❷ ECON スイッチ（P. 139）
❸ ワイパー / ウォッシャースイッチ（P. 97）
❹ ライト / 方向指示器（ウィンカー）スイッチ（P. 95）
❺ ドアミラー調節スイッチ（P. 101）
❻ パワーウィンドースイッチ（P. 92）
❼ フューエルリッドオープナー（P. 196）
❽ ボンネット解除ノブ（P. 202）
❾ SRS エアバッグシステム（運転席用）（P. 17）
❿ パーキングブレーキ（P. 183）
⓫ 発炎筒（P. 219）

目次

■はじめに …… 6
安全に関する表示 …… 6
その他の表示 …… 6
サービス診断記録装置について … 6
データの開示について …… 7
■安全なドライブ …… 8
安全なドライブのために …… 8
安全のための確認事項 …… 8
シートベルト …… 9
シートベルトの着用 …… 11
シートベルトの点検 …… 15
シートベルトのアンカーポイント …… 16
エアバッグ …… 17
エアバッグの種類 …… 17
SRS エアバッグ …… 17
サイドエアバッグ* …… 20
サイドカーテンエアバッグ* … 22
エアバッグシステム警告灯 …… 24
エアバッグのお手入れ …… 25
お子さまの安全 …… 26
お子さまの安全を守るために … 26
乳幼児の安全 …… 27
大きなお子さまの安全 …… 42
排気ガスの危険性 …… 44
一酸化炭素について …… 44
■計器の見かた …… 45
警告灯と表示灯 …… 45
警告灯 …… 45
表示灯 …… 56
マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ … 59
メーターとマルチインフォメーションディスプレイ …… 67
メーター …… 67
マルチインフォメーションディスプレイ …… 68
エコアシストシステム …… 74
■各部の操作 …… 75
時刻の設定 …… 75
時計の時刻を合わせる …… 75
ドアの施錠と解錠 …… 77
キーの種類と機能 …… 77
Honda スマートキーの微弱電波 …… 79
車外でのドアの施錠 / 解錠 …… 80
車内での施錠 / 解錠 …… 82
チャイルドプルーフ …… 83
テールゲートの開閉 …… 84
テールゲート開閉時の注意 …… 84
スライドドアの開閉 …… 85
スライドドアの開閉時の注意 … 85
スライドドアの開閉操作 …… 86
パワースライドドアの開閉操作* …… 86
イージードアクローザー …… 88
セキュリティシステム …… 89
イモビライザーシステム …… 89
セキュリティアラームシステム …… 89
ウィンドーの開閉 …… 91
パワーウィンドーの開閉 …… 91
ハンドルまわりのスイッチ操作 … 93
POWER スイッチ …… 93
アクティブコーナリングライト* …… 94
ライトスイッチ …… 95
ヘッドライトレベリングダイヤル* …… 95
ワイパー / ウォッシャー …… 97
リヤデフロスター / ヒーテッドドアミラー* スイッチ …… 99
フロントガラス熱線スイッチ* … 99
イルミネーションコントロール …… 100
ハンドルの調節 …… 100
ミラー類の調節 …… 101
ルームミラー …… 101
ドアミラー …… 101

シートの調節 …… 102
フロントシート …… 102
セカンドベンチシート❖ …… 104
セカンドキャプテンシート❖ … 109
サードシート❖ …… 111
フラットシート …… 114
ヘッドレスト …… 115
アームレスト …… 117
室内装備品 …… 118
エアコン …… 126
エアコンの吹き出し口 …… 126
オートエアコンの使いかた …… 127
オートエアコンのセンサー …… 127
■オーディオ …… 128
オーディオ装置❖ …… 128
アンテナ …… 128
■運転 …… 129
運転の前に …… 129
運転の準備 …… 129
運転操作 …… 132
パワーシステムの起動 …… 132
走行時の注意点 …… 134
デュアルクラッチトランス
ミッションについて …… 134
シフト操作 …… 135
ECON スイッチ …… 139
車両接近通報装置 …… 139
クルーズコントロール❖ …… 140
信号情報活用運転支援
システム …… 143
フロントセンサーカメラ❖ …… 147
歩行者事故低減ステア
リング❖ …… 148
路外逸脱抑制機能❖ …… 151
先行車発進お知らせ機能❖ …… 155
ACC（アダプティブクルーズ
コントロール）❖ …… 157
標識認識機能❖ …… 167
LKAS（車線維持支援
システム）❖ …… 171
VSA（ビークルスタビリティ
アシスト） …… 178
REAL TIME AWD
（オールホイールドライビング）
システム❖ …… 179
高電圧バッテリーの特性 …… 179
ご使用時の注意 …… 180
ハイブリッド車特有の音に
ついて …… 182
ブレーキ操作 …… 183
ブレーキシステム …… 183
ABS（アンチロックブレーキ
システム） …… 184
電子制御ブレーキアシスト … 184
エマージェンシーストップ
シグナル …… 185
衝突軽減ブレーキ
（CMBS）❖ …… 186
駐停車操作 …… 194
リアカメラシステム❖ …… 195
給油 …… 196
給油のしかた …… 196
■メンテナンス …… 199
メンテナンスの前に …… 199
点検整備について …… 199
メンテナンスを安全に行う
ために …… 200
**エンジンルーム内の
メンテナンス** …… 201
エンジンルーム内のメンテナンス
項目 …… 201
ボンネットを開ける …… 202
推奨エンジンオイル …… 203
ウィンドウォッシャー液の
補給 …… 203
電球の交換 …… 204
ヘッドライト電球 …… 204
前面方向指示器 / 前面非常点滅
表示灯電球 …… 206
車幅灯電球 …… 206
アクティブコーナリングライト
電球❖ …… 207
側面方向指示器 / 側面非常点滅
表示灯電球 …… 207

制動灯電球 …… 207
尾灯電球 …… 207
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球 …… 207
後退灯電球 …… 208
番号灯電球 …… 209
ハイマウントストップランプ電球 …… 209
ワイパーブレードラバーの点検と整備 …… 210
ワイパーブレードラバーの点検 …… 210
フロントワイパーブレードラバーの交換 …… 210
リヤワイパーブレードラバーの交換 …… 211
タイヤの点検と整備 …… 212
タイヤの点検 …… 212
タイヤとホイールの交換 …… 214
タイヤのローテーション …… 214
冬期のタイヤ …… 215
清掃 …… 216
アクセサリーと改造 …… 217
アクセサリー …… 217
改造や部品交換について …… 218
■万一の場合には …… 219
発炎筒 …… 219
パンクしたとき …… 220
パンクしたタイヤの応急修理 … 220
ジャッキの取り扱い …… 230
ジャッキのかけかた …… 230
パワーシステムが起動しない …… 233
パワーシステムの確認 …… 233
Honda スマートキーの電池が切れたとき …… 235
緊急時のパワーシステム停止方法 …… 235
ジャンプスタート …… 236
ジャンプスタートの方法 …… 236
オーバーヒート …… 239
オーバーヒートしたときの対処方法 …… 239
ヒューズ …… 241
ヒューズの設置場所 …… 241
ヒューズの点検と交換 …… 249
けん引 …… 250
非常時のけん引 …… 250
テールゲートが開かないとき … 253
■こんなときは …… 254
■仕様 …… 256
FREED …… 256
FREED+ …… 258
■索引 …… 260

はじめに

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意

指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス
お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

サービス診断記録装置について

この車には、システムを制御するためのコンピューターが搭載されており、次の内容をデータとして記録します。

- エアバッグシステムの故障診断情報
- エアバッグの作動に関する情報
- 動力伝達機構の状態
- 運転状態

HondaおよびHondaが委託した第三者は、記録されたデータを技術的な診断やHondaの車両の研究開発のために、取得、利用することがあります。
なお、会話等の音声や映像は記録されません。

データの開示について

HondaおよびHondaが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示、提供することはありません。

- お車の所有者または使用者の同意がある場合
- 裁判所命令等、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、使用者や車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

1 安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を確保してください。

安全なドライブのために

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
  ▶ 運転者と乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
  ➔ **シートベルトの着用** P. 11
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
  ▶ お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
  ➔ **お子さまの安全** P. 26

シートベルト

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■ 三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。
すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■ シートベルトの着用

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1 本のシートベルトを 2 人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

⚠警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。
シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

乗車中は正しい姿勢を保つ。
正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

■ シートベルトリマインダー



パワーモードを ON モードにしたときや走行したとき、運転席または助手席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーと警告灯でお知らせします。
マルチインフォメーションディスプレイにも警告が表示されます。

運転席または助手席のシートベルトを着用せずに走行した場合、停車するとブザーは止まります。また、走行している場合でも一定時間を超えるとブザーは止まります。

■ シートベルトプリテンショナー

フロントシートにはシートベルトプリテンショナーを装備しています。
シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向や側面✤からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。

⚠注意

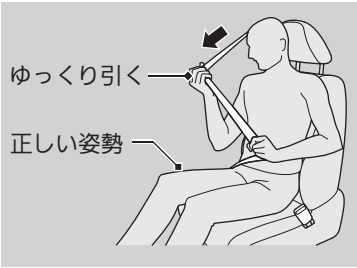
シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。
誤作動や故障の原因となります。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。

衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。
衝突したときは、Honda 販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

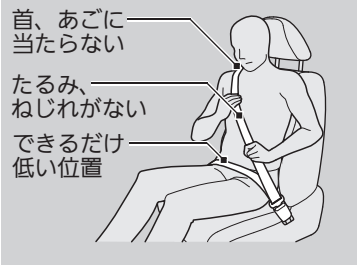
シートベルトの着用



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。



3. タングプレートをバックルに差し込む。
   ▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないようにしてください。



4. シートベルトが正しく着用できているか確認する。
   ▶ 肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。
   ▶ 腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。
   ▶ ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。
5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

⚠警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠注意

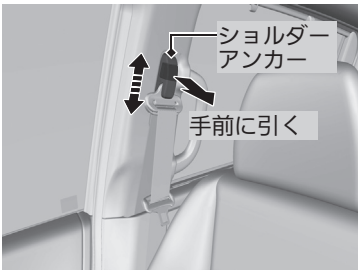
肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。
シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをするおそれがあります。

シートベルトを外すには、バックルの赤色の PRESS を押してください。
そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

■ ショルダーアンカーの高さ調節



フロントシートのシートベルトは、座高に合わせて、ショルダーアンカーの高さを調節してください。

1. ショルダーアンカーの解除ボタンをつまんで手前に引きながら、アンカーを上下に動かす。
2. 適切な高さで解除ボタンを離し、ショルダーアンカーを固定する。

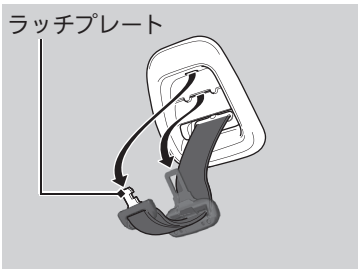
⚠注意

調節後は、ショルダーアンカーが確実に固定されているか確認する。

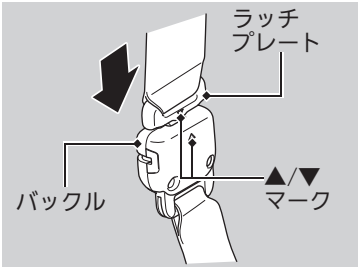
安全性を高めるため、肩ベルトが肩から胸にかかっていることを確認してください。

ベルトが首やあごに当たるときは、下げて調節してください。

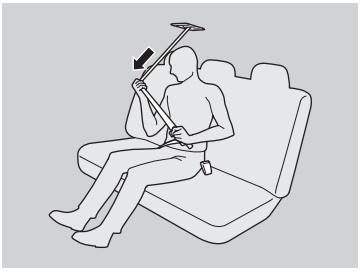
■ 分離収納式シートベルト*



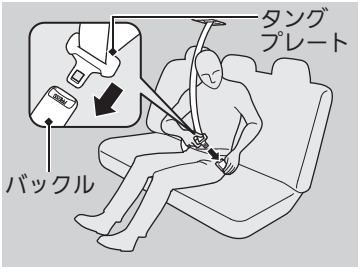
1. 天井の固定部からシートベルトのラッチプレートを外す。



2. ラッチプレートを引き出し、▲ マークがついているバックルに差し込む。
   ▶ ラッチプレートの▼マークとバックルの▲マークを合わせて差し込みます。

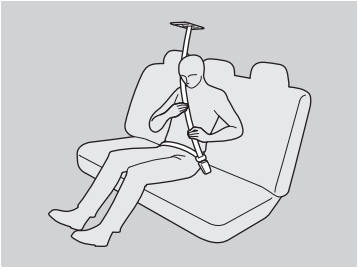


3. 正しい姿勢でシートにすわる。
4. タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出す。

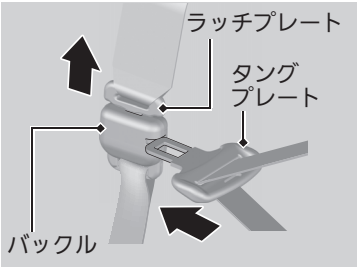


5. タングプレートをバックルに差し込む。
   ▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないように注意します。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。



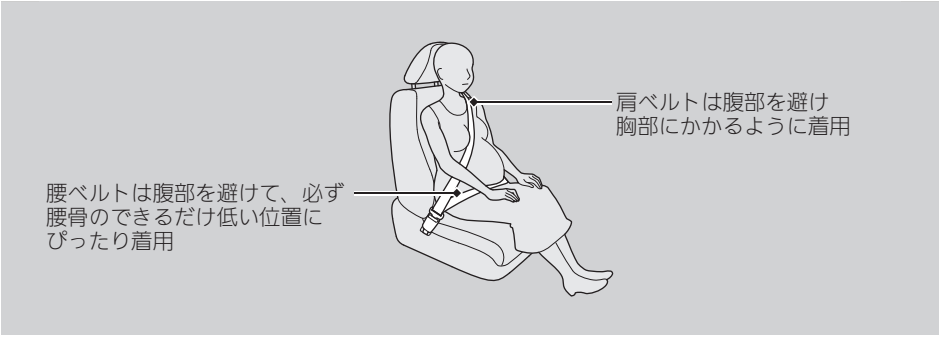
6. ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかるように合わせる。
7. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。



シートベルトを分離・収納するときは、タングプレートを ▲ マークがついているバックルの溝に差し込み、ラッチプレートを外してください。

■ 妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



⚠注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。
万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点を注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

シートベルトの点検

シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

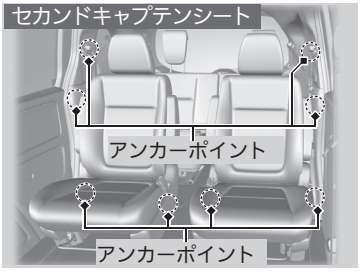
ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。
ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトのアンカーポイント

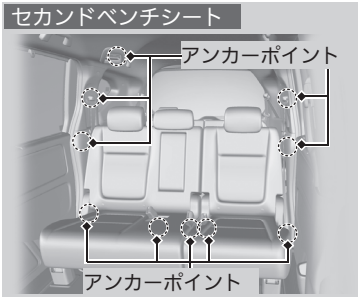


シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。
フロントシートには三点式シートベルトが使われています。



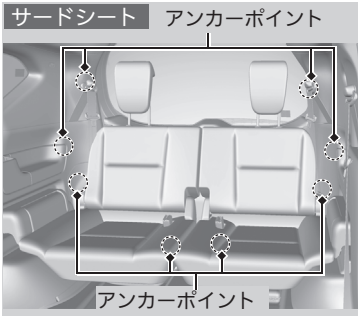
セカンドキャプテンシート装備車

セカンドキャプテンシートには三点式シートベルトが使われています。



セカンドベンチシート装備車

セカンドベンチシートには三点式シートベルトが使われています。



サードシート装備車

サードシートには三点式シートベルトが使われています。

エアバッグ

エアバッグの種類

- **SRS エアバッグ:** フロントシートの前方向エアバッグ
- **サイドエアバッグ*:** フロントシートの横方向エアバッグ
- **サイドカーテンエアバッグ*:** 窓側の天井部両側についたエアバッグ

⚠警告

エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。
エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

⚠注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。
エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。
エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS: サプリメンタルレストレイントシステム(Supplemental Restraint System)の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ 格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

■ 作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

■ SRS エアバッグの作動

前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRS エアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRS エアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
- 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

衝撃を吸収できるもの（車やガードレールのように変形するもの）に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRS エアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。

- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小と SRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。
SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。
SRS エアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

⚠注意

SRS エアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

サイドエアバッグ*

側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

⚠注意

ドアやその周辺にアクセサリーなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。
正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ収納部に衝撃や無理な力を加えない。

サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。
フロントシートへのシートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

■ 格納場所



運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。
どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ 作動のしくみ

サイドエアバッグは、約 30km/h 以上の速度で自車と同等の車が真横から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたときに運転席または助手席のサイドエアバッグが膨らみます。

車両側面に斜めから衝突された場合、サイドエアバッグが作動するときの車速は高くなります。

■ 作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、サイドエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

⚠注意

ドアに寄りかからない。
サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。
セカンドシート同乗者は、フロントシートの背もたれを抱えない。
サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

サイドカーテンエアバッグ*

窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

⚠注意

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーなどを取り付けない
- グラブレールにものをかけない
- ユーティリティーフックに重いものやとがったものをかけない

サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

⚠注意

サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。

収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、Honda 販売店で交換してください。

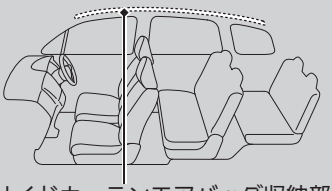
サイドカーテンエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

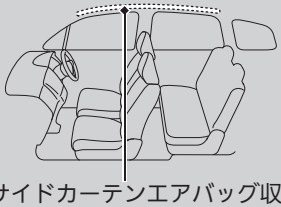
■ 格納場所

3 列シート装備車



サイドカーテンエアバッグ収納部

3 列シート非装備車



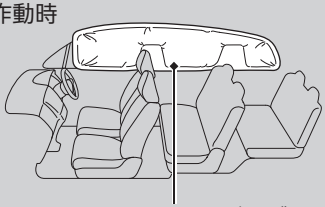
サイドカーテンエアバッグ収納部

運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。
どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

■ 作動のしくみ

3 列シート装備車

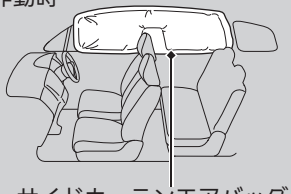
作動時



サイドカーテンエアバッグ

3 列シート非装備車

作動時



サイドカーテンエアバッグ

サイドカーテンエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で側面方向から衝突したときです。運転席側または助手席側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

■ 作動条件

サイドカーテンエアバッグの作動条件は、サイドエアバッグと同じ条件です。

作動条件 P. 21

■ 前方向から衝突したときの作動

前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRS エアバッグが膨らんだあと必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯やマルチインフォメーションディスプレイで知らせます。

■ エアバッグシステム警告灯



■ パワーモードを ON モードにしたとき

パワーモードを ON モードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

⚠警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。

エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

パワーモードを ON モードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■ エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。
また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。

- お子さまはセカンドシートまたはサードシート✤に乗せる
  ▶ お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。
  また、SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
  ▶ お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
  ▶ 乳幼児を乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 車外に手や顔、ものを出さない
  ▶ 走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
  ▶ 思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
  ▶ お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

⚠警告

チャイルドシートは後席に設置する。
助手席に設置すると SRS エアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

⚠警告



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。
お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

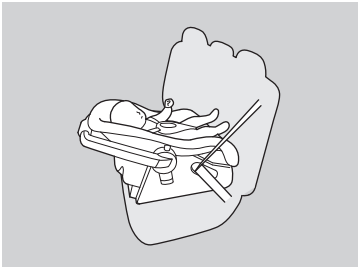
お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRS エアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- サイドエアバッグシステム装備車は、お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

■ 乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■ 後ろ向きのチャイルドシートの設置場所

セカンドシートまたはサードシート ✤ に設置することができます。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

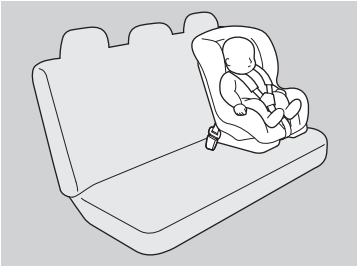
⚠警告

後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。
前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。
助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

■ 幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■ 前向きのチャイルドシートの設置場所

セカンドシートまたはサードシート ❖ への設置を推奨します。

⚠警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。
助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎていたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されると SRS エアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。
やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

この「❖」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたはISOFIX チャイルドシートをお選びください。
シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。ISOFIX チャイルドシートは、セカンドシート外側 2 座席に付属しているロアアンカレッジと、トップテザーアンカレッジで固定するため取り付けが簡単です。

■ チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の 3 つの条件を満たしている必要があります。

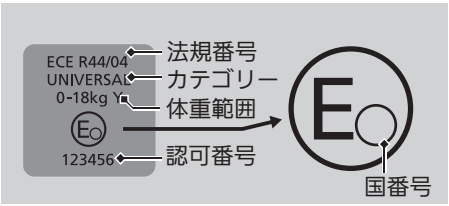
- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること
  UN-ECE R44 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

■ チャイルドシートの規格

UN 基準の認可を受けたシートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX チャイルドシートには、認可マークが表示されています。チャイルドシートについている認可マークを確認してください。

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

UN-ECE R44 認可表示（例）



■ ISOFIX チャイルドシートについて

この車のセカンドシートの外側 2 座席には、ISOFIX チャイルドシートを取り付けるためのロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジを装備しています。
次ページの表を参照して、それぞれの着席位置で、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

■ ISOFIX チャイルドシート

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

重量区分	サイズ等級	固定具	座席位置			
			前席	2 列目席		3 列目席✤
			助手席	外側席	中央席	左右席
キャリコット	F	ISO/L1	—	X	—	—
	G	ISO/L2	—	X	—	—
0 ～ 10kg 以下	E	ISO/R1	—	IL*1	—	—
0+ ～ 13kg 以下	E	ISO/R1	—	IL*1	—	—
	D	ISO/R2	—	IL*2	—	—
	C	ISO/R3	—	IL*2	—	—
I 9kg ～ 18kg	D	ISO/R2	—	X	—	—
	C	ISO/R3	—	X	—	—
	B	ISO/F2	—	IUF, IL*3	—	—
	B1	ISO/F2X	—	IUF, IL*3	—	—
	A	ISO/F3	—	IUF, IL*3	—	—
II 15kg ～ 25kg	—	—	—	X	—	—
III 22kg ～ 36kg	—	—	—	X	—	—

記号の説明

IUF: 汎用(ユニバーサル)ISOFIX チャイルドシートを前向きに備えることができることを示す。
IL*1: Honda Baby ISOFIX、Honda ISOFIX NEO を後ろ向きに備えることができることを示す。
IL*2: Honda ISOFIX NEO を後ろ向きに備えることができることを示す。
IL*3: Honda ISOFIX NEO を前向きに備えることができることを示す。
X: ISOFIX チャイルドシートを装備できないことを示す。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	―
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高

Honda 純正 Honda Baby ISOFIX または Honda ISOFIX NEO のご購入は Honda 販売店にご相談ください。

■ シートベルトで固定するチャイルドシートについて

この車には様々なタイプのチャイルドシートが利用可能ですが、すべてのタイプが適当であるというわけではありません。
次の表を参照して、それぞれの着席位置で、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

■ シートベルト固定タイプチャイルドシート

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

重量区分	座席位置			
	前席	2 列目席		3 列目席✤
	助手席	外側席	中央席	左右席
グループ 0 ～ 10kg	X	U	U	U
グループ 0+ ～ 13kg	X	U	U	U
グループ I 9kg ～ 18kg	UF	U	U	U
グループ II 15kg ～ 25kg	UF	U	U	U
グループ III 22kg ～ 36kg	UF	U	U	U

記号の説明

U:　汎用(ユニバーサル)チャイルドシートを備えることができることを示す。
UF:　汎用(ユニバーサル)チャイルドシートを前向きに備えることができることを示す。
X:　チャイルドシートを装備できないことを示す。

チャイルドシートに関する国連の安全基準である UN-ECE R44 に適合しているチャイルドシートには、シートベルトで固定する機構が付いています。

チャイルドシートをご購入する際は、重量グループに一致したものをお選びください。

チャイルドシートの種類や取り付けの向きにより固定金具(ロッキングクリップ)が必要になる場合があります。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ ISOFIX チャイルドシートについて

この車のセカンドシートには、ISOFIX チャイルドシートを取り付けるためのロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジを装備しています。
次ページの表を参照して、それぞれの着席位置で、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

■ ISOFIX チャイルドシート

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

重量区分	サイズ等級	固定具	座席位置		
			前席	2 列目席	3 列目席
			助手席	左右席	左右席
キャリコット	F	ISO/L1	—	X	—
	G	ISO/L2	—	X	—
0　～ 10kg 以下	E	ISO/R1	—	IL*1	—
0+　～ 13kg 以下	E	ISO/R1	—	IL*1	—
	D	ISO/R2	—	IL*2	—
	C	ISO/R3	—	IL*2	—
I　9kg ～ 18kg	D	ISO/R2	—	X	—
	C	ISO/R3	—	X	—
	B	ISO/F2	—	IUF, IL*3	—
	B1	ISO/F2X	—	IUF, IL*3	—
	A	ISO/F3	—	IUF, IL*3	—
II　15kg ～ 25kg	—	—	—	X	—
III　22kg ～ 36kg	—	—	—	X	—

記号の説明

IUF:　汎用(ユニバーサル)ISOFIX チャイルドシートを前向きに備えることができることを示す。
IL*1:　Honda Baby ISOFIX、Honda ISOFIX NEO を後ろ向きに備えることができることを示す。
IL*2:　Honda ISOFIX NEO を後ろ向きに備えることができることを示す。
IL*3:　Honda ISOFIX NEO を前向きに備えることができることを示す。
X:　ISOFIX チャイルドシートを装備できないことを示す。

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1	乳児	左	寝台式
ISO/L2	乳児	右	寝台式
ISO/R1	乳児	後ろ	—
ISO/R2	幼児	後ろ	小型
ISO/R3	幼児	後ろ	大型
ISO/F2	幼児	前	低型
ISO/F2X	幼児	前	低型
ISO/F3	幼児	前	全高

Honda 純正 Honda Baby ISOFIX または Honda ISOFIX NEO のご購入は Honda 販売店にご相談ください。

■ シートベルトで固定するチャイルドシートについて

この車には様々なタイプのチャイルドシートが利用可能ですが、すべてのタイプが適当であるというわけではありません。
次の表を参照して、それぞれの着席位置で、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

■ シートベルト固定タイプチャイルドシート

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

重量区分	座席位置		
	前席	2 列目席	3 列目席
	助手席	左右席	左右席
グループ 0 ～ 10kg	X	U*1	U
グループ 0+ ～ 13kg	X	U*1	U
グループ I 9kg ～ 18kg	UF	U*1	U
グループ II 15kg ～ 25kg	UF	U*1	U
グループ III 22kg ～ 36kg	UF	U*1	U

記号の説明

U: 汎用(ユニバーサル)チャイルドシートを備えることができることを示す。
UF: 汎用(ユニバーサル)チャイルドシートを前向きに備えることができることを示す。
*1: 後ろ向きチャイルドシートを取り付ける場合、シートバックを最も前のロック位置に調節すること。
X: チャイルドシートを装備できないことを示す。

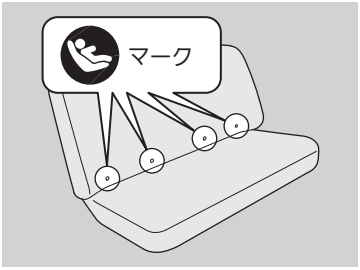
チャイルドシートに関する国連の安全基準である UN-ECE R44 に適合しているチャイルドシートには、シートベルトで固定する機構が付いています。

チャイルドシートをご購入する際は、重量グループに一致したものをお選びください。

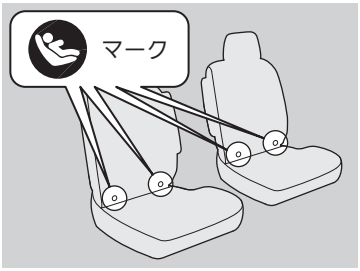
チャイルドシートの種類や取り付けの向きにより固定金具(ロッキングクリップ)が必要になる場合があります。

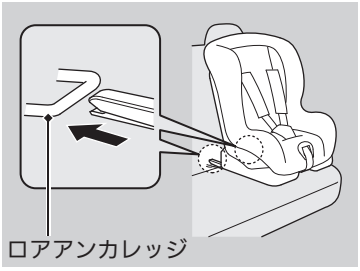
■ ISOFIX チャイルドシートの取り付け

ISOFIXチャイルドシートは、セカンドシート外側2座席に設置できます。チャイルドシートは、ロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定します。



1. マークの下のシートクッションと背もたれのすき間からロアアンカレッジを確認する。





2. セカンドシートの背もたれが、手前の位置になっていることを確認する。
➡ **背もたれ角度の調節** P. 105, 110
3. チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートの取扱説明書にしたがってロアアンカレッジに取り付ける。
   ▶ 取り付けの際に、異物やシートベルトなどがロアアンカレッジにかみ込まないようにしてください。





トップテザーストラップ付きチャイルドシート

4. ヘッドレストを調節して最上段で固定する。トップテザーストラップが 1 本タイプの場合はストラップをヘッドレストの下に通し、2本タイプの場合はヘッドレストの外側に通す。
   ▶ このときトップテザーストラップがねじれないように注意してください。

   FREED+

   ▶ トップテザーストラップを取り付ける前に、背もたれのボードが格納されていることを確認してください。

   ➔ **エクステンションボード** P. 108
5. トップテザーストラップをトップテザーアンカレッジに引っかけ、ストラップを締める。
6. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

FREED セカンド
ベンチシート

1 本タイプ



FREED セカンド
ベンチシート

2 本タイプ

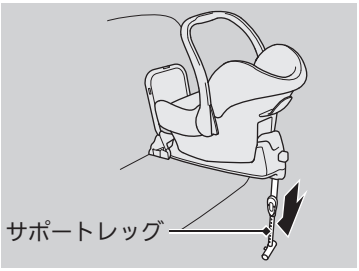


FREED セカンド
キャプテンシート

1 本タイプ







サポートレッグ付きチャイルドシート

4. サポートレッグをチャイルドシートの取扱説明書にしたがってフロアにつくまで伸ばす。
   ▶ サポートレッグを設置するフロア面は平坦な面であることを確認してください。シートの前後位置によっては、サポートレッグの設置フロア面が平坦ではなく安定しない場合があります。その場合は、シート前後位置を調整して下さい。

⚠注意

ロアアンカレッジ周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。
異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

セカンドシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにシートといっしょにチャイルドシートが動き、傷害を受けるおそれがあります。

ISOFIX チャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

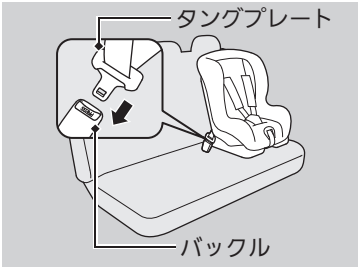
⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

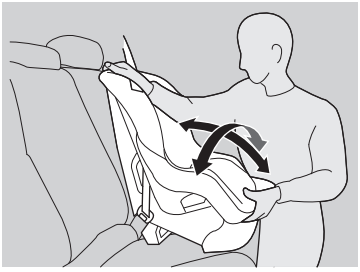
⚠注意

トップテザーアンカレッジシンボルが無いフックに、トップテザーストラップを使用しないでください。

■ シートベルトでの取り付け



1. チャイルドシートを座席に置く。
2. シートベルトをチャイルドシートに通し、タングプレートをバックルに差し込む。
   ▶ このとき、バックルが「カチッ」という音がするまできちんと差し込んでください。



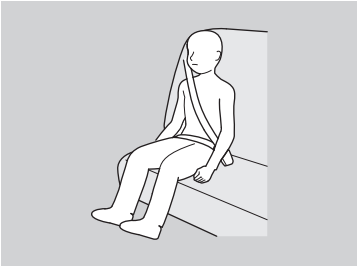
3. チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。
4. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

大きなお子さまの安全

幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、セカンドシートまたはサードシート✤に乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

⚠警告

お子さまは助手席に乗せない。

お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。

やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

やむをえずお子さまを助手席に乗せる場合は、次ページの注意事項を厳守してください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ ジュニアシートについて

三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをセカンドシートまたはサードシート✤に設置して使用してください。
安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

■ やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- 取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

排気ガスの危険性

一酸化炭素について

車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。
以下の場合は、排気ガスのもれがないか Honda 販売店で点検を受けてください。

■ 点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどして下さい。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。
ガレージのドアを閉めたままパワーシステムを起動させないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にパワーシステムを起動するようにしてください。

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、メーター類に関する情報を記載しています。

警告灯と表示灯

警告灯

警告灯	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
ブレーキ警告灯（レッド）※ 	• パーキングブレーキをかけると点灯 • ブレーキフルード量が低下したときに点灯 • ブレーキシステムが異常のときに点灯	• 走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合はただちにHonda販売店で点検を受けてください。 • ABS 警告灯と同時に点灯した場合も、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。 • ブレーキシステム警告灯（オレンジ）と同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店で点検を受けてください。 このとき、ブレーキペダルの操作が重くなることがありますので、ブレーキペダルをしっかり踏んでください。	

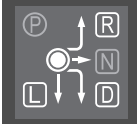
※：パワーモードをONモードにすると点灯し、数秒後またはパワーシステムを起動すると消灯します。

警告灯	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
油圧 警告灯※ 	• エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯	• **走行中に点灯** = ただちに安全な場所に車を停車し、対処してください。 **点灯したらすぐにすること** 1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。 2. 非常点滅表示灯を点滅させる。 **車を停車してからすること** 1. パワーシステムを停止させ、3 分間ほど放置する。 2. ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。 ▶ 必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。 3. パワーシステムを起動し、油圧警告灯を確認する。 ▶ **消灯した:** 運転を再開してください。 ▶ **10 秒以内に消灯しない:** パワーシステムを停止させ、ただちにHonda販売店に修理を依頼してください。 アドバイス • 油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。	

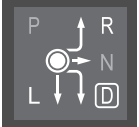
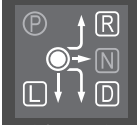
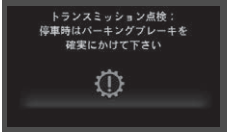
※: パワーモードをONモードにすると点灯し、数秒後またはパワーシステムを起動すると消灯します。

警告灯	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
PGM-FI 警告灯※ 	• パワーシステムを起動していないときは数十秒後消灯 • エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯 • エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅	**点灯したときは** • 高速走行を避けてただちにHonda販売店で点検を受けてください。 アドバイス • PGM-FI　警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。 **点滅したときは** • 枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上パワーモードをOFFモードにして冷えるのをお待ちください。 アドバイス • エンジン再始動後、警告灯が再び点滅するときは、50km/h以下の速度で最寄りのHonda販売店まで走行し点検を受けてください。	
ブレーキシステム警告灯(オレンジ)※ 	• ブレーキに関係するシステムが異常のときに点灯 • 電動サーボシステムが異常のときに点灯	• 運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。	 
	• ヒルスタートアシストシステムが異常のときに点灯	• ヒルスタートアシストシステムが故障して作動しません。Honda 販売店で点検を受けてください。	

※:パワーモードをONモードにすると点灯し、数秒後またはパワーシステムを起動すると消灯します。

警告灯	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
12V バッテリー充電警告灯※ 	• 12V バッテリーが充電されていないと点灯	安全な場所に停車して、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。 • 一時的に停車する場合は、パワーシステムを停止させないでください。パワーシステムの起動は、12V バッテリーを使用しますので、再起動できなくなるおそれがあります。 • 外気温－30℃以下でパワーシステムを起動すると警告灯が点灯することがあります。高電圧バッテリーの温度が上がると消灯します。	
トランスミッション警告灯 	• トランスミッションを調整しているときに全てのシフトポジションが点灯	• 点灯中は一時的に加速ができません。 • 異常がなければ数秒後に消灯します。 • 消灯後は通常通り走行できます。	
 （全点灯）	• トランスミッションが異常のときに選択しているシフトポジションが点滅	• 急発進、急加速を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	

※: パワーモードをONモードにすると点灯し、数秒後またはパワーシステムを起動すると消灯します。

警告灯	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
	• トランスミッションの異常で走行できないとき、選択しているシフトポジションもしくは全てのシフトポジションが点滅	• ただちに安全な場所に車を停車してください。 ➡ **非常時のけん引** P. 250 • Honda販売店で点検を受けてください。	
トランスミッション警告灯   （全点灯）	• トランスミッションの異常が発生し、シフトポジションをPにできないとき、選択しているシフトポジションもしくは全てのシフトポジションが点滅	• 応急的にパワーシステムを起動できる場合があります。 • パワーシステムを起動するときは、シフトポジションをNにします。 ▶ 表示灯のNが点灯 / 点滅しているのを確認してください。 ▶ パーキングブレーキがかかっていないと起動しません。 ➡ **パワーシステムの起動** P. 132 • システムを起動できないことがあります。 • 走行できないときは、専門業者に連絡してください。 ➡ **非常時のけん引** P. 250 • 停車するときはパーキングブレーキをかけてください。 • ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	

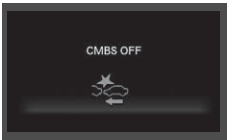
警告灯	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
シートベルト非着用警告灯	• 運転席および助手席のシートベルトを着用しないと点灯	• シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。	
燃料残量警告灯	• 燃料の残量が少なくなると点灯 • 点灯するのは、タンクに残って いる残量がおよそ 6.3 リットル(2WD 車)、6.0 リットル(AWD 車)になったときです。 • 燃料計に異常があるときは点滅	• 点灯したら早めに給油してください。 • 点滅したときは、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	
ACC(アダプティブクルーズコントロール)警告灯※(オレンジ) ACC	• ACC システムが異常のときに点灯	• 運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
LKAS(車線維持支援システム)警告灯※(オレンジ) LKAS	• LKAS が異常のときに点灯	• 常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	

※:パワーモードをONモードにすると点灯し、数秒後またはパワーシステムを起動すると消灯します。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯※ 	• ABS が異常のときに点灯	• 点灯したときは、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されていますが、ABS は作動しません。 ➔ **ABS(アンチロックブレーキシステム)** P. 184	
エアバッグシステム警告灯※ 	• 下記の異常を検出すると点灯 ▶エアバッグシステムの異常 ▶プリテンショナーシステムの異常	• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	
高水温警告灯(レッド)※ 	• エンジン冷却水の温度が上がると点滅し、さらに上がると点灯	• エンジン冷却水の温度が低いときは、消灯後ブルーで点灯します。 ➔ **低水温表示灯(ブルー)** P. 56	—
		• **走行中に点滅** = ゆっくり走行してください。	
		• **走行中に点灯** = ただちに安全な場所に停車し、エンジンを冷やしてください。 ➔ **オーバーヒート** P. 239	

※:パワーモードをONモードにすると点灯し、数秒後またはパワーシステムを起動すると消灯します。

警告灯	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
パワーシステム警告灯※ POWER SYSTEM	• パワーシステムが異常のときに点灯	• **走行中に点灯**＝ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	
VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯※	• VSA が作動しているときは点滅 • ブレーキアシストシステム、VSA システムのいずれかが異常のときに点灯	• 運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 ➔ **VSA(ビークルスタビリティアシスト)** P. 178	
VSA OFF 警告灯※ OFF	• VSA を OFF にすると点灯	—	—
CMBS(衝突軽減ブレーキ)警告灯✤※	• CMBS を OFF にしているとき点灯 • CMBS に異常があるとき点灯	• OFF にしていないのに点灯する場合は、いくつかの理由が考えられます。 ➔ **衝突軽減ブレーキ(CMBS)✤** P. 186	 
	• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下るとシステムは復帰します。	

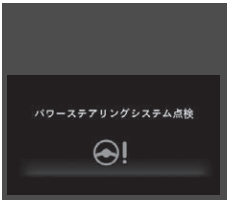
※:パワーモードをONモードにすると点灯し、数秒後またはパワーシステムを起動すると消灯します。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
CMBS（衝突軽減ブレーキ）警告灯✤※	• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➔ **フロントセンサーカメラ✤** P. 147 ➔ **衝突軽減ブレーキ（CMBS）✤** P. 186	
	• フロントロアグリルが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいとき点灯	• 安全な場所に停車してフロントロアグリルの汚れをふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➔ **衝突軽減ブレーキ（CMBS）✤** P. 186	

※: パワーモードをONモードにすると点灯し、数秒後またはパワーシステムを起動すると消灯します。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯※	• EPS(電動パワーステアリング)システムの機能に異常があると点灯	• 常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 **点灯したらすること** • 安全な場所に停車し、パワーシステムを再起動する。	
AWD(オールホイールドライブ)システム警告灯✤※	• AWD システムが異常のとき点灯 • AWD システムがオーバーヒートしたとき点滅	• **走行中に点灯** = 前輪駆動での走行になります。急発進、急加速を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • **走行中に点滅** = 前輪駆動での走行になります。安全な場所に車を停め、パーキングスイッチを押して、アイドリング運転を行い、消灯するまでお待ちください。消灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ➡ **REAL TIME AWD (オールホイールドライビング)システム✤** P. 179	 

※:パワーモードをONモードにすると点灯し、数秒後またはパワーシステムを起動すると消灯します。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

警告灯	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ
路外逸脱抑制機能警告灯*※ 	• 路外逸脱抑制システムに異常があるとき点灯	• 点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
	• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下がるとシステムは復帰します。	
	• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➡ **フロントセンサーカメラ*** P. 147 ➡ **路外逸脱抑制機能*** P. 151	
	• フロントロアグリルが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいとき点灯	• 安全な場所に停車してフロントロアグリルの汚れをふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➡ **路外逸脱抑制機能*** P. 151	

※: パワーモードを ON モードにすると点灯し、数秒後またはパワーシステムを起動すると消灯します。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

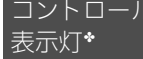
表示灯

表示灯	点灯 / 点滅する状況	知識
方向指示器 表示灯 / 非常点滅表示灯 	• 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 • 高速で走行中に急ブレーキをかけると、左右同時に点滅	• 点滅しない / 点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。 ➔ **電球の交換** P. 206, 207, 207 ➔ **エマージェンシーストップシグナル** P. 185
ハイビーム 表示灯 	• ヘッドライトを上向きにしたときに点灯	—
ライト点灯 表示灯 	• ライトスイッチが OFF 以外のときに点灯(AUTO✤ のときは車幅灯点灯時に点灯)	• ライトを点灯したままパワーモードをOFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。
低水温表示灯 (ブルー) 	• エンジン冷却水の温度が低いときに点灯	• 暖機を十分にした状態で、表示灯が点灯したままのときは、温度センサーなどの異常が考えられます。Honda 販売店で点検を受けてください。
インフォメーション表示灯 	• 異常を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、同時に警告音も鳴り、点灯	• メッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたときは、表示灯、警告灯の該当ページを参照して、必要な処置を行ってください。 • メッセージは、警告が解除されるか、インフォメーション(i)スイッチ(▲/▼)を押すまで通常表示に戻りません。 • 点灯しているときにインフォメーション(i)スイッチ(▲/▼)を押すと、メッセージを再表示させる事ができます。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

表示灯	点灯 / 点滅する状況	知識
EV 表示灯※ EV	• モーターだけでの走行になると点灯	—
READY 表示灯 READY	• パワーシステム起動後、走行が可能な状態のときに点灯	• トランスミッション警告灯が点灯すると消灯します。 ➡ **パワーシステムの起動** P. 132
セキュリティアラームシステム作動表示灯 ●	• POWER を押したとき、イモビライザーシステムがキーの情報を認識できないと点滅	• POWER を押したあと、点滅しているときは、パワーシステムを起動することはできません。パワーモードをいったん OFF モードにしてから、もう一度 ON モードにしてください。 • 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合は、システムの異常が考えられますので Honda 販売店で点検を受けてください。
	• セキュリティアラームシステムがセットされているときに点滅	➡ **セキュリティアラームシステム** P. 89
シフトポジション表示灯 	• 現在のポジションで点灯	—

※: パワーモードを ON モードにすると点灯し、数秒後またはパワーシステムを起動すると消灯します。

表示灯	点灯 / 点滅する状況	知識
クルーズメイン表示灯* 	• CRUISE スイッチを押して、クルーズコントロールをONにすると点灯	➔ クルーズコントロール* P. 140
クルーズコントロール表示灯* 	• クルーズコントロールで自動定速走行しているときに点灯	➔ クルーズコントロール* P. 140
ACC(アダプティブクルーズコントロール)表示灯*(グリーン) 	• MAIN スイッチを押して、ACC を ON にすると点灯	➔ ACC(アダプティブクルーズコントロール)* P. 157
LKAS(車線維持支援システム)表示灯*(グリーン) 	• MAIN スイッチを押して、LKAS を ON にすると点灯	➔ LKAS(車線維持支援システム)* P. 171

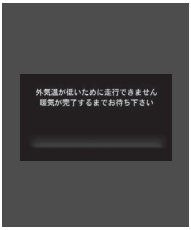
この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

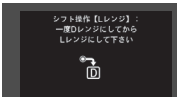
マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ

下記のメッセージはマルチインフォメーションディスプレイにのみ表示されます。
再表示させるときはインフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押してください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 走行中、車両の異常で走行できないときに表示	• ただちに安全な場所に車を停車してください。
	• 車両の異常でシフトポジションを P にできないときに表示	• 停車したときはパーキングブレーキをかけてください。 ➔ **パーキングブレーキ** P. 183 • 応急的にパワーシステムを起動できる場合があります。 • Honda 販売店で点検を受けてください。
	• パワーモードを再度ONモードにすることで、走行を続けられるときに表示	➔ **パワーシステムの起動** P. 132
	• パワーモードがONモードのときに、外気温が 3 ℃以下になると 1 回のみ表示	—
	• エンジンの冷却システムが異常のときに表示	• すみやかに Honda 販売店で点検を受けてください。
	• スターターシステムが異常のときに表示	• ブレーキを踏んだまま、POWER をパワーシステムが起動するまで約 15 秒間押し続けてください。表示が消えないときや再び表示した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	パワースライドドア装備車 • パワースライドドアシステムに異常があるとき表示	• パワースライドドアのメインスイッチをOFF にして、ドアの開閉は手動で行い、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 車両接近通報システムに異常があると表示	• ただちにHonda販売店で点検を受けてください。
	• Honda スマートキーシステムが異常のときに表示	• 下記のような場合、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。 ▶ 運転中に表示した ▶ パワーモードを OFF モードにしたときに数秒間表示した
	• パワーモードが ON モードで、Honda スマートキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたときに、警告音と同時に表示	• パワーモードONの作動範囲内にHonda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。
	• Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときに、警告音と同時に表示	—
	オートライトコントロール装備車 • オートライトコントロールシステムに異常があると表示	• 運転中に表示された場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、Honda 販売店で点検を受けてください。 ➔ **ライトスイッチ** P. 95
	オートライトコントロール装備車 • ロービームヘッドライトの機能に異常があると表示	• 運転中に表示された場合は、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。
	• Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときやHonda スマートキーが車内にないときにPOWERスイッチを押すと、警告音と同時に表示	➔ **Hondaスマートキーの微弱電波** P. 79 ➔ **POWERスイッチ** P. 93 ➔ **Hondaスマートキーの電池が切れたとき** P. 235

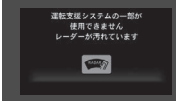
メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 12V バッテリーセンサーの機能に異常があると表示	• ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • **12V バッテリー充電警告灯が同時に点灯しているとき** = 電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどを OFF にし、対処してください。
	• 外気温の影響により高電圧バッテリーの温度が著しく低いとき（− 30 ℃以下）	• 高電圧バッテリーの温度が上昇するまで走行できません。 • アクセルを踏んでもエンジン回転数はあがりません。 • 車内を暖房すると高電圧バッテリーが暖まり、走行可能になるまでの時間を短縮できます。
	• パワーモードを ON にしたとき、高電圧バッテリーの充電が必要なため、継続して走行が必要なとき	• 運転を継続してください。必要ならメッセージが消えるまでアイドリングしてください。
	• 高電圧バッテリーの温度が極度に低いとき（− 40 ℃以下）	• バッテリー温度が上がるまでお待ちください。 または温度の高い所へ移動してください。 • 必要に応じて Honda 販売店に相談してください。
	• 12V バッテリー充電警告灯点灯後に表示	• 加速しにくくなります。また、上り坂などで発進が困難になる場合があります。 • ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	• 継続した低速走行により発電量が低下し、高電圧バッテリーの残量が著しく低下したとき	• 車速を上げることやブレーキを踏んで停車することで、高電圧バッテリーの残量低下を抑えることができます。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
 （レッド）	• さらに高電圧バッテリーの容量が低下し、充電するために停車が必要になったとき	• 安全な場所に停車し、シフトポジションをパーキングにして、アイドリング状態で高電圧バッテリーを充電します。
 （レッド）	• 高電圧バッテリーの容量が少ないため、停車後、アイドリングによる充電中のとき	• READY 表示灯が点灯するまでパーキングブレーキをかけて車を発進させないでください。 ➔ **READY 表示灯** P. 57
	• トランスミッションの温度が高温になり、通常走行ができないとき	• 加速しにくくなる場合や、上り坂などでの発進が困難になる場合があります。 • ただちに安全な場所に車を停車してください。 • メッセージが消えるまでアイドリングでトランスミッションを冷やしてください。 • メッセージ消灯後はただちにHonda 販売店で点検を受けてください。
	• パワーシステムを起動するときにP以外のシフトポジションが選択されているとき	• パーキングスイッチを押してください。
	• ブレーキペダルを踏まずに、シフトポジションのP Nから他のシフトポジションを選択したとき	• ブレーキペダルを踏んで、セレクトレバーの操作を行ってください。
	• アクセルペダルから足を離さずに、シフトポジションのP Nから他のシフトポジションを選択したとき	• アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んで、セレクトレバーの操作を行ってください。
	• D以外が選択されているときに、Lのシフトポジションを選択したとき	• Dを選択してからLを選択します。 ➔ **セレクトレバーの操作** P. 136

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 電気系統に失陥の可能性があると表示 • 走行中にパワーモードを OFF にすると表示	• ただちに安全な場所に車を停車してパーキングブレーキをかけてください。 • メッセージが消えれば異常はありません。 • 異常があるとトランスミッション警告灯が点灯 / 点滅します。 ➔ **トランスミッション警告灯** P. 48, 49
	• 走行中に POWER を押したときに表示	➔ **緊急時のパワーシステム停止方法** P. 235
	• 停車後にシフトポジションを N にし、5 秒以内に POWER スイッチを押したとき	• シフトポジションは N で保持されますが、約15分経過すると自動的に P になります。 ➔ **アクセサリーモード時の N ポジション保持制御** P. 137
	• 車両が停止中に運転者がシートベルトを外し、車両が動く可能性があるときに表示	• 停車中や車外に出るときは、ブレーキペダルから足を離す前にパーキングスイッチを押してください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• シフトポジションがNのときにアクセルペダルを踏むと表示	• アクセルペダルから足を離してください。 走行するときは、ブレーキペダルを踏んで、シフトポジションの操作を行ってください。
	• シフトポジションのPとそれ以外のポジション切り換え操作を短時間のあいだに繰り返すと表示	• しばらく時間をおいてからシフトポジションを切り換えてください。
	• トランスミッションに異常が発生し、シフトポジションをRにできないときに表示	• Honda 販売店で点検を受けてください。
	• シフトポジションがRへ移行するときに、通常より時間がかかる場合に表示	• メッセージが消えるまでブレーキペダルを踏み続けてください。 • Honda 販売店で点検を受けてください。
	• ドアとテールゲートが完全に閉まっていないときに表示	• ドアとテールゲートを完全に閉めると、表示が消えます。
	• シートベルトを着用しないで、パワーモードをONモードにすると表示 • ドアOpen自動パーキング選択制御により自動でPになった後、ドアを閉めずにシートベルトを装着しないままシフト操作し、ブレーキペダルを離すと表示	• 運転するときは、シートベルトを正しく着用してください。

ACC(アダプティブクルーズコントロール)装備車

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 衝突の可能性があるときブザーが断続的に鳴り警告が点滅	➔ **ACC(アダプティブクルーズコントロール)*** P. 157 ➔ **衝突軽減ブレーキ(CMBS)*** P. 186
	• フロントロアグリルに遮蔽物があり前の車両等が検知しにくくなり、ACC、先行車発進お知らせ機能、歩行者事故低減ステアリングが使用できなくなると表示	• 安全な場所でフロントロアグリルの遮蔽物を拭き取ってください。 ➔ **ACC(アダプティブクルーズコントロール)*** P. 157 ➔ **先行車発進お知らせ機能*** P. 155 ➔ **歩行者事故低減ステアリング*** P. 148
	• フロントセンサーカメラの温度が異常に上がり、ACC、LKAS、標識認識機能、歩行者事故低減ステアリングが使用できなくなると表示	• エアコンを使用して車内の温度を下げてください。 ➔ **フロントセンサーカメラ*** P. 147 ➔ **ACC(アダプティブクルーズコントロール)*** P. 157 ➔ **LKAS(車線維持支援システム)*** P. 171 ➔ **標識認識機能*** P. 167 ➔ **歩行者事故低減ステアリング*** P. 148
	• フロントガラスに遮蔽物があるとき、ACC、LKAS、標識認識機能、歩行者事故低減ステアリングが使用できなくなると表示	• 安全な場所でフロントガラスの遮蔽物を取り除いてください。 ➔ **フロントセンサーカメラ*** P. 147 ➔ **ACC(アダプティブクルーズコントロール)*** P. 157 ➔ **LKAS(車線維持支援システム)*** P. 171 ➔ **標識認識機能*** P. 167 ➔ **歩行者事故低減ステアリング*** P. 148

ACC(アダプティブクルーズコントロール)装備車

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 車線を越えそうになると、ハンドルの振動による警告と同時に表示	• ハンドル操作をして、車線の中央を走行してください。しばらくすると、警告メッセージが消えます。 ➔ **LKAS(車線維持支援システム)*** P. 171 ➔ **路外逸脱抑制機能*** P. 151
	• ハンドルから手を放したまま走行すると、警告音と同時に点滅	• ハンドル操作をすると、警告メッセージが消えます。 ➔ **路外逸脱抑制機能*** P. 151
	• LKAS システムに異常が起こり LKAS の作動が解除されたとき、または LKAS システムに異常がある場合に LKAS スイッチを押したときに警告音と同時に表示	• VSA 警告灯、ABS 警告灯、ブレーキシステム警告灯と同時に点灯した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ➔ **LKAS(車線維持支援システム)*** P. 171

信号情報活用運転支援システム装備車

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	• 光ビーコンアンテナの機能に異常があると表示	• Honda 販売店で点検を受けてください。

メーターとマルチインフォメーションディスプレイ

メーター

■ メーター照明色を変更するには

メーターとエアコンスイッチパネルの照明色を変更することができます。

➔ **カスタマイズのしかた** P. 73

メーターの色がブルーまたはレッドのときは、エアコンスイッチパネルの色はホワイトになります。
また、オートエアコンの設定温度表示が、「LO」最大冷房のときはエアコンスイッチパネルの色はブルー、「HI」最大暖房のときはレッドになります。

■ 燃料計

アドバイス

燃料計が E に近づいたら、早めに給油してください。

燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

■ パワー表示(POWER)/ チャージメーター表示(CHARGE)

モーター出力と高電圧バッテリーへの充電の状態をバーグラフで表示します。

モーター出力と高電圧バッテリーへの充電の状態は、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

➔ **高電圧バッテリー残量 / パワーフロー/ エンジン作動表示** P. 72

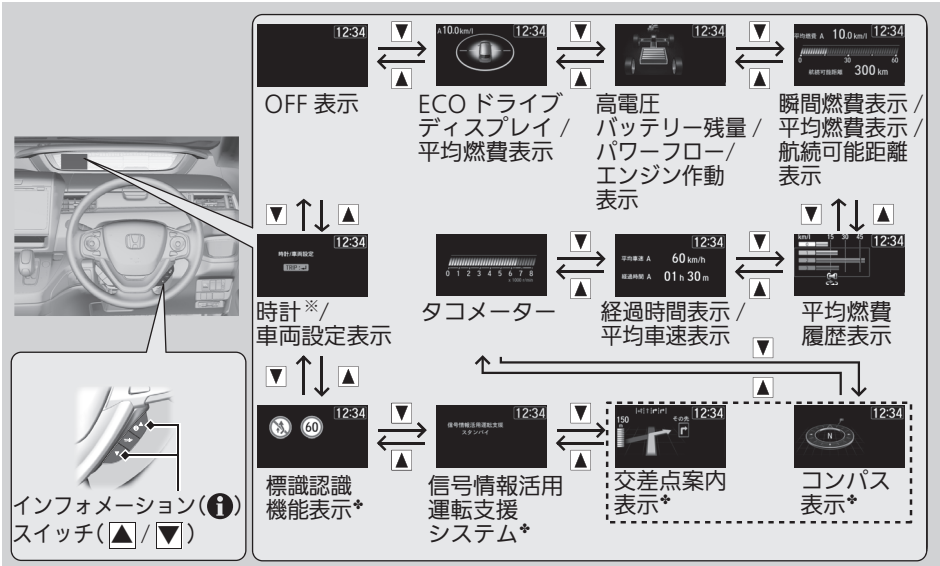
マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、高電圧バッテリー残量、燃費情報などが表示されます。
また、異常を検知すると警告メッセージが表示されます。

■ 表示の切り換えかた

■ メインディスプレイ

インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押すごとに、表示が下記のように切り換わります。

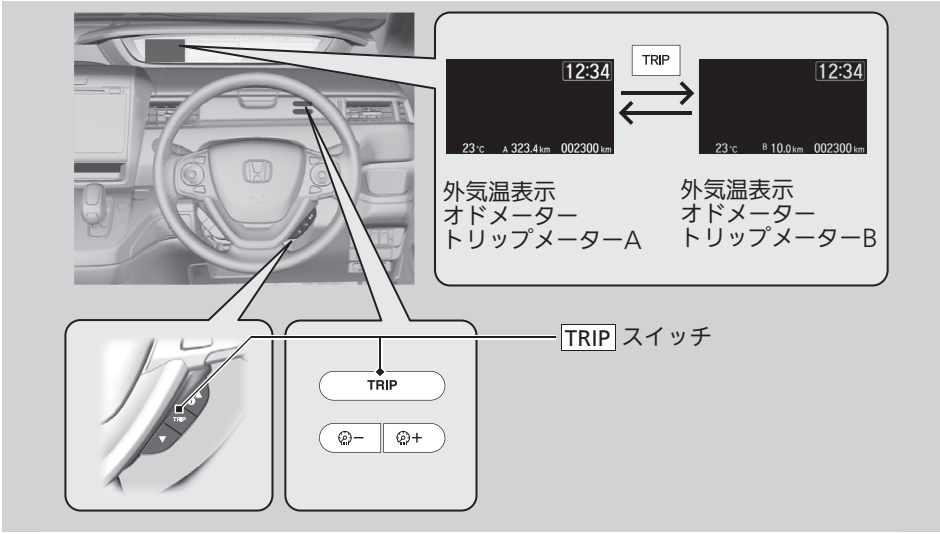


※：メーカーオプションの Honda インターナビシステム非装備車

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ サブディスプレイ

TRIPを押すごとに画面が切り換わります。



■ トリップメーター

■ トリップメーターをリセットするには

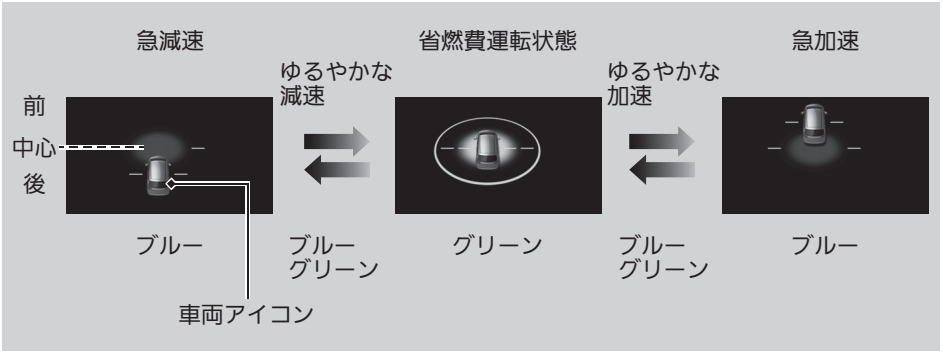
リセットしたいトリップメーターが表示されている状態で、TRIPを押し続けてください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。

トリップメーターA、B と平均燃費と平均車速の A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

■ ECO ドライブディスプレイ /ECO スコア

■ ECO ドライブディスプレイ

運転操作の状態に応じて車両アイコンが前後に移動します。
急な加速を行うほど車両アイコンが前側に動き、急な減速を行うほど車両アイコンが後側に動きます。
車両が中心からずれないように運転することで、スムーズな省燃費運転となります。

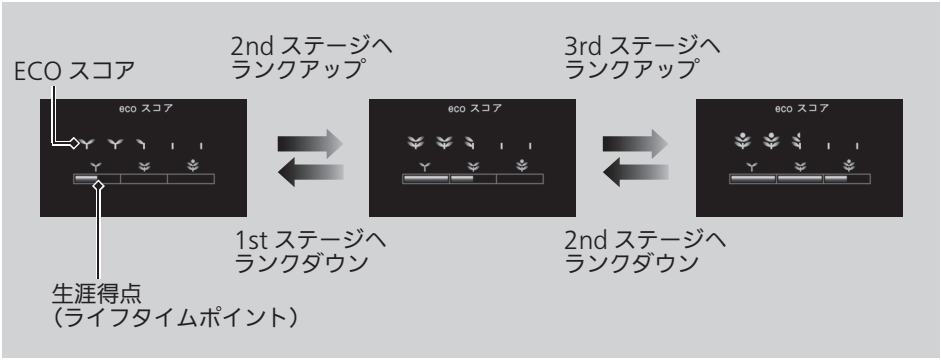


運転操作の状態に応じて車両アイコンの周囲の色が変化します。
グリーン:省燃費状態
ブルーグリーン:緩やかな加減速状態
ブルー:急加減速状態

■ECO スコア

パワーモードを OFF にすると、数秒表示されます。

1st ステージから 3rd ステージまで 3 つのランクがあり、運転操作の状態に応じてリーフが増減し、ランクアップ（ダウン）します。

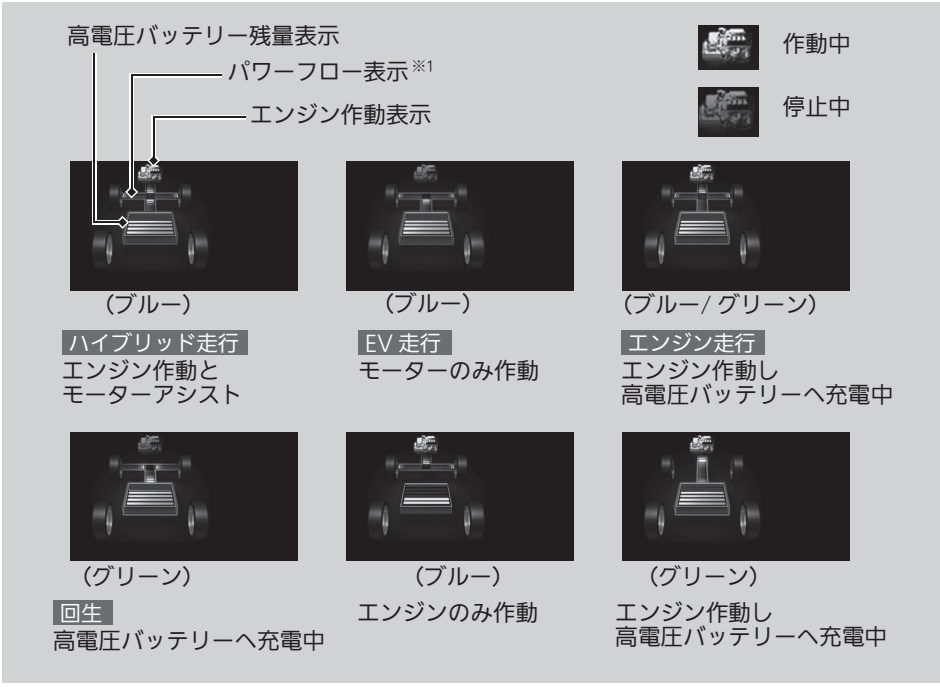


■ECO スコアのリセット

1. シフトポジションが P であることを確認し、パワーモードを ON モードにする。
2. ECON モードが ON のときは、ECON スイッチを押して ECON モードを OFF にする。
3. パワーモードを OFF モードにする。
4. 再度パワーモードを ON モードにする。
   ▶ 手順 4 ～ 6 は、30 秒以内に行ってください。
5. ブレーキペダルを 2 回踏み込む。
   ▶ アンビエントメーターが青色から緑色に変わります。
   ▶ カスタマイズ設定で「照明色変化設定」を OFF に設定しているときは、青色のまま変化しません。
6. ECON スイッチを 2 回押す。
   ▶ アンビエントメーターが緑色から消灯に変わります。
7. パワーモードを OFF モードにする。

■ 高電圧バッテリー残量 / パワーフロー/ エンジン作動表示

高電圧バッテリーの残量や、高電圧バッテリーへの充電、アシスト状態を表示します。



※1: AWD 車は後軸もパワーフロー表示を行います。

パワー表示（POWER）とチャージメーター表示（CHARGE）の動きとパワーフロー/ エンジン作動表示の動きは、状況により一致しない場合があります。

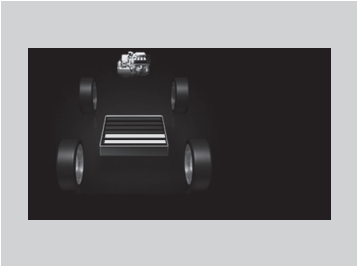
➡ **パワー表示（POWER）/ チャージメーター表示（CHARGE）** P. 67

次のような場合は、高電圧バッテリー残量表示が下がることがあります。

- 12V バッテリーを交換したとき
- 12V バッテリーの端子を外したとき
- 高電圧バッテリー制御システムが残量の誤差を補正したとき

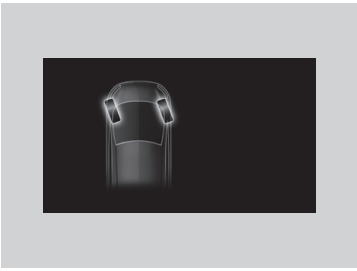
走行すると自動的に充電されます。

アイドリング中で、高電圧バッテリーを充電していないとき下記が表示されます。



■ タイヤ角度モニター

以下のとき、車速が約 15km/h になるまで、ハンドルの回転量とタイヤの角度に合わせ、タイヤの向きを 7 段階で表示します。



- ハンドル角度が左右 90 度以上で、パワーモードを ON モードにしたとき
- ハンドル角度が左右 90 度以上で、シフトポジションを D または L にしたとき
- シフトポジションを 1 秒以上 R にしたとき

メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車

■ 信号情報活用運転支援システム

走行時に道路に設置された光ビーコン路側器より受信した複数の交差点の信号予定情報を基に、信号通過支援表示、赤信号減速支援表示、発進遅れ防止支援表示を表示します。

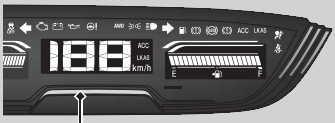
信号情報活用運転支援システム P. 143

■ カスタマイズのしかた

パワーモードが ON モードでシフトポジションが P のときに、インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押して、「時計✤/ 車両設定」を選択します。そして TRIP を操作すると、カスタマイズを行うことのできる「グループ」画面に切り換わります。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ アンビエントメーター



アンビエントメーター

運転の状態を表示します。省燃費状態の時はアンビエントメーターの色がグリーンに変化します。

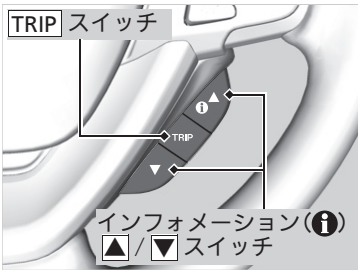
この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。

時刻の設定

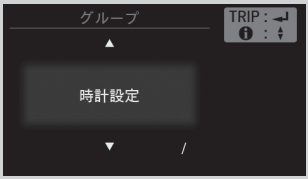
時計の時刻を合わせる

時計はマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

メーカーオプションの Honda インターナビシステム非装備車

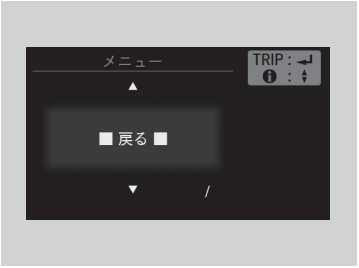


1. インフォメーション(i)スイッチ(▲/▼)を押し、「時計 / 車両設定」が表示されたら、TRIPを操作する。
   ▶「グループ」画面に切り換わり、「時計設定」が表示されます。
2. TRIPを操作する。
   ▶「メニュー」画面に切り換わり、最初に「時刻調整」が表示されます。
3. TRIPを操作する。
   ▶「セットアップ」画面に切り換わり、「時」の調整ができます。



4. インフォメーション(i)スイッチ(▲/▼)を押し、希望の数値が表示されたら、TRIPを操作する。
   ▶「時」が設定され、「分」の調整ができます。
5. **手順 4** と同様の操作で「分」を調整をする。
   ▶「分」が設定され、時刻調整が完了します。





6. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「戻る」が表示されたら、TRIPを操作する。
7. **手順 6** の操作を通常画面に戻るまで繰り返す。

メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車

時計は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

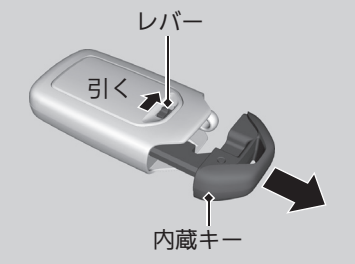
キーの種類と機能

パワーシステムの起動、停止のほかに、すべてのドア、テールゲートの施錠 / 解錠に使用できます。
キーについているボタンで、すべてのドア、テールゲートの施錠 / 解錠の操作ができます。

キーには、精密な電子部品が組み込まれています。
故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

■ Honda スマートキー



Honda スマートキーの電池が切れたときや車の12V バッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。
内蔵キーは、レバーを引きながら取り出します。

収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

Honda スマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーは Honda スマートキーに収納しておいてください。

Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
- 電池交換時以外は分解しない
- 改造しない
- キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P. 235

⚠注意

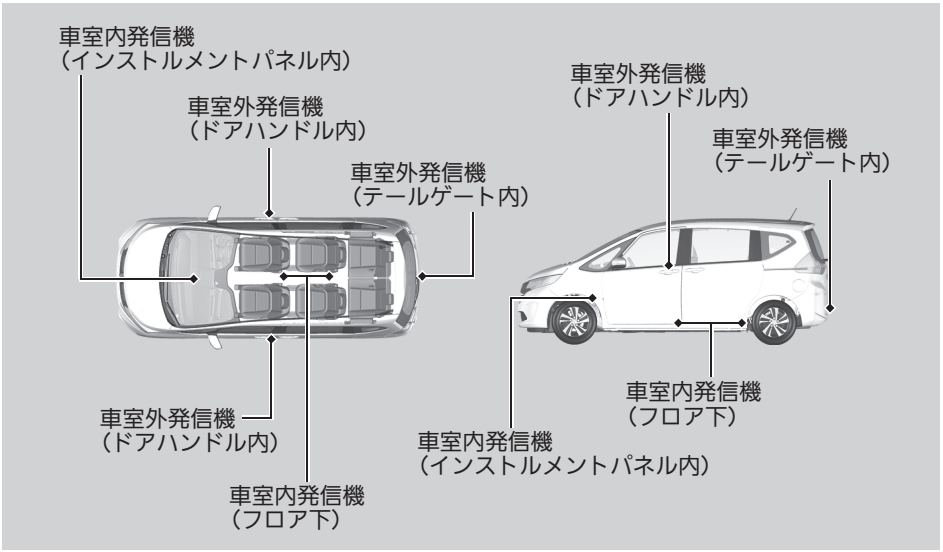
電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意する。
飲み込むと傷害を受けるおそれがあります。

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、テールゲートの施錠 / 解錠操作をするときやパワーシステムを起動するとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。

そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



⚠注意

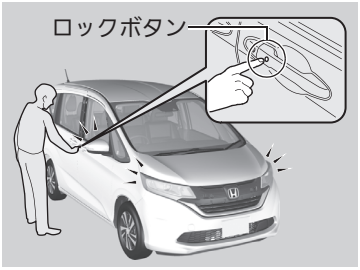
植え込み型心臓ペースメーカおよび植え込み型除細動器を使用しているかたは、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内に近づかない。

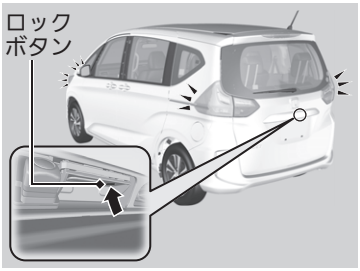
Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■ Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

Honda スマートキーを携帯し、ロックボタン、ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチを操作することでドア、テールゲートの施錠や解錠ができます。
施錠/解錠が作動するのは、運転席、助手席ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチから周囲約 80cm 以内です。

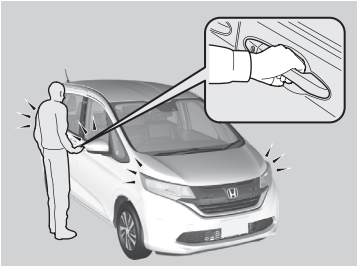




■ 施錠するには

運転席ドア、助手席ドアまたはテールゲートハンドルのロックボタンを押します。

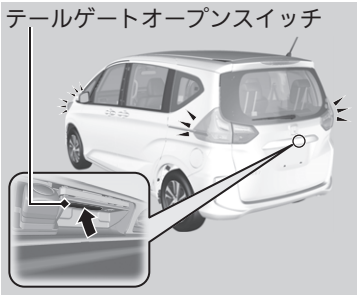
▶「ピッ」というアンサーバックブザーが鳴り非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。



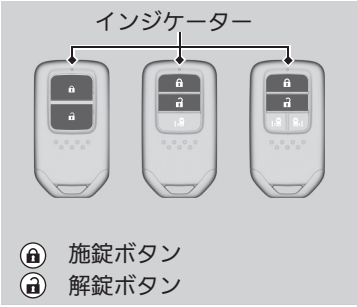
■解錠するには

運転席または助手席ドアハンドルを握るか、テールゲートオープンスイッチを押します。

▶「ピピッ」というアンサーバックブザーが鳴り非常点滅表示灯が 2 回点滅し、すべてのドア、テールゲートが解錠されます。



■ キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠



■施錠

施錠ボタンを押します。

▶ 非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。

■解錠

解錠ボタンを押します。

▶ 非常点滅表示灯が 2 回点滅し、すべてのドア、テールゲートが解錠されます。

■ キーを差し込んでの施錠 / 解錠

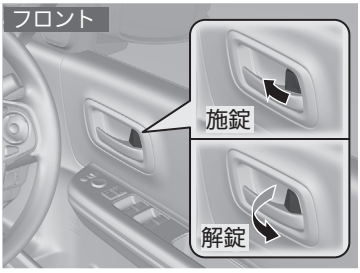
Honda スマートキーの電池がきれたときや車の 12V バッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。



キーを確実に差し込んで回します。

車内での施錠 / 解錠

■ ノブでの施錠 / 解錠



フロント

■ 施錠するには
ノブを押し込みます。

■ 解錠するには
ノブを引き出します。



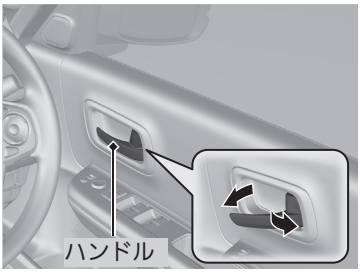
リヤ

■ 施錠するには
ノブを下げます。

■ 解錠するには
ノブを上げます。

運転席ドアのノブで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

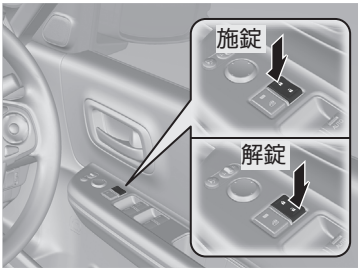
■ 運転席ドアハンドルでの解錠



運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。

走行中でも運転席の内側のハンドルを引くとドアが開きます。走行中はドアハンドルを操作しないでください。

■ マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠

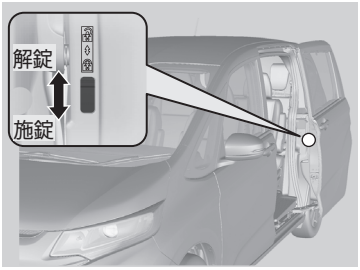


マスタードアロックスイッチを施錠 / 解錠のほうに押します。

チャイルドプルーフ

チャイルドプルーフとは、走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、ノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする機能です。
お子さまをセカンドシートまたはサードシート✤に乗せるときなどにお使いください。

■ チャイルドプルーフのセット



後席ドアについているツマミを、施錠の位置にしてドアを閉めます。

■ ドアを開ける場合
外側のハンドルで開けます。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

テールゲートの開閉

テールゲート開閉時の注意

テールゲート開閉をするときは、下記の点に注意してください。

■ テールゲートを開けているとき

- テールゲートは上までしっかりと開ける。
  ▶ 途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。
- 風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
- テールゲートを開けたまま走行しない。
  ▶ 車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

■ テールゲートを閉めるとき

- Honda スマートキーを、カーゴスペース内に置き忘れないように注意する。

⚠注意

テールゲートを閉めるときは、頭をぶつけたり手をはさまないよう注意する。

エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

スライドドアの開閉

スライドドアの開閉時の注意

スライドドアを開閉するときは、下記の点に注意してください。

■開けるとき

- スライドドアはストッパーで固定されるまでしっかりと開ける
  ▶途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。

■閉めるとき

- Honda スマートキーを、車内に置き忘れないようにする
  ▶運転席ドアを施錠したあとにスライドドアを閉めると、施錠されてスライドドアが開かなくなります。

⚠注意

スライドドアを開閉するときはドアの内側と外側の安全を十分に確認し、手、足、顔などをはさまないよう注意する。
特にお子さまには気をつけてください。

傾斜地ではスライドドアを開けたままにしない。
ドアが不意に閉まるおそれがあります。

ドアハンドルをしっかり持って開閉する。
ドア本体を持って閉めたり、車体側に手をかけているとけがをするおそれがあります。

ドアのアームやレールなどには、手、足をかけない。

小さなお子さまが同乗しているときは、お子さまがスライドドアを誤って操作しないように、チャイルドプルーフをセットしてください。

➡ チャイルドプルーフ P. 83

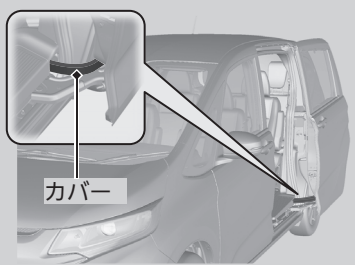
スライドドアのドリンクホルダーにはみ出すものを入れていると、開閉の妨げになったり、車体に傷をつけるおそれがあります。

スライドドアの開閉操作

アドバイス

スライドドアの内側にあるカバーおよび内部の電線が傷つくと、作動不良の原因となります。

踏まないように注意してください。



パワースライドドアの開閉操作*

⚠警告

パワースライドドアを開閉するときは、ドアの内側と外側の安全を十分確認する。

ドアが動いているときは触ったり、近づいたりしないでください。ドアにはさまれて重大な傷害を受けるおそれがあります。

特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

後輪タイヤを交換するときは、メインスイッチを OFF にする。

ON のままだと、誤ってメインスイッチに触れたりしてドアが開き、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

車両が完全に停止した状態でパワースライドドアを開閉する。また乗り降りのときも車両が動き出さないように、確実にブレーキをかける。

パワースライドドアの開閉中や乗り降りのときに車両が動き出すと、思わぬ事故を起こすことがあります。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

⚠警告

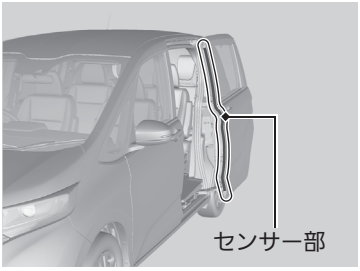
ドアを開閉する前に、ドア付近に障害物がないことを必ず確認する。
はさみ込み防止機能は、万一のときに、障害物を検知して、ドアにはさまれてしまうことを防ぐためのものです。ドアにはさまれると重大な傷害を受けるおそれがあります。
特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

パワースライドドアに指などをはさみ込まないように注意する。
パワースライドドアを確実に閉め切るため、閉め切る直前の部分にはさみ込みを検知しないエリアがあります。

アドバイス

パワースライドドア前端にあるセンサーに触れない。
センサーに触れるとパワースライドドアが閉まりません。また、センサーを鋭利なものなどで傷つけないでください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。



■ 自動で開閉するときの条件

次の条件が揃っているときに、自動で開閉することができます。

- メインスイッチが ON のとき
- パワースライドドアが解錠されているとき
- フューエルリッドが閉じているとき（助手席側のみ）

キーレスエントリーシステムやパワースライドドアスイッチで開閉操作する場合、以下の条件が追加されます。

■ キーレスエントリーシステムでの開閉条件

- パワーモードが OFF モードのとき

■ パワースライドドアスイッチでの開閉条件

- パワーモードを ON モードにしているときは、シフトポジションが P のとき
  ▶ P 以外でもブレーキペダルを踏むか、パーキングブレーキがかかっているときは操作できます。

イージードアクローザー

スライドドアを半ドアの状態の位置まで閉めると、自動的に閉まります。

パワースライドドア装備車

パワースライドドアのメインスイッチの位置に関係なくイージードアクローザーが作動します。

⚠注意

半ドア状態の位置からドアが自動的に閉まるため、手などを挟まないように注意する。

故障の原因になるので、イージードアクローザーが作動しているときは、無理な力をかけないでください。

セキュリティシステム

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムとは、キーに信号を発信する電子部品が組み込まれてあり、あらかじめ登録されたキーでないとパワーシステムの起動ができないようにしたシステムです。

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

セキュリティアラームシステム

セキュリティアラームシステムは、Honda スマートキーシステム、キーレスエントリーシステムまたは内蔵キーを使わずにドア、テールゲート、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■ 作動すると
ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯が点滅します。

■ 停止させるには
Honda スマートキーシステム、キーレスエントリーシステムまたは内蔵キーで解錠するか、パワーモードを ON モードにしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

■ セットするには
セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。
- パワーモードが OFF モードのとき
- ボンネットが閉まっているとき
- Hondaスマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーですべてのドアとテールゲートが施錠されているとき

■ セットされると
メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■ セットを解除するには
Honda スマートキーシステム、キーレスエントリーシステムまたは内蔵キーで解錠するか、パワーモードを ON モードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

セキュリティアラームシステムをセットした後に 12V バッテリーがあがり、12V バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。
そのときは、Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステム、内蔵キーでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

ウィンドーの開閉

パワーウィンドーの開閉

パワーモードが ON モードのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。

運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンを OFF にしてから行います。パワーウィンドーロックボタンをOFFにすると、ボタンにある表示灯が消灯します。

パワーウィンドーロックボタンを ON(表示灯点灯)にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンを ON にしておいてください。

⚠警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。
手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。
特にお子さまには気をつけてください。

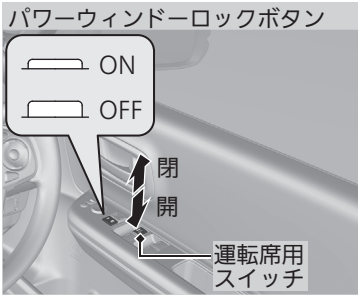
⚠注意

指などをはさみ込まないように注意する。
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

お子さまだけを車内に残さない。必ずHondaスマートキーを携帯しドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

自動開閉機能付きのパワーウィンドーは、故障などではさみ込み防止機構が作動し、自動でウィンドーを閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。
路面や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。

■ 自動開閉機能付きのウィンドーの開閉



■ 手動開閉

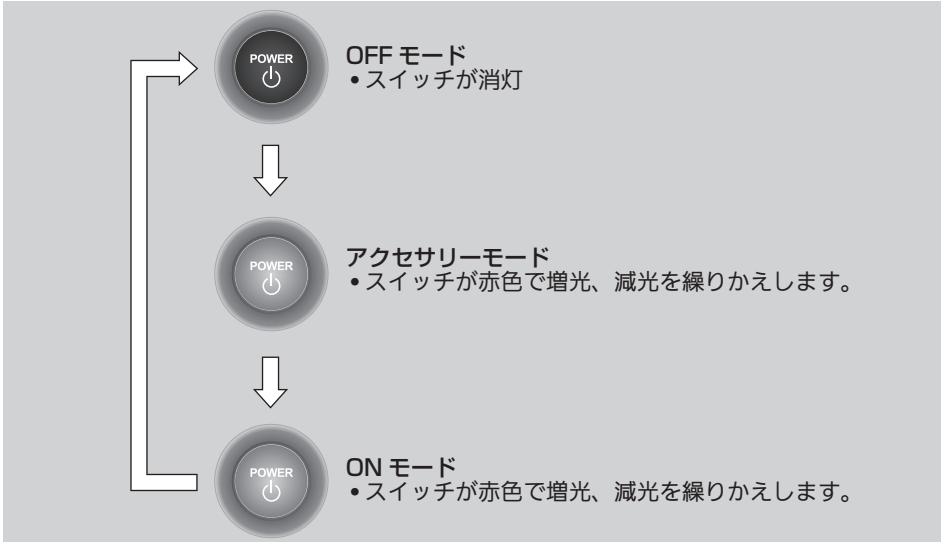
開けるとき:スイッチを軽く押す

閉めるとき:スイッチを軽く引き上げる

希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

ハンドルまわりのスイッチ操作

POWER スイッチ



アクティブコーナリングライト*

パワーモードがONモードで、車速が40km/h以下のときにヘッドライトが点灯していると、方向指示器やハンドル操作、シフトポジションをRにしたとき、アクティブコーナリングライトが点灯し、夜間走行時にコーナーでの視認性を向上させることができます。

■方向指示器、ハンドル操作による点灯



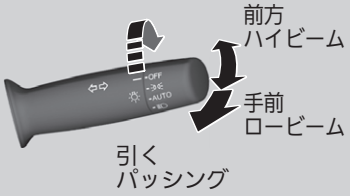
■セレクトレバー操作による点灯

ヘッドライトが点灯しているときにシフトポジションをRにすると、左右のアクティブコーナリングライトが同時に点灯します。

アクティブコーナリングライトを5分以上連続点灯させると、自動的に消灯します。
消灯後に再度、方向指示器、ハンドル操作を行うか、シフトポジションをRにすると点灯します。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

ライトスイッチ



車幅灯、尾灯、番号灯が点灯

ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯

AUTO ✤ パワーモードがONのとき車外の明るさに応じて車幅灯、尾灯、番号灯、ヘッドライトが自動で点灯／消灯

スイッチを回すとパワーモードのモードに関係なく、点灯 / 消灯します。

■ハイビーム
「カチッ」と音がするまでレバーを前方に押します。

■ロービーム
ハイビームのときは、レバーを手前に引きます。

ヘッドライトレベリングダイヤル✤



パワーモードがONモードのとき、ヘッドライトの照らす方向(光軸)を下向きに調整することができます。

光軸の調節はダイヤルを回して行います。

ダイヤルの数字が大きいほど光軸は下向きになります。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ ダイヤル位置の目安

乗員の人数や荷物の量に応じて、下表を目安にダイヤル位置を選択してください。

- 5 人乗り

乗員やカーゴスペースの積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時 運転席と助手席に乗車時	0
5 名乗車時	1
5 名乗車時でカーゴスペース満載時	2
運転席のみ乗車でカーゴスペース満載時	3

- 6 人乗り

乗員やカーゴスペースの積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時 運転席と助手席に乗車時	0
運転席、助手席とサードシート（2 座席）に乗車時	1
6 名乗車時 6 名乗車時でカーゴスペース満載時	2
運転席のみ乗車でカーゴスペース満載時	3

- 7 人乗り

乗員やカーゴスペースの積載状況	ダイヤル位置
運転席のみ乗車時 運転席と助手席に乗車時	0
運転席、助手席とサードシート（2 座席）に乗車時	1
7 名乗車時 7 名乗車時でカーゴスペース満載時	2
運転席のみ乗車でカーゴスペース満載時	3

車検などで光軸調節をするときは、ダイヤルを 0 の位置に戻してから行ってください。

LED ヘッドライト装備車

重い荷物の積載時など、車両の姿勢の変化に応じてヘッドライト光軸の上下方向を自動的に調節するオートレベリング機能が付いています。

ヘッドライト光軸の異常を感じたときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

ワイパー/ ウォッシャー

⚠注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。
ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

ワイパーを乾拭きさせないでください。
ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

アドバイス

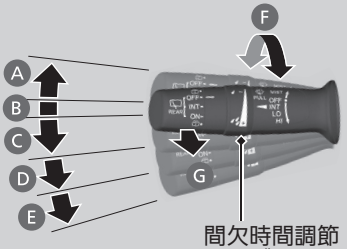
ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。
ポンプ故障の原因となります。

アドバイス

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。
ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターやフロントガラス熱線✤でフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ フロントワイパー/ ウォッシャー



Ⓐ MIST: (レバーを操作している間作動)
Ⓑ OFF: 停止
Ⓒ INT: 間欠(雨量が少ないとき)
Ⓓ LO: 低速(普通の雨量のとき)
Ⓔ HI: 高速(雨量が多いとき)
Ⓕ 間欠時間の調節
Ⓖ ウォッシャー

パワーモードが ON モードのときに使用できます。

■ 間欠時間の調節*

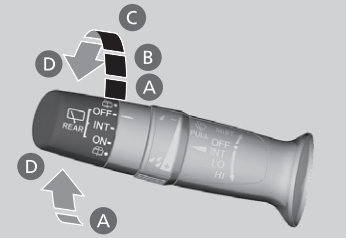
リングを回して、ワイパーの間欠時間を調節します。



間欠間隔が長い

間欠間隔が短い

■ リヤワイパー/ ウォッシャー



Ⓐ OFF : 停止
Ⓑ INT : 間欠作動
Ⓒ ON : 数回作動後、間欠作動
Ⓓ : ウォッシャー

パワーモードが ON モードのときに使用できます。

■ リヤワイパースイッチ

ON にするとリヤワイパーが数回作動したあと、間欠作動します。

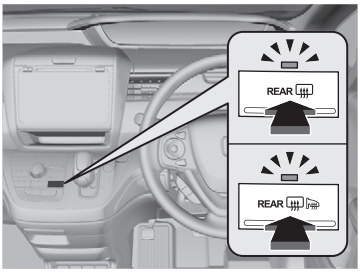
■ ウォッシャースイッチ

スイッチを まで回すと、ウォッシャー液が噴射します。
スイッチを回している間はワイパーが作動し、スイッチを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ リバース連動モード
フロントワイパー作動中にシフトポジションを R にするとリヤワイパーが作動します。

リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラー* スイッチ



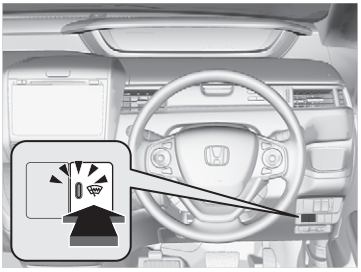
パワーモードが ON モードのときにスイッチを押すと、リヤガラスとドアミラーを暖め、曇りをとることができます。

アドバイス

リヤガラスの内側を清掃するときは、電熱線を傷付けないよう注意してください。
必ず、デフロスターの電熱線に沿って左右方向に拭いてください。

この装置は消費電力が大きいので、曇りが取れたら OFF にしてください。
また、パワーシステムが停止しているときに長時間使わないでください。12Vバッテリー容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

フロントガラス熱線スイッチ*



パワーモードがONモードのときに、フロントガラスの下端を暖め、雪の固着や凍結によるワイパーブレードラバーの損傷を防ぐことができます。

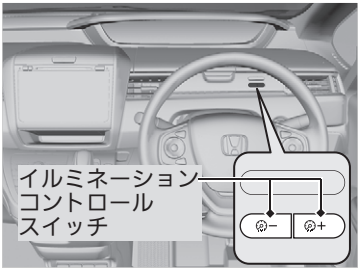
スイッチを押すと、フロントガラス熱線がONになります。

約 15 分経過後、自動的に停止します。

この装置は消費電力が大きいので、曇りが取れたら OFF にしてください。
また、パワーシステムが停止しているときに長時間使わないでください。12Vバッテリー容量が低下し、パワーシステムの起動に影響することがあります。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

イルミネーションコントロール



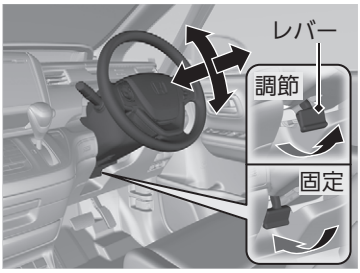
パワーモードが ON モードで、ライトスイッチが OFF 以外のとき(オートライト装備車は、ライトスイッチが OFF 以外で周囲が暗いとき)、イルミネーションコントロールスイッチでインストルメントパネルの明るさを調節することができます。

明るくする: + スイッチを押す

暗くする: − スイッチを押す

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



1. ハンドル位置調節レバーを引き上げる。
   ▶ ハンドル位置調節レバーは、コラムカバーの下にあります。
2. ハンドルの位置を調節する。
   ▶ 調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。
3. ハンドル位置調節レバーを押し下げ、ハンドルを固定する。
   ▶ 位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

⚠注意

走行中にハンドル位置を調節しない。

走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあり、衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

ミラー類の調節

ルームミラー

ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

■ 手動式防眩ミラー



夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を弱くするための切り換えができます。

ドアミラー

ドアミラーの操作は、パワーモードが ON モードのときに行います。

■ 角度調節

左右切り換えスイッチ: 右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

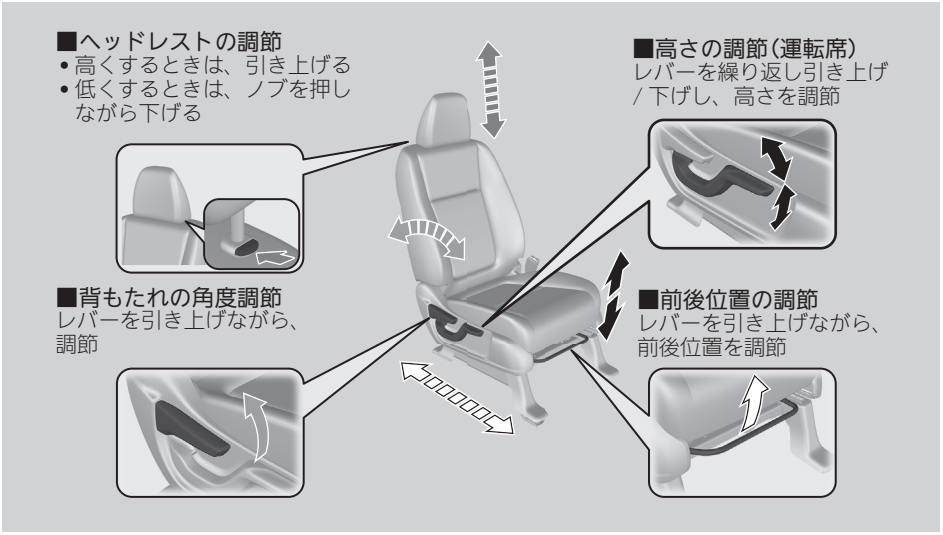
角度調節スイッチ: 上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

シートの調節

フロントシート

運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

■ シートの動かしかた



⚠注意

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

シートの下に物を置かない。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロントシートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

■ フロントシートの調節

■ シート位置の調節
シートの位置を調節したら、シートを前後に揺すり、固定されていることを確認します。

■ 背もたれ角度の調節
シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。

⚠警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。
ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

背もたれを必要以上に倒さない。
背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

⚠注意

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。
正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

セカンドベンチシート*

⚠警告

背もたれを必要以上に倒さない。
背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

⚠注意

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

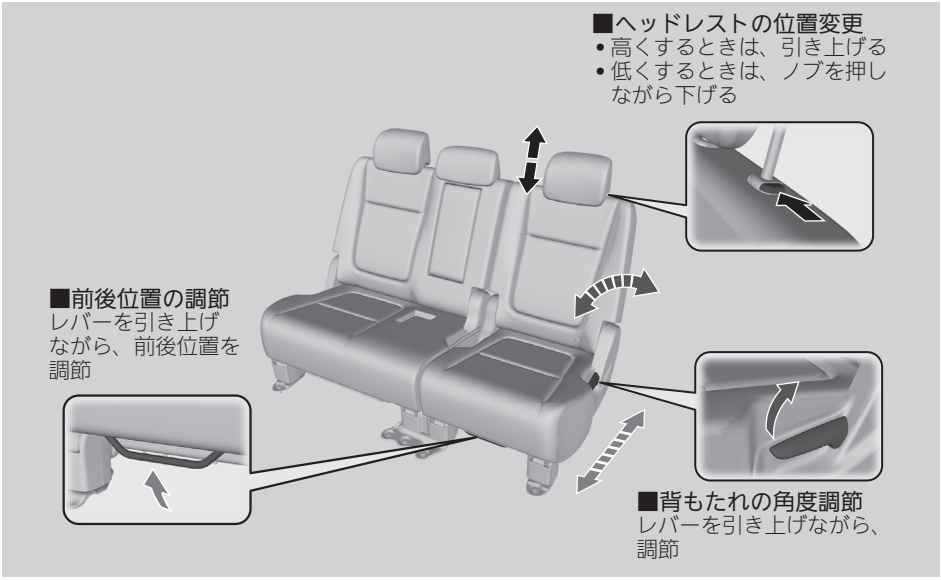
シートの下に物を置かない。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

FREED

背もたれを前に倒した状態で荷物を載せたり、人を乗せたりしないでください。
背もたれがこわれるおそれがあります。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ シートの動かしかた



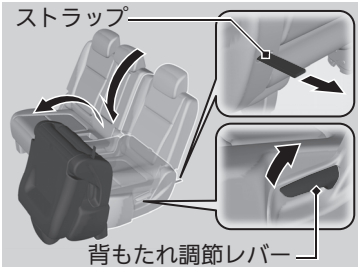
FREED

■ シートをはね上げるとき



共通操作

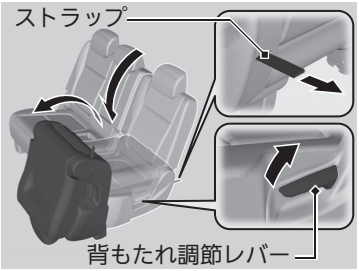
1. ヘッドレストを一番下に下げる。
2. セカンドシートを後方いっぱいに動かす。



ウォークイン機構:

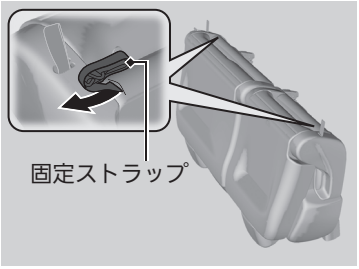
3. 背もたれ調節レバーを引き上げ、背もたれを前に倒してシートをはね上げる。
   ▶ シート下部のストラップを引いても、操作できます。

走行する前にシートを元に戻し、前後位置を調節してください。

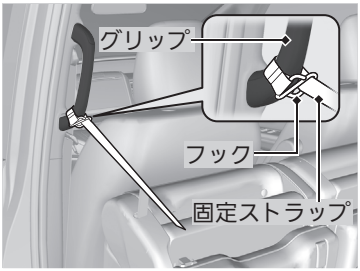


固定するとき:

3. 背もたれ調節レバーを引き上げ、背もたれを前に倒してシートをはね上げる。
   ▶ シート下部のストラップを引いても、操作できます。



4. 座面に収納されている固定ストラップを引き出す。



5. 固定ストラップをグリップに通し、フックをかける。

⚠注意

操作するときは十分注意する。

背もたれが急に動いてシートがはね上がり、顔などにけがをしたり、手や足などをはさむおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

セカンドシートをはね上げた状態でサードシートに人を乗せない。

ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。

シートを操作したら、シートを前後にゆすり、確実に固定されていることを確認してください。

■ 背もたれを倒すとき

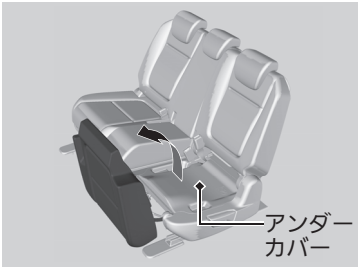


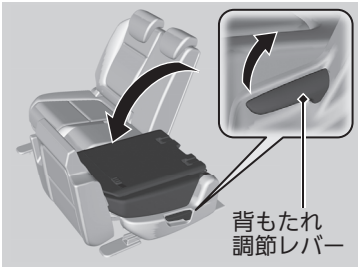
セカンドシートを倒してカーゴスペースを広くできます。
片側ずつ独立して行えます。

1. セカンドシートのヘッドレストを一番下に下げる。
2. セカンドシートを後方いっぱいまで動かす。

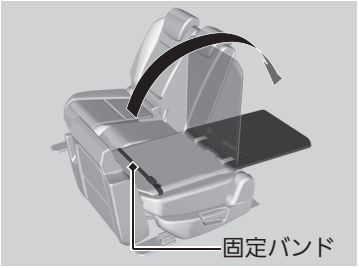


3. セカンドシートの座面を前方に持ち上げて、引き起こす。





4. 背もたれ調節レバーを引いて、背もたれを手で支えながら前方に倒す。



■エクステンションボード

固定バンドを緩めてエクステンションボードを後方に倒す。

▶荷室をより広く使用することができます。

⚠注意

操作するときは十分注意する。

シートが急に動いて、顔などにけがをしたり、手や足などをはさむおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

アンダーカバーの上に乗ったり、重いものを置いたりしないでください。

破損や変形のおそれがあります。

シートを操作したら、シートを前後にゆすり、固定されていることを確認してください。

セカンドキャプテンシート✤

⚠警告

背もたれを必要以上に倒さない。
背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

⚠注意

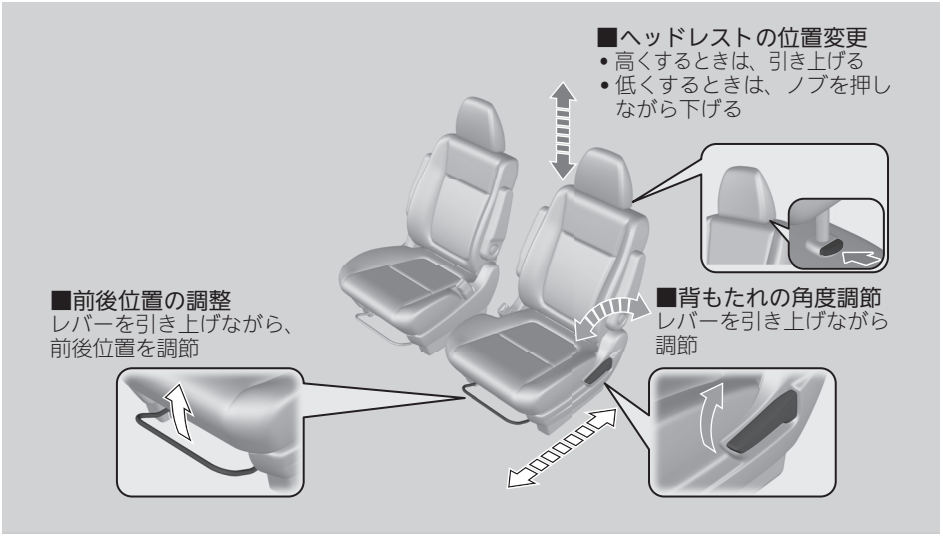
走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

シートの下に物を置かない。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ シートの動かしかた


■ヘッドレストの位置変更
• 高くするときは、引き上げる
• 低くするときは、ノブを押しながら下げる
■前後位置の調整
レバーを引き上げながら、前後位置を調節
■背もたれの角度調節
レバーを引き上げながら調節

サードシート*

⚠注意

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

背もたれを前に倒した状態でシートの上に荷物を載せたり、人を乗せたりしないでください。
背もたれがこわれるおそれがあります。

⚠注意

エンジンをかけた状態でシートを操作するときは、排気管の後方に立たない。
やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

背もたれを起こすときは、固定されるまで手を添える。
背もたれが急に戻り、顔などにけがをするおそれがあります。

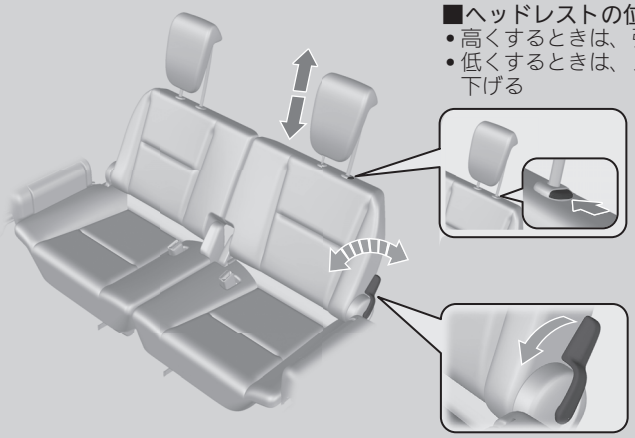
シートの下に物を置かない。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

はね上げた状態で、シートやストラップにものをかけたり、ぶらさげたりすると、ユーティリティーフックが破損したり、シートフックが外れるおそれがあります。

シートを操作したら、シートを前後にゆすり、固定されていることを確認してください。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

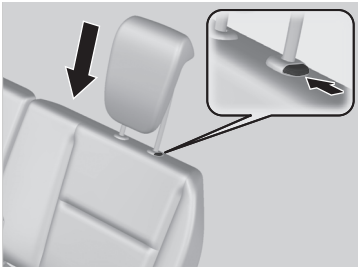
■ シートの動かしかた



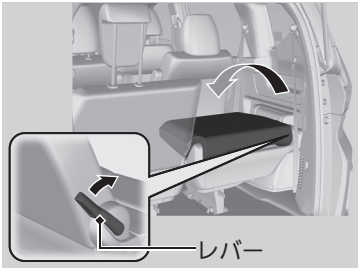
■ヘッドレストの位置変更
- 高くするときは、引き上げる
- 低くするときは、ノブを押しながら下げる

■背もたれの角度調節
レバーを前に倒しながら、調節

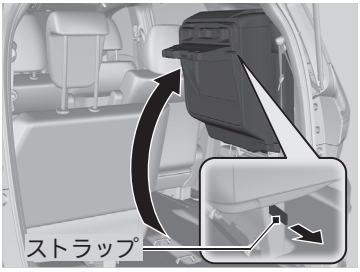
■ シートをはね上げて固定するとき



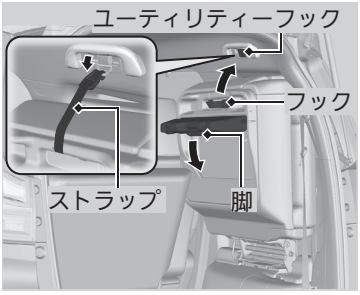
1. ヘッドレストを下げる。



2. 背もたれのレバーを前に倒しながら、背もたれを前方に倒す。



3. 下部のストラップを引きながら、シートを窓側に起こす。



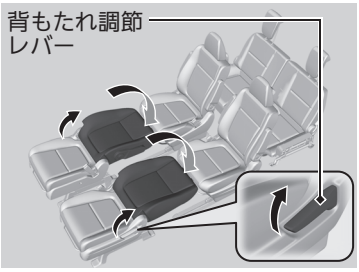
4. シートのフックを外してグラブレール下のユーティリティーフックに確実にはめ込み、シートを固定し、脚を折りたたむ。

フラットシート

フロントシートの背もたれを倒すと、シートをフラットな状態にできます。



1. フロントシートのヘッドレストを取り外す。
➡ **ヘッドレストの取り外しと取り付け** P. 117
2. レバーを引き上げながらフロントシートを前方いっぱいに動かす。



3. 背もたれ調節レバーを引き上げながら背もたれを後ろに倒して固定する。

⚠注意

フラットな状態で、人や荷物などを乗せたまま走行しない。
ブレーキをかけたときなどに、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フラットな状態で、シートの上を走り回らない。また、シートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくりと移動する。
シートの端を踏むと足を踏み外すおそれがあります。

背もたれを起こすときは、必ず背もたれに手を添えて操作する。
背もたれが急に戻り、顔などにけがをするおそれがあります。

アームレスト装備車
アームレストは収納する。

セカンドシートアームレスト装備車
アームレストは収納する。
つまずいたり、足を踏み外すおそれがあります。

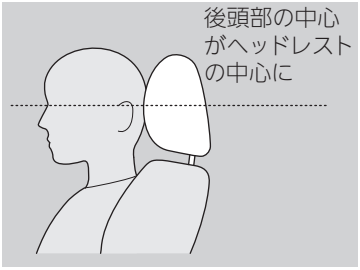
ヘッドレスト

⚠警告

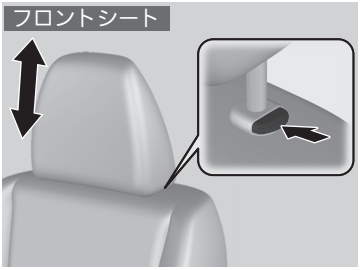
ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。
ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストを外した状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ フロント、セカンドキャプテンシート* ヘッドレストの調節

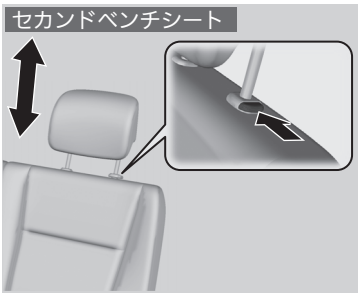


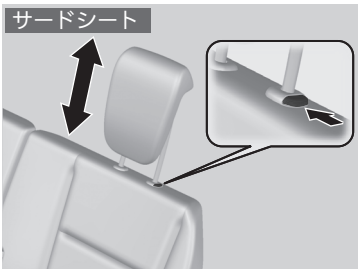
後頭部の中心が、ヘッドレストの中心に来るようにヘッドレストの高さを調整します。
高くするとき: ヘッドレストを引き上げます。
低くするとき: ノブを押しながら下げます。



この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ セカンドベンチシート*、サードシート* ヘッドレストの位置変更





乗車するときは、走行する前にヘッドレストを引き上げて、確実に固定します。

高くするとき: ヘッドレストを引き上げます。

低くするとき: ノブを押しながら下げます。

⚠警告

ヘッドレストを下げた状態で走行しない。

衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ ヘッドレストの取り外しと取り付け

ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

ヘッドレストの取り外し:
ヘッドレストを引き上げ、ノブを押して取り外します。

ヘッドレストの取り付け:
ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

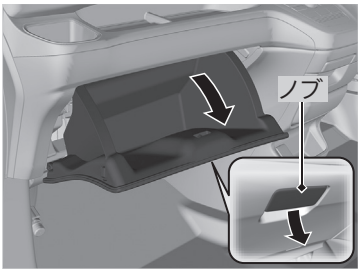
アームレスト

⚠警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

室内装備品

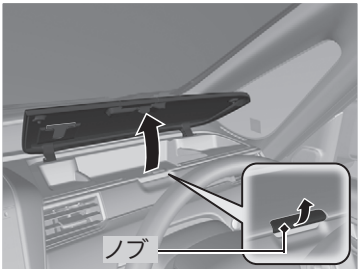
■ グローブボックス



⚠警告

走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

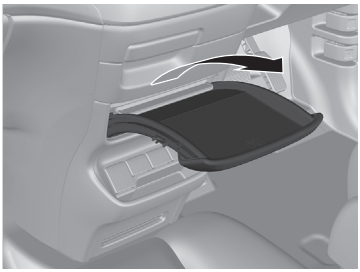
■ 運転席アッパーボックス



⚠警告

走行中は必ずアッパーボックスを閉める。
アッパーボックスが開いていると、衝突したときに運転者が重大な傷害を負うおそれがあります。

■ センターテーブル*



アドバイス

センターテーブルが破損するおそれがありますので、重いもの（約 3kg 以上）や大きいものを置かないでください。

■ ドリンクホルダー

⚠注意

飲み物などを電装品にこぼさないように注意する。

スイッチなどの電装品に飲み物がかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

■ アクセサリーソケット

アドバイス

シガレットライターは差し込まないでください。

発熱するおそれがあります。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ コンビニフック

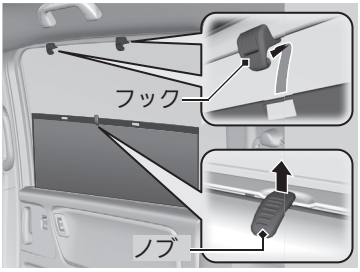
■アームレストコンビニフック



アドバイス

コンビニフックが破損するおそれがありますので、重いもの（約 3kg 以上）や大きいものをかけないでください。

■ スライドドアウィンドウサンシェード*



⚠注意

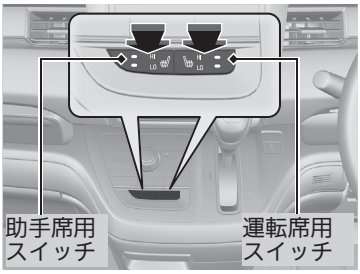
フックにはサンシェード以外のものをかけたりしない。

サイドカーテンエアバッグ*が正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりしてけがをするおそれがあります。

また、走行中は窓を閉めてください。風にあおられてサンシェードがフックから外れるおそれがあります。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ シートヒーター✤



⚠注意

低温やけどに注意する。

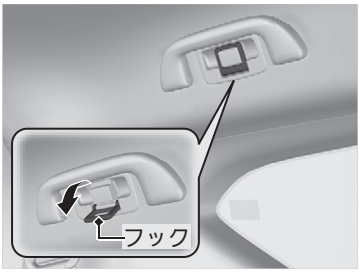
次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

また、毛布など保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

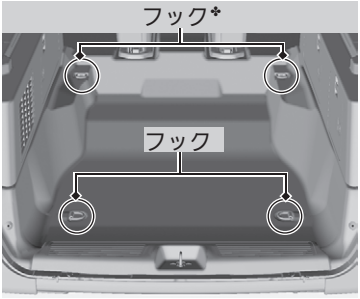
■ ユーティリティーフック



アドバイス

ユーティリティーフックが破損するおそれがありますので、重いもの（約 3kg 以上）や大きなものをかけないでください。

■ カーゴフック*



⚠注意

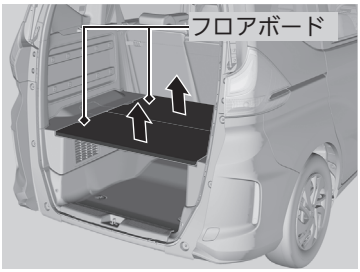
走行中は荷物の出し入れはしない。
急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

重い荷物はできるだけ前に積んでください。
荷物を積むとき、荷重が 1 か所に集中しないように配置してください。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ フロアボード*



フロアボードを外してカーゴスペースを広くできます。

▶外したフロアボードを車内に置く場合は、カーゴスペースの床面に置いてください。

▶フロアボードは表面、裏面どちらでも使用できます。

⚠注意

走行中は荷物の出し入れはしない。
急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロアボードの上、およびカーゴスペースには人を乗せて走行しない。
ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。
操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

■ ユーティリティーナット*

ユーティリティーナットは、市販のフックなどを取り付けて使用します。

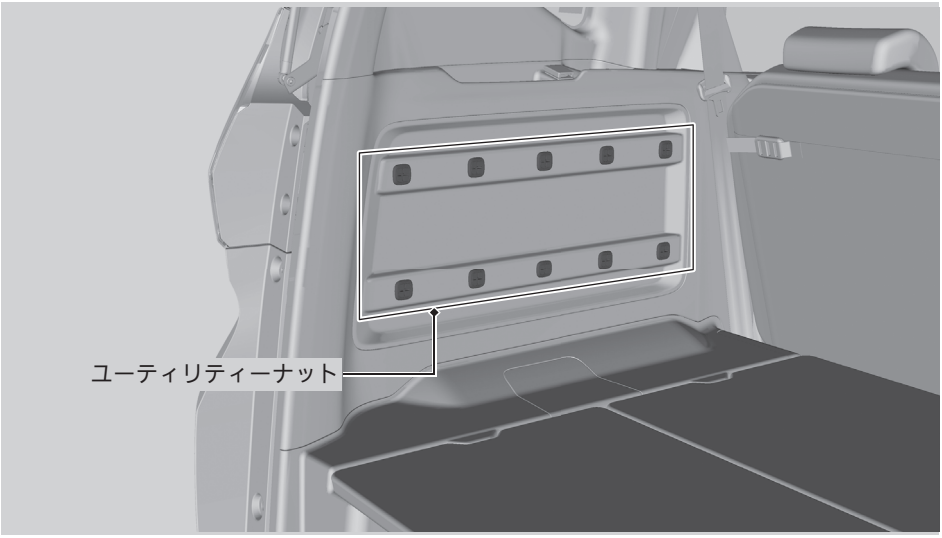
⚠注意

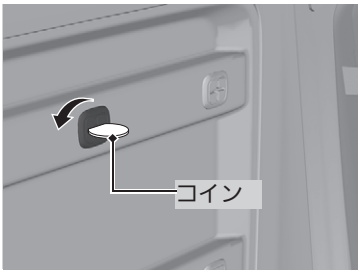
後席に乗車するときは後席周辺のユーティリティーナットに市販のフックなどを取り付けない。
シートベルトが正しく着用できなっかたり、衝突時や旋回時などにものがぶつかるなど、けがをするおそれがあります。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

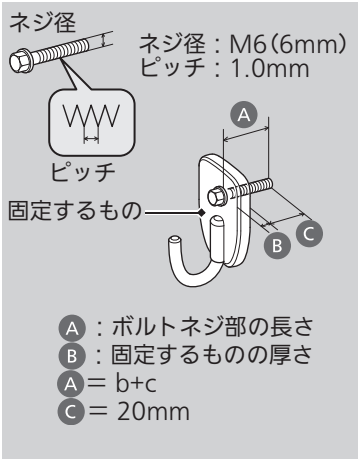
■ユーティリティーナットの位置

カーゴスペースの両側にユーティリティーナットを装備しています。
ユーティリティーナットを使用するときは、使用する箇所のクリップを取り外して使用します。





■ クリップ脱着のしかた
コイン等で左に回して外します。



■ 市販品の取り付けかた
ユーティリティーナットや車体の損傷を防ぐため、取り付けボルトは左記のものをお使いください。
締め付けトルク：9.8 N･m（1.0 kgf･m）

アドバイス
規定以外のボルトを使用するとユーティリティーナットやボディが破損します。

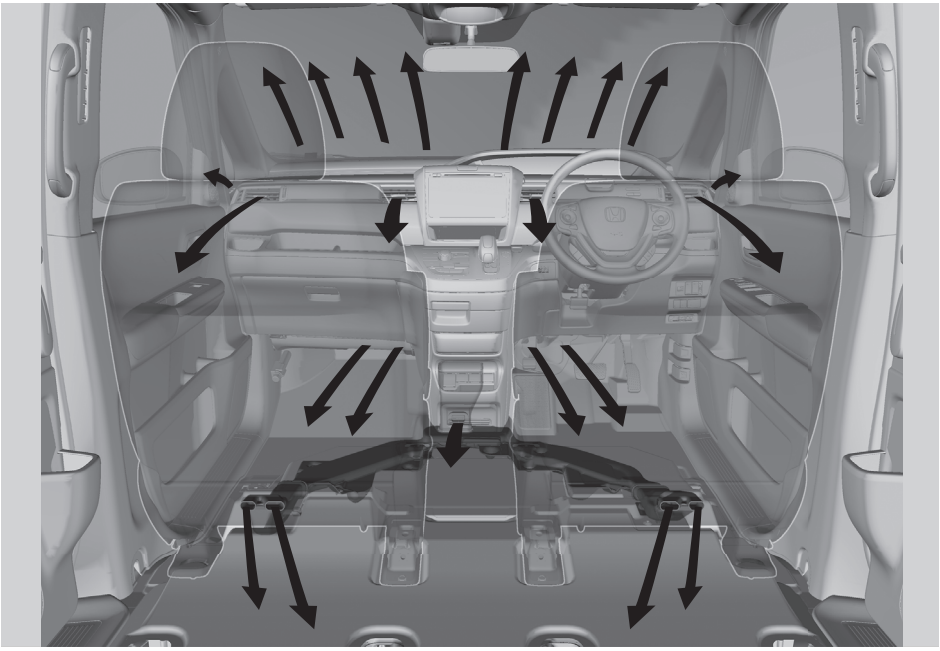
市販品を取り付けるときは、使用する部品のサイズ、仕様と安全性を確認のうえ使用します。

取り付け内容によっては、車検証等の記載事項の変更または、構造変更検査が必要な場合もあります。

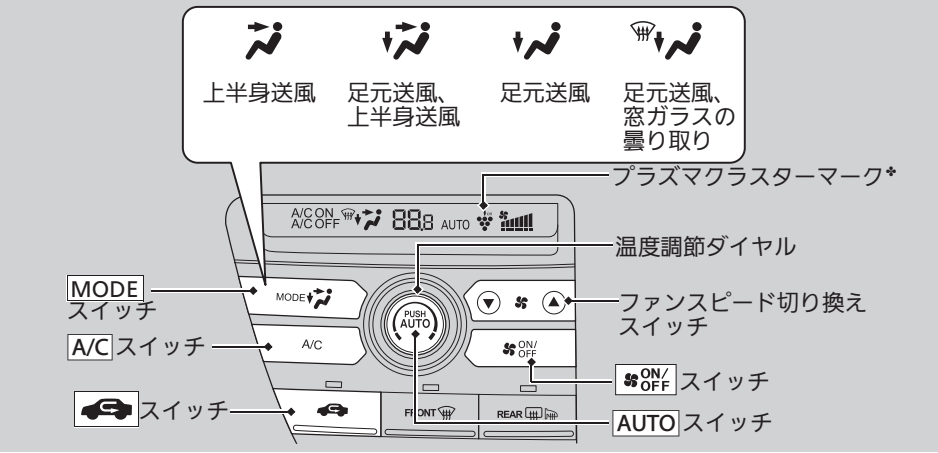
お取り付けに関してご不明な点は Honda 販売店にご相談ください。

ユーティリティーナットが破損するおそれがありますので、ナットひとつにつき約 3kg 以上の荷重をかけないでください。

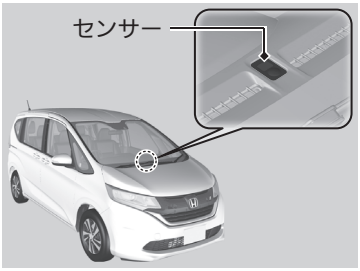
エアコンの吹き出し口

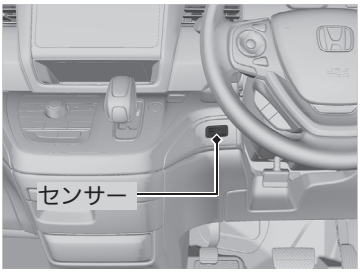


オートエアコンの使いかた



オートエアコンのセンサー





オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。

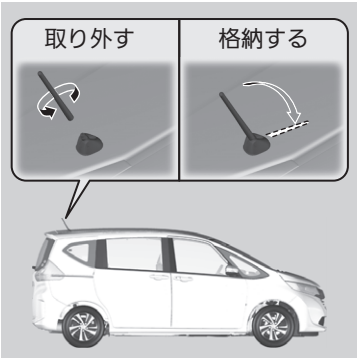
この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

オーディオ装置*

メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車

オーディオ・テレビ・DVD の取り扱いについては、別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」オーナーズガイドをご確認ください。

アンテナ



アンテナの破損を防ぐために、次のような場合は、アンテナを格納してください。

- 駐車場の天井などにアンテナが当たるとき
- ボディーカバーをかけるとき

アドバイス

自動洗車機を使用するときは、アンテナを取り外してください。

アンテナを格納した状態で自動洗車機を使用すると、アンテナが破損することがあります。また、取り外したアンテナは紛失しないようにしてください。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

この章では、運転操作、給油などについて記載しています。

運転の前に

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

■ 車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
  ▶ 霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
  ▶ 屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
  氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
  ▶ 足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
  ▶ 走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
  ▶ 空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
  タイヤの点検と整備 P. 212
- 車の周囲に子供はいないか？
  車の周りに障害物はないか？
  ▶ 運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。
無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。
車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

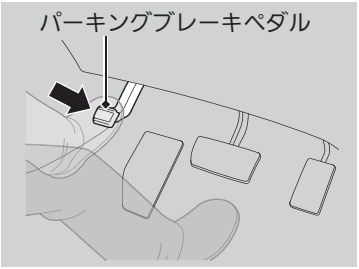
■ 車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっていないか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
  ▶ ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。
- フロントシートの足元にものを置いていないか？
- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
  ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
  ▶ 後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
  ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シート位置などが適切に調節されているか？
  ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
  ➔ **シートの調節** P. 102
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか？
  ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
  ➔ **ミラー類の調節** P. 101
  ➔ **ハンドルの調節** P. 100
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
  ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
  ➔ **シートベルトの着用** P. 11
- ドア、テールゲートが確実に閉まっているか？
  ▶ 走行前にすべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
  ➔ **車内での施錠 / 解錠** P. 82
- パワーシステムを起動したとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
  ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
  ➔ **警告灯** P. 45

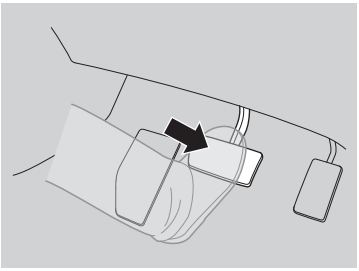
運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。
運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車に合ったフロアマットをお使いください。

パワーシステムの起動



1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する。



2. 右足でブレーキペダルを踏む。
3. アクセルペダルを踏まずに、POWERを押す。



4. READY 表示灯の点灯を確認する。
   ▶ READY 表示灯が点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
   ▶ パワーシステムが起動すると、READY表示灯が点灯し運転することができます。

⚠警告

12V バッテリー液が不足しているときは、パワーシステムを起動しない。
12V バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠注意

パワーシステムを起動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのパワーシステムの起動は、すべての電気アクセサリーを OFF にしてから行います。
寒いときのパワーシステムの起動は、12Vバッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリーをすべてOFFにしてから行ってください。

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。
Honda 販売店で点検を受けてください。

■ パワーシステムの停止

1. シフトポジションを P にする。
2. POWER を押す。

■ 発進時の操作

⚠注意

アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しない。
急発進して思わぬ事故の原因となります。

坂道での発進時は、必ずパーキングブレーキを併用してください。
車が後退しないよう、パーキングブレーキをかけたまま、先にブレーキペダルを離してアクセルペダルに踏みかえてから、パーキングブレーキを解除してください。

■ ヒルスタートアシストシステム
急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約 1 秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

走行時の注意点

走行中はパワーシステムを停止しないでください。
下記のような状態になり危険です。
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

走行中はシフトポジションを N にしないでください。
エンジンブレーキや回生ブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

1,000km 走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

■ その他の注意点

アドバイス

停車中や極低速のときにハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどして EPS(電動パワーステアリング) システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。
システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

下記のような場合には、アンダースポイラーを損傷するおそれがあります。
- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 平坦路から上り坂・下り坂および上り坂・下り坂から平坦路への乗り入れ
- 路肩等段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ(穴)のある個所の通過

デュアルクラッチトランスミッションについて

上り坂での停車時、クリープ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。
ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

シフト操作

走行状態に応じてセレクトレバーで切り換えます。



P パーキング
駐車またはパワーシステムを起動するとき

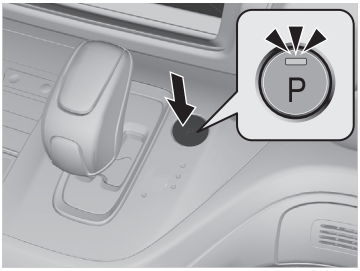
R リバース
車を後退

N ニュートラル
駆動力が伝達されない状態

D ドライブ
通常走行

L ロー
強いエンジンブレーキが必要なとき

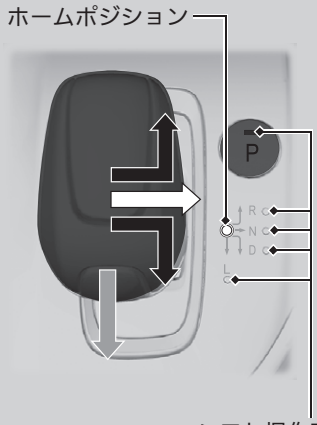
■パーキングスイッチ



パワーモードが ON モードで車が停止しているとき、スイッチを押すとシフトポジションがPになり、スイッチのインジケーターが点灯します。

Rのポジションのときは、チャイム音が鳴り運転者にシフトポジションがRの位置になっていることを知らせます。

■ セレクトレバーの操作



P にするときは、パーキングスイッチを押します

R、D にするときは、矢印の方向にセレクトレバーを操作します

N にするときは、セレクトレバーを右にスライドさせ、そのまま保持します

L は D のときのみ選択できます。
そのため、L にするときは D にしてから、矢印の方向にセレクトレバーを操作します

操作後、セレクトレバーから手を離すと◎(ホームポジション)位置へ自動的に戻ります。

⚠警告

セレクトレバーにものをぶら下げたりしない。
レバーがホームポジションに戻らなくなるため、車が突然発進するなどの思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるおそれがあります。

車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにシフトポジション表示灯でもシフトポジションの位置を確認してください。

走行中にトランスミッション警告灯が点滅しメッセージが表示された場合は、トランスミッションに異常があります。
急加速を避け、Honda 販売店で点検を受けてください。
全てのシフトポジションが点灯した場合は、ただちに安全な場所に車を停車してください。
異常なければ消灯しますが、Honda 販売店で点検を受けてください。

■ 自動パーキング選択制御

駐車をするときは、安全のために、運転席ドアを開ける前にシフトポジションを P にし、適切な方法により行ってください。
この制御により P になった後、発進する場合は、ドアを閉めてシートベルトを装着し、シフト操作をしてください。

■ ドア Open 自動パーキング選択制御

パワーモードが ON モードで車が停止、または、車速が 2 k m/h 以下のときに、P 以外のシフトポジションのまま、運転席のシートベルトをはずし運転席ドアを開けるとシフトポジションが自動で P になります。

▶ その後シフト操作を行い、他のシフトポジションを選択しても、ブレーキペダルを離すと再度自動で P になります。

この制御により P になったときは、ドアを閉めて、改めてシフトポジションを選択してください。

■ パワーモード Off 自動パーキング選択制御

停止中にシフトポジションが P 以外のまま、パワーモードを OFF モードにすると、シフトポジションが自動で P になります。

■ アクセサリーモード時の N ポジション保持制御

シフトポジションを N にして、約 5 秒以内に POWER を押すと N の状態のままパワーモードはアクセサリーモードになります。

▶ アクセサリーモードを 15 分間保持した後、自動的に OFF モードになります。

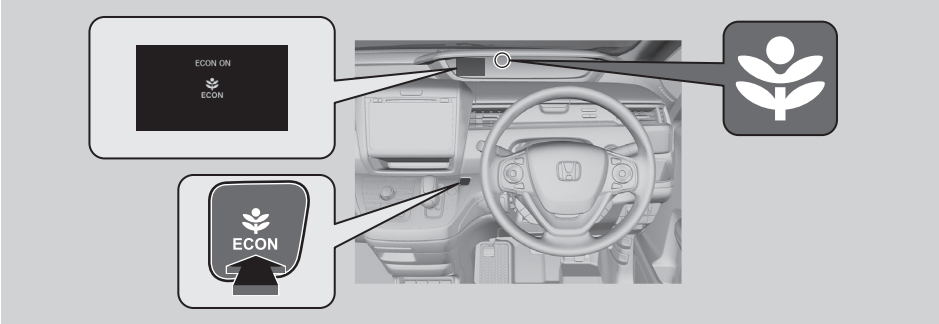
この制御中に、シフトポジションを P にすると、この制御は解除され、OFF モードになり、このときに数秒間 P が点灯します。

■ シフトポジションの選択制限

不正な操作をすると、安全のため、シフトポジションの選択が制限されます。

<table>
<tr><th>操作前のシフトポジション</th><th>1. 操作・走行状態</th><th>2. パーキングスイッチ・セレクトレバーの操作</th><th>3. 操作後のシフトポジション</th><th>対処のしかた</th></tr>
<tr><td rowspan="2">P</td><td>ブレーキペダルを踏んでいない</td><td rowspan="4">他のシフトポジションを選択する</td><td rowspan="2">P</td><td rowspan="4">アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏む</td></tr>
<tr><td>アクセルペダルを踏んでいる</td></tr>
<tr><td rowspan="2">N</td><td>低速走行中で、ブレーキペダルを踏んでいない</td><td rowspan="6">N</td></tr>
<tr><td>低速走行中で、アクセルペダルを踏んでいる</td></tr>
<tr><td>N D L</td><td>前進している</td><td>R を選択する</td><td rowspan="3">停車する</td></tr>
<tr><td>R N</td><td>後退している</td><td>D を選択する</td></tr>
<tr><td>R N
D L</td><td>走行中</td><td>パーキングスイッチを押す</td></tr>
<tr><td>R</td><td>ー</td><td>L を選択する</td><td>D を選択してから L を選択する</td></tr>
<tr><td rowspan="2">P N</td><td>ー</td><td rowspan="2">操作時のシフトポジションのまま</td><td rowspan="2">READY 表示灯の点灯を確認する</td></tr>
<tr><td>READY 表示灯が点灯していない</td><td>P N 以外を選択する</td></tr>
</table>

ECON スイッチ



スイッチを押すと、エンジン、トランスミッション、モーター、エアコンの作動を制御して、省燃費運転をしやすくするように制御します。

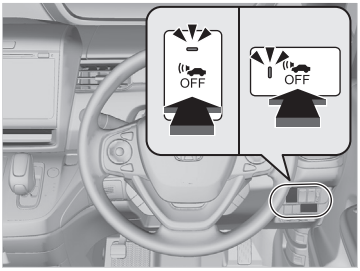
パワーモードが ON モードのときに ECON スイッチを押して、ECON モードの ON と OFF を切り替えてください。

▶ ECONモードがONの時は、メーター内の表示灯が点灯し、運転の状況に応じて省燃費制御に切り換わります。

車両接近通報装置

約20km/h以下で走行しているときに、歩行者に車両の接近を知らせるため、走行音を発生させるシステムです。

■ 車両接近通報装置の ON と OFF



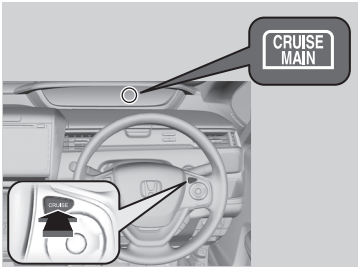
車両接近通報を停止(OFF)状態にするには、OFFを押してください。
車両接近通報が停止状態になります。

再度使用 (ON)するには、OFFを押します。

前回の走行時に OFF にした場合でも、再度パワーシステムを起動させると自動的に ON になります。

クルーズコントロール*

高速道路のような加速/減速操作の少ない自動車道などで、定速運転をするときアクセルペダルを踏まなくても車速を一定に保つための装置です。クルーズコントロールは手元のスイッチ操作で、車速の上げ / 下げなどが行えます。



ハンドルの CRUISE スイッチを押すとメーターの CRUISE MAIN が点灯し、クルーズコントロールが ON になります

- 使用できるシフトポジション:D
- 使用できる車速:約30 ～ 100km/h の範囲の希望値

⚠警告

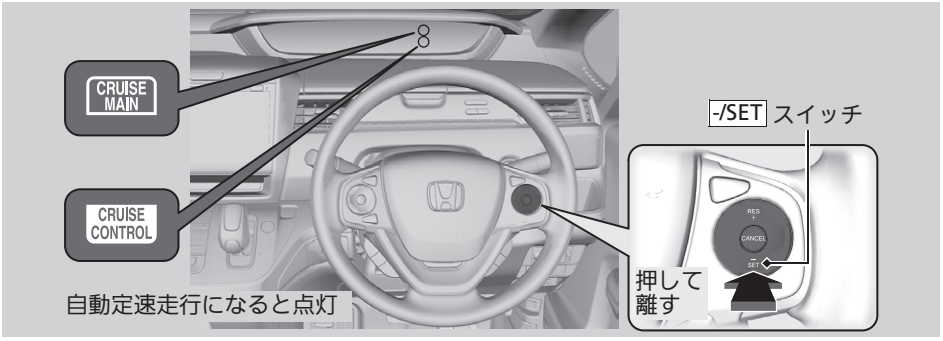
下記のような道路で、クルーズコントロールを使用しない。

道路状況によっては、思わぬ事故につながります。

- **混んでいて、車間距離が十分にとれない道路**
  道路状況に合った速度で走行できません。
- **急な下り坂のある道路**
  エンジンブレーキや回生ブレーキが十分効かず、セットした速度を超えてしまうことがあります。
- **凍結や積雪などで滑りやすい道路**
  タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

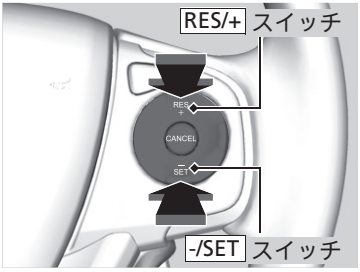
■ 車速をセットするには



希望の車速になったらペダルから足を離し、-/SETを押します。
-/SETを離すと、離したときの車速にセットされ自動定速走行になります。同時に、CRUISE CONTROL 表示灯が点灯します。

■ 車速を調節するには

手元のRES/+と-/SETの操作で、車速を上げ / 下げすることができます。



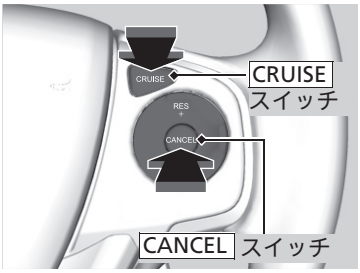
RES/+スイッチ

- 1 回押すごとに約 1.5km/h ずつ車速が上がる
- 押し続けると車速が上がり、手を離したときの車速に固定

-/SETスイッチ

- 1 回押すごとに約 1.5km/h ずつ車速が下がる
- 押し続けると車速が下がり、手を離したときの車速に固定

■ 解除するには



次の操作をすると、自動定速走行が解除されます。

- CANCEL を押す
- CRUISE を押す
- ブレーキペダルを踏む

同時に、**CRUISE CONTROL** 表示灯が消灯します。

解除前の設定車速に復帰させる

自動定速走行を解除したあとでも、30km/h以上の車速で走行中にRES/+を押すことで、解除前の設定車速の自動定速走行に戻すことができます。

ただし、下記の場合は復帰できません。

- 解除後、車速が 30km/h 未満になったとき
- CRUISE で OFF 操作をしたとき

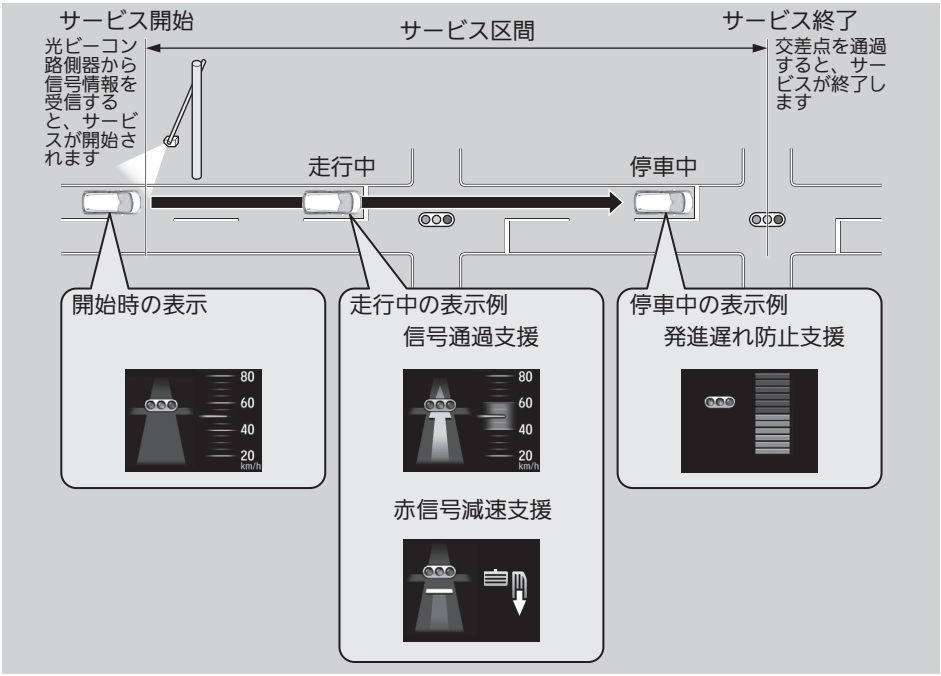
車速が 25km/h 以下になると

自動的に自動定速走行が解除になります。

メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車

信号情報活用運転支援システム

信号情報活用運転支援システムは走行時に受信した複数の交差点の信号予定情報を基に、信号通過支援、赤信号減速支援、発進遅れ防止支援をマルチインフォメーションディスプレイ内に表示し、運転者にお知らせする機能です。



⚠警告

信号情報活用運転支援システムは補助機能として使用する。

信号情報活用運転支援システムは、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者に情報提供するための機能です。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

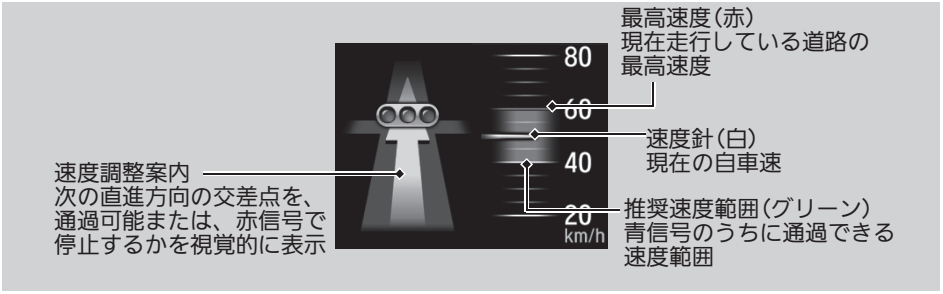
別売の VICS 光ビーコンユニット装着時のみ表示されます。詳しくは Honda 販売店にご相談ください。

サービス区間を走行することにより、車側からも光ビーコン路側器へ送信される情報があります。その情報は各都道府県の交通管制センターにて管理されますが、個人や車を特定できるものではありません。その情報は渋滞状況の把握や信号制御の改善等に使われます。

発進遅れ防止支援時にはポーンという音が鳴ります。

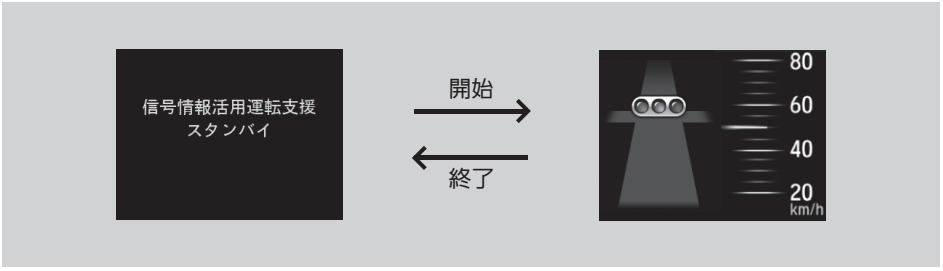
■ システムの作動

表示名称と機能は以下のとおりです。



■ サービス開始と終了

光ビーコンの下を通過し、信号制御情報を受信したときにサービスを開始します。



サービスを終了すると、スタンバイ状態になります。

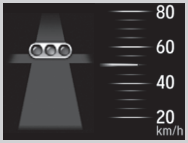
サービス途中で右左折した場合スタンバイ状態になります。

自車の前方が渋滞時は作動タイミングが合わないことがあります。

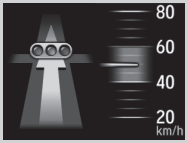
■ マルチインフォメーションディスプレイの表示

各支援表示に合わせ周囲の状況を確認しながら適切に走行することで省燃費運転を手助けします。

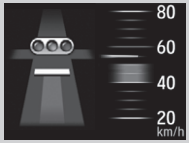
• 信号通過支援表示 / 赤信号減速支援表示(走行中)



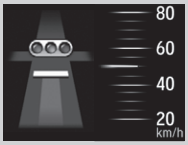
❶ 普段通り運転してください



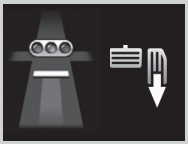
❷ 青信号で通過可



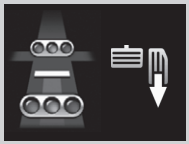
❸ 今の速度では赤信号で停止します
速度調整をする



❹ 赤信号で停止します

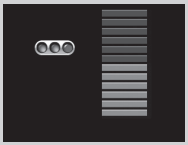


❺ 目の前の信号で停止します
アクセルペダルから足を離す

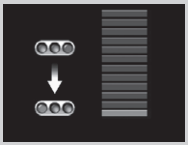


❻ 2 つ目の信号で停止します
アクセルペダルから足を離す

• 発進遅れ防止支援表示(赤信号で停止中)



❼ 赤信号の残時間を表示



❽ まもなく青信号に変わります

通過支援表示が交差点直前では ❶ の表示になります。

配信される信号情報には有効時間があります。
▶ 渋滞などで有効時間を過ぎると ❶ の表示になります。

❺❻表示は走行中の道路環境(勾配など)によっては遅く感じたりすることがあります。

前方の信号が感応式信号機などの場合は発進遅れ防止支援や通過支援に対し、表示(推奨速度範囲も含む)が遅れたり早くなることがあります。

右折や左折の矢印表示がある信号機で右折待ちや左折待ちの場合、支援表示はあくまでも自車が直進する想定で表示します。

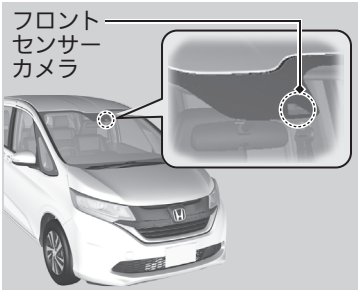
■ 信号情報活用運転支援システムの条件と制限

以下の条件によりサービスが制限されます。

- （通信機器の整備状況により）全ての路線でサービスされるわけではありません
- サービス路線であってもサービスされない区間があります
- 同じ交差点を通っても支援が出る場合と出ない場合があります
- サービス区間であっても工事や管制センターメンテナンス等でサービスしていない時間帯があります
- 押しボタン式交差点等、サービス対象外の交差点があります

フロントセンサーカメラ*

ACC(アダプティブクルーズコントロール)、LKAS(車線維持支援システム)、路外逸脱抑制機能、衝突軽減ブレーキ(CMBS)、誤発進抑制機能、歩行者事故低減ステアリング、先行車発進お知らせ機能、標識認識機能に使用するカメラを装備しています。



カメラはフロントガラス上部に設置されています。

炎天下に駐車したときなど、室内温度が高温になり、カメラ機能が一時停止する場合があります。一時停止を防ぐため、駐車時は太陽光を避けて日陰に駐車することをおすすめします。反射サンシェードを使用する場合、カメラを覆わないでください。覆うとカメラに熱を集中させてしまう可能性があります。

フロントガラスにフィルムを貼ったり、カメラの視野を遮るものを取り付けないでください。

カメラの視野内のフロントガラスにキズ、打痕、損傷があると、システムが正常に作動しなくなることがあります。この問題が発生した場合、フロントガラスの交換をお勧めします。
Honda 純正品以外のフロントガラスを使用するとシステムが正常に作動しなくなる場合があります。
フロントガラスの修理や交換をする場合は Honda 販売店にご相談ください。

カメラのレンズを汚したり傷つけたりしないでください。

インストルメントパネル上部に物を置かないでください。
物がフロントガラスに反射して車線を的確に検知できない場合があります。

カメラを取り外さないでください。システムが正常に作動しなくなる場合があります。
次の場合は Honda 販売店にご相談ください。
- カメラ及び周辺部に衝撃が加わったとき

フロントガラスが曇った場合は曇りをとってください。
必要に応じてデフロスターモードを使用してください。

ボンネット、フロントグリルの上にカメラの視野を妨げるものを装着しないでください。
カメラの視野を妨げシステムが正常に作動しない場合があります。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

歩行者事故低減ステアリング✤

レーダーとカメラにより歩行者と白線(黄線)を検出し、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

⚠警告

歩行者事故低減ステアリング機能は、運転者の運転操作を支援するシステムです。
あらゆる状況での歩行者事故を、軽減したり回避できるものではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

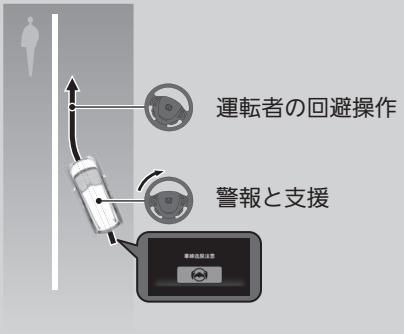
運転者は周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

車線内を走行していないときは、歩行者事故低減ステアリング機能は作動しません。

■ システムの作動



カメラが車線を認識し、
レーダーとカメラにより
歩行者を検出します



路肩の歩行者との衝突のおそれがある場合、表示と警報音で警報し、さらにステアリング支援で回避操作を促すので、必ず回避行動をとってください。
回避状況によっては CMBS が作動する場合があります。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ システムの作動条件

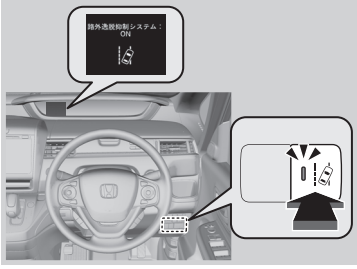
歩行者事故低減ステアリングは以下の状態で作動します。

- 歩行者が路肩を歩行しているときに、車両がその歩行者に向かって車線から逸脱していくとき
- 実線の白線(黄線)が連続しているとき
- 車速が約 10 ～ 40km/h で走行しているとき
- 直線の道路を走行しているとき

歩行者事故低減ステアリングは以下の状態では作動しません。

- ワイパーを連続で作動させているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を出しているとき

■ システムの ON と OFF



歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能が ON のときに作動します。

路外逸脱抑制スイッチを押して、歩行者事故低減ステアリングの ON と OFF を切り替えてください。

▶ ONのときは、路外逸脱抑制スイッチのインジケーターが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ 歩行者事故低減ステアリングシステムの条件と制限

以下の条件で、歩行者事故低減ステアリングの支援が遅れたり、支援できない場合があります。

運転者が周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

■ 環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 天候(雨、霧、雪など)により、白線(黄線)や歩行者が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が歩行者や路面に反射しているとき
- トンネルの出入り口など、周辺の明るさが急に変わるとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき
- ガードレールなどの影が、道路上に映っているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- カーブ、うねった道路、坂道など、道路状況により白線(黄線)や歩行者を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、歩行者の周囲に電波を強く反射する物があるとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき

■自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- カーゴスペースや、セカンドシート、サードシート✤ に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- 衝突を回避しようとして、運転者がブレーキやステアリングを操作したとき
- フロントロアグリルが汚れているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 先行車との車間距離が短いとき

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ 歩行者の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 自車の前方に歩行者が飛び出すなど、歩行者が急に見え始めたとき
- 歩行者の一部（頭や手足など）が荷物等によりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて、カメラが歩行者を検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき

■ その他、作動できない事例

- 急加速やステアリング操作をしながら、前方の歩行者に接近したとき
- 歩行者のかたちとしてカメラが正しく検知できないとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき

歩行者事故低減ステアリングシステムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- フロントロアグリルは常にきれいにしておく
- フロントロアグリルのお手入れにベンジン、シンナー類、クレンザーなどの磨き粉類を使わない
- フロントロアグリルにステッカーを貼らない
- フロントロアグリルを交換しない

路外逸脱抑制機能*

路外逸脱抑制機能はシステムが車両の車線逸脱の可能性を検知すると、車線逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

⚠警告

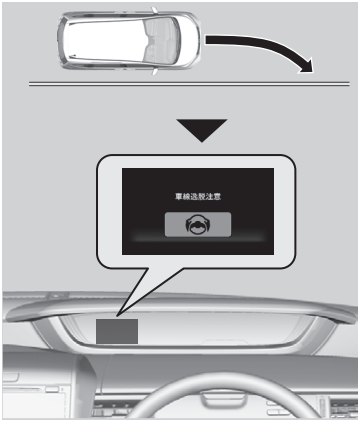
路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ システムの作動



このシステムは、フロントガラス上部に設置されたカメラによって左右の白線または黄色線を検知し、方向指示器(ウィンカー)を使用せずに白線(黄線)を逸脱したことを判断したとき、作動します。
マルチインフォメーションディスプレイにより警告を行うとともに、ハンドルを短時間振動させることで運転者の操作を促し、さらに逸脱を防ぐ方向にハンドル操作を支援します。
また逸脱を回避するのに大きくハンドル操作が必要なときは、ハンドル操作の支援とともにブレーキ操作の支援も行います。
ブレーキ操作の支援は、検知した線が実線のときのみ行われます。



システムの支援中に運転者が操作した場合は運転者の操作を優先します。
支援中に運転者が操作しなかった場合は左記の警告を表示します。

繰り返し左記の警告が表示されても、運転者の操作がない場合は、警報音が鳴り支援を中断します。

■ システムの作動条件

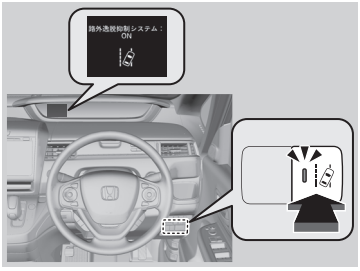
路外逸脱抑制機能は、以下の条件を満たすとき、作動します。

- 車速が約 60 ～ 100km/h で走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)が OFF のとき
- ワイパーが連続で作動していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

下記の条件下では路外逸脱抑制機能を抑制しています。

- 車線内を走行していないとき
- カーブ内側に、はみ出して走行してしまっているとき
- 車線幅が狭いとき

■ システムの ON と OFF



路外逸脱抑制スイッチを押して、システムの ON と OFF を切り替えてください。

▶ システムが ON の時は、路外逸脱抑制スイッチのインジケーターが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ 路外逸脱抑制機能の条件と制限

以下の条件では、システムは白線(黄線)を検知できず、システムが正しく機能しない場合があります。

■ 環境の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 天候(雨、霧、雪など)により、白線(黄線)が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき
- ガードレールなどの影が、道路上に映っているとき

■ 道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

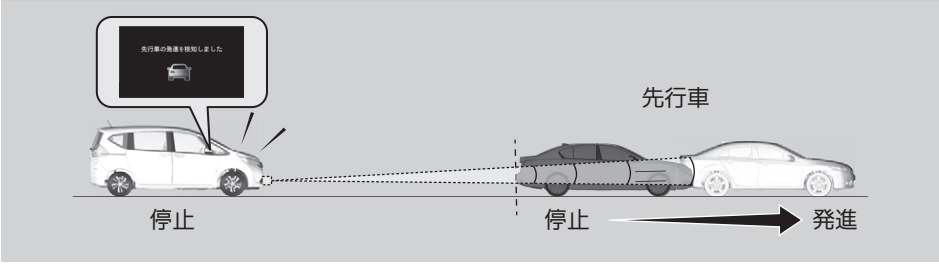
- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき

■ 自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやセカンドシート、サードシート✤ に重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 先行車との車間距離が短いとき

先行車発進お知らせ機能✤

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。



⚠警告

先行車発進お知らせ機能は、運転者をアシストするための補助システムです。安全に発進できる状況を知らせるシステムではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

発進するときは、運転者が目視で周囲と前方の安全を十分に確認し、適切な車間距離を保ち運転してください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ システムの作動条件

先行車に続いて停車(停止状態での車間距離が約10m以内、かつ自車・先行車がしばらく停止)すると先行車を認識し続け、先行車の発進を検知しても自車が停止し続けたときに作動します。

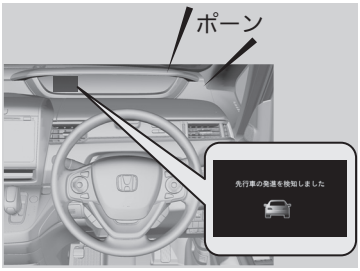
■ シフトポジションがDの場合

ブレーキペダルを踏んでいる。

■ シフトポジションがNの場合

ブレーキペダルを踏んでいるまたはパーキングブレーキが作動している。

■ システムの作動状態



システムが作動すると、「ポーン」とブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ 先行車発進お知らせ機能の条件と制限

次のような場合、先行車が発進していなくてもシステムが作動したり、先行車が発進していてもシステムが作動しないことがあります。

■ 自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーゴスペースやセカンドシート、サードシート✤ に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- フロントロアグリルが汚れているとき
- 自車の停車している時間が短いとき

■ 環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例
- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

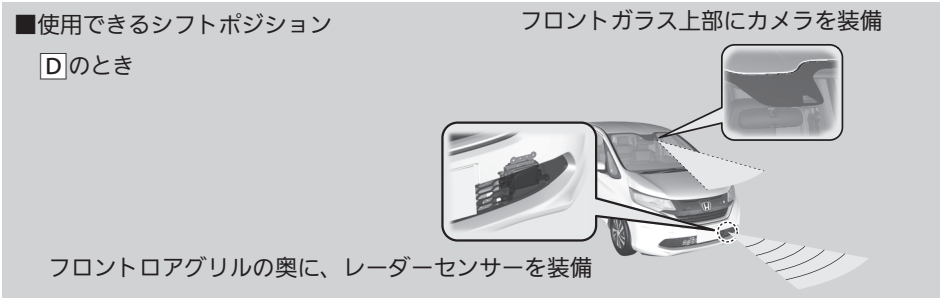
■先行車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例
- 先行車の停車している時間が短いとき
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
- 先行車が右左折や急旋回したとき

■その他、レーダーセンサーが正しく検知できない事例
- 歩行者や自転車、二輪車、特殊な形状の車両など
- 自車と先行車の間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んできたとき
- 先行車が自車の正面にいないとき

ACC(アダプティブクルーズコントロール)❖

ACC は、フロントロアグリルの奥に設置してあるレーダーセンサーとフロントガラス上部に設置してあるカメラが先行車との車間距離を測定して、高速道路走行時に設定した車間距離を保つように適切な加減速を行い、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに追従または定速走行出来るよう支援するシステムです。
ACC によるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。

ACC を作動させるには:
ACC システムは、シフトポジションがDのときに使用することができます。



ブレーキペダルを操作しての減速中や、パーキングブレーキがかかっているときは、ACC は作動しません。
悪天候などで、レーダーセンサーが先行車との車間距離を測定できないときは、システムが作動しないことがあります。

この「❖」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

⚠警告

ACC の不適切な使用は事故につながります。取扱説明書の操作手順に従い操作してください。
高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

⚠警告

ACCは、補助システムとして使用してください。ACCは、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

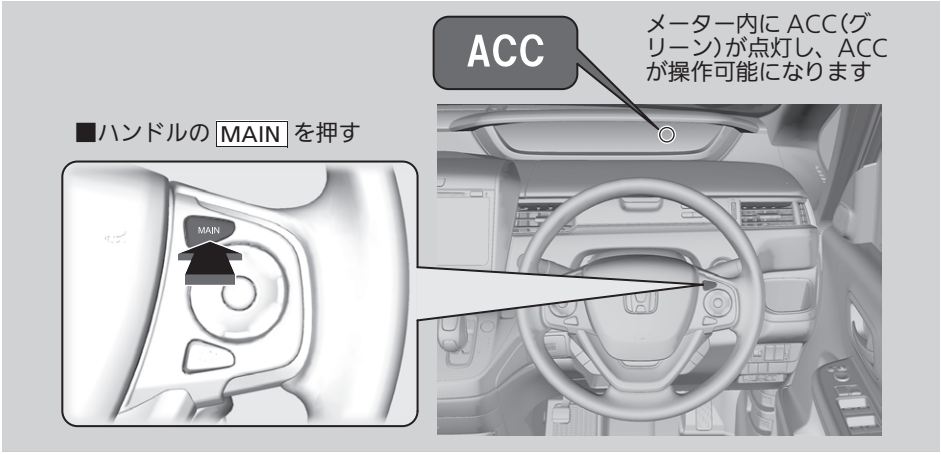
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

フロントロアグリルの周囲に強い衝撃を与えないようにしてください。

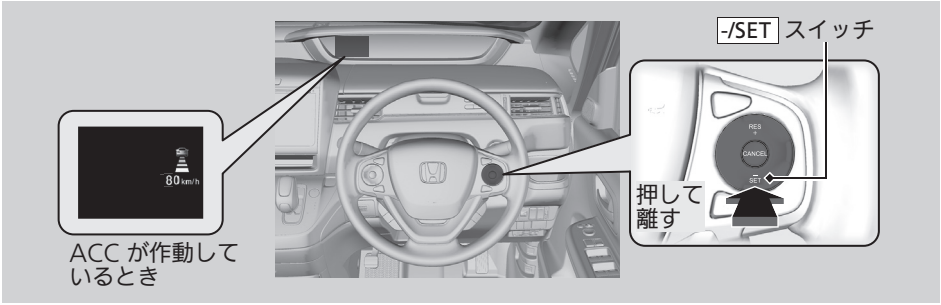
使用上の注意:
ACC は、運転者を支援するシステムです。天候や環境などによって機能しないことがあります。必要なときはブレーキペダルを使用し、常に安全な車間距離を保ってください。

パワーモードを ON モードにするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードを ON モードにすると、ACC が作動しない場合があります。

■ システムを作動させるには



■ 車速をセットするには



車速が 30km/h 以上でブレーキペダルを操作していないときに -/SET を押して離すと現在の車速が設定車速とされ、ACC が作動し、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンや設定車速が表示されます。



MAINを押すと、ACC と LKAS の両方が ON と OFF に切り換わります。

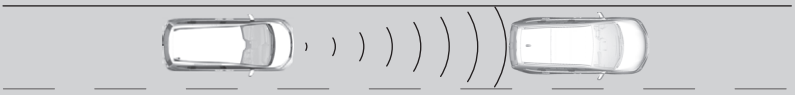
下記の状況のときは、ACC を使用しないでください。

- 交通量の多い道路や頻繁に加減速を繰り返すような交通状況では、交通状況にあった速度で走行できません。
- 急カーブのある道では道路状況にあった速度で走行できません。
- 急な下り坂では設定した車速を超えてしまう場合があります。このような場合は、ACC によるブレーキは作動しません。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するときは、自車の前から先行車がいなくなることでセットした車速まで加速を始めてしまいます。
- 悪天候（雨、霧、雪など）のときは先行車との車間距離を正確に測定できません。
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面ではタイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。

■ ACC の作動

■先行車がいるとき

ACC は先行車がレーダーセンサーの検知範囲に入ると、先行車の車速変化に合わせ、設定車速の範囲内で車間距離を保ちながら追従走行します。



ACC の検知範囲：120m



マルチインフォメーション
ディスプレイに車のアイコン
が表示されます

設定車速より遅い速度で走行する先行車や割り込み車が前方にあらわれた場合、システムは減速制御を行います。

■先行車がいないとき

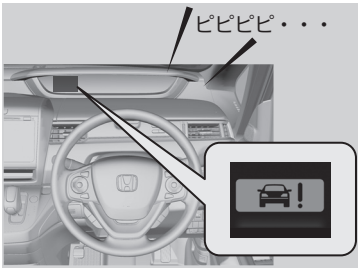


マルチインフォメーション
ディスプレイに車のアイコン
が点線で表示されます。

先行車がいない場合、設定した車速で定速走行します。
先行車が車線変更などでいなくなると、設定車速までゆるやかに加速したあと定速走行します。

■アクセルペダルを踏んだとき

- アクセルペダルを踏み込むと、ACC が一時的に解除され車速が上がります。このとき、ACC の警告範囲内に先行車がいても警告音やマルチインフォメーションディスプレイの警告表示はでません。
- アクセルペダルを離すと、ACC が復帰し追従走行または定速走行を再開します。



先行車が急減速したり、遅い車両が割り込んできたときは、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイの警告で視覚への警告が表示されます。

ブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。

先行車または割り込み車の車速が自車よりも速く、次第に離れていく場合、先行車との距離が短くても警報が出ず、そのまま追従することがあります。

制限:

安全な車間距離を保つために、ACC を使用中でもブレーキペダルを使用しブレーキをかける必要があります。また、天候や環境などにより ACC が適切に作動しないことがあります。

ACC の条件と制限 P. 163

- 道路状況(カーブなど)や自車の状況(ハンドル操作や車線内の位置)によっては、一時的にとなりの車線の車や周囲の物に対して車間距離制御を行う場合があります。
- 先行車がインターチェンジやサービスエリアなどに入る際、自車の前から先行車がいなくなるときは、車間距離制御が少しの間継続する場合があります。

■ ACC の条件と制限

一定の条件でシステムは自動解除し、ACC 警告灯が点灯する場合があります。以下の条件では ACC の機能の一部を発揮できない場合があります。

➲ フロントセンサーカメラ* P. 147

■ 自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- フロントロアグリルが汚れているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- カーゴスペースやセカンドシート、サードシート* に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

■ 環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候
- 前走車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■ 道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 雪道や未舗装路などわだちのある道路
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■ 前方の車両の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 自車の前方に車両が急に割り込んだとき
- 前方の車両との距離が極端に短いとき

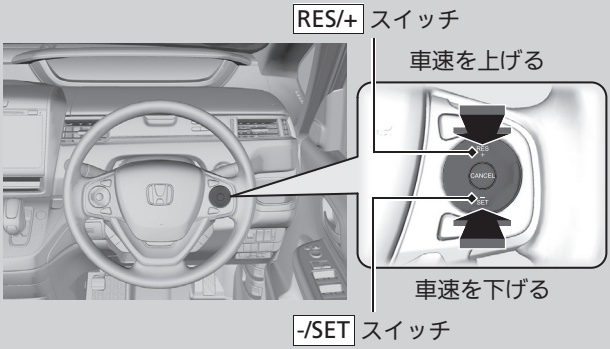
■ その他、システムが正しく作動しない事例

- 前方の車両が駐停車していたり、自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 前方の車両がパネルトラックや特殊な形状の車両のとき
- 自車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行しているとき
- 前方の車両が二輪車など幅の狭い車両のとき

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ 設定車速を調整するには

手元の RES/+ と -/SET の操作で、設定車速を上げ / 下げすることができます。



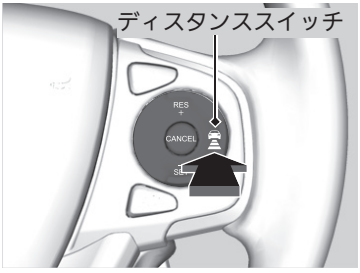
RES/+ スイッチ

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

-/SET スイッチ

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

■ 車間距離を設定するには



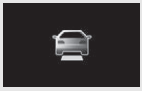
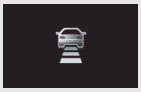
ディスタンススイッチを押し、車間距離を設定します。

先行車との車間距離設定は、4 段階に切り換えることができます。

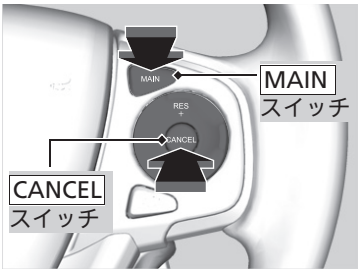
ディスタンススイッチを押すごとに、最長→長→中→短と切り換わります。

適切な車間距離の設定を決定してください。

車速が低くなるほど、車間距離は短くなります。車間距離の目安は以下の通りです。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、実際の交通状況に応じて車間距離を選択して、走行してください。

車間距離設定		車速 80km/h のとき	車速 100km/h のとき
短		約 25m	約 30m
中		約 33m	約 40m
長		約 47m	約 59m
最長		約 61m	約 78m

■ 解除するには



以下のいずれかの操作をすると、ACC が解除されます。

- CANCEL を押す
- MAIN を押す
  ▶ メーター内の ACC(グリーン)が消灯します。
- ブレーキペダルを踏む

■ ACC の自動解除

次の場合は、マルチインフォメーションディスプレイに「ACC OFF」と表示され、「ピー」とブザーが鳴り、ACC が自動解除されます。

- 悪天候（雨、霧、雪など）のとき
- フロントロアグリルが汚れたとき
- 先行車を安定して検知できないとき
- タイヤの異常を検知したとき
- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ABS や VSA、または CMBS が作動したとき
- VSA 警告灯が点灯したとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- 検知した先行車との車間距離が短すぎるとき
- 車速が 25km/h 未満になったとき
- 急加速したとき
- フロントガラス上部のカメラまたはカメラ付近が汚れているとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき

解除前の設定車速を復帰させるには：

ACC を解除したあとでも、RES/+を押すと解除前の設定車速で作動を開始することができます。

ただし、以下の場合は復帰しません。

- MAINを押して ACC を OFF した後
- 30km/h 未満のとき

設定速度の設定や復帰は、MAINスイッチがオフの状態ではできません。

標識認識機能*

標識認識機能は走行中に認識した道路標識情報をマルチインフォメーションディスプレイに表示し、運転者にお知らせする機能です。
表示される道路標識は以下の 4 つです。

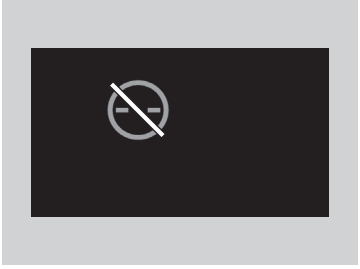
- 最高速度
- はみ出し通行禁止
- 一時停止
- 車両進入禁止

⚠警告

標識認識機能は補助機能として使用する。
標識認識機能は、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。
常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

この機能は、日本の道路標識を認識するよう設計されていますが、すべての標識が表示されるわけではありません。

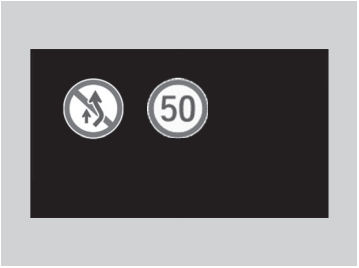
標識認識機能が故障した場合はマルチインフォメーションディスプレイに⛒が表示されます。
⛒のメッセージが消えないときは、Honda 販売店で点検を受けてください。



この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ 作動のしかた

走行中にフロントガラス上部にあるカメラで特定の道路標識を認識し、マルチインフォメーションディスプレイに道路標識情報を表示します。



標識認識機能は以下の条件で作動します。

- 最高速度 / はみ出し通行禁止:速度に関係なく作動
- 一時停止 / 車両進入禁止:自車の速度が約 60km/h 以下のとき

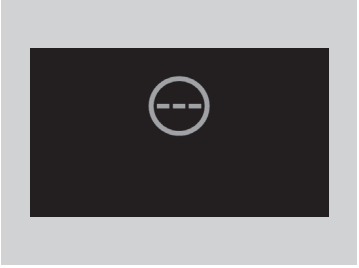
以下のときは、道路標識情報が別のものに切り替わります。

- 表示中の最高速度と異なる最高速度標識を認識したとき
- 一時停止標識または、車両進入禁止標識を認識したとき

以下のときは道路標識情報が消えます。

- 最高速度とはみ出し通行禁止は、標識を通過してから標識ごとに設定された距離(数百〜千数百 m)を走行したとき
- 一時停止は、標識を通過したとき
- 車両進入禁止は、進入せず標識を通過したとき
- 交差点で方向指示器(ウィンカー)を出しながら右左折したとき

運転中に道路標識が認識されない場合や認識できない場合は以下の画面が表示されることがあります。



■ 標識認識機能の条件と制限

以下の場合などにおいては、標識の認識が遅れたり、認識できない場合があります。

■ 自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやセカンドシート、サードシート✤ に重い荷物を積んで、車が傾いているとき

■ 環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が路面に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内等の暗いところ
- 雨、霧、雪などの悪天候
- 前走車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■ 標識の位置や状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 標識の周囲が煩雑で標識を見つけにくい場合
- 自車から遠く離れた位置にある標識
- 自車のヘッドライトの光が届きにくい位置にある標識
- 曲がり角やカーブの先に設置された標識
- 色あせた標識や折れ曲がった標識
- 向きが変えられた標識や破損した標識
- 泥、雪、又は、霜で覆われた標識
- 一部が樹木などで隠れていたり、車両などの陰になった標識
- 標識の表面上に光(街灯など)や影が映り込んでいる場合
- 明るすぎたり、暗い標識(電光式標識)
- 小さいサイズの標識

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ その他、カメラが正しく検知できない事例

- 高い速度で走行しているとき

以下の場合などにおいては、標識認識が正しく作動せず、自車の走路に対する規制内容とは異なる表示をしたり、実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。
(最高速度標識においては、実際の規制速度よりも高い数値を表示したり、低い値を表示したりすることがあります。)

- 標識の上や下に、規制の地点(始まり、終りなど)や条件(曜日、時間帯など)を示す補助標識がある場合
- 数字の判別がつきにくい標識(電光式標識、数字がかすれた標識など)
- 自車の走路に対しての標識ではないが、自車の走路付近にあり、標識が自車の走路に向いている場合(側道が本線に合流する地点の一時停止標識など)
- 認識対象の標識の色、形、図形に似たものがある場合(類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など)

■ マルチインフォメーションディスプレイの表示

同時に二つまで道路標識情報を表示します。ディスプレイの右側には最高速度または一時停止標識、左側にははみ出し通行禁止または車両進入禁止標識を表示します。

選択表示モードのときの表示例





常駐表示モードのときの表示例



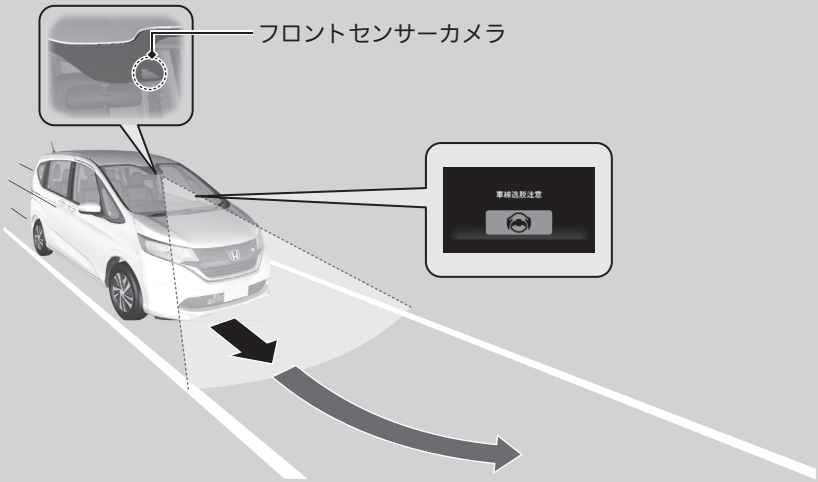
左側は車両進入禁止、右側は一時停止を優先表示します。

車両進入禁止区域に進入すると車両進入禁止アイコンが点滅します。
約 5 秒間点滅したあと、車両進入禁止アイコンは消えます。

LKAS(車線維持支援システム)*

LKAS は、フロントガラス上部に設置してあるカメラによって、左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

■ システムの作動

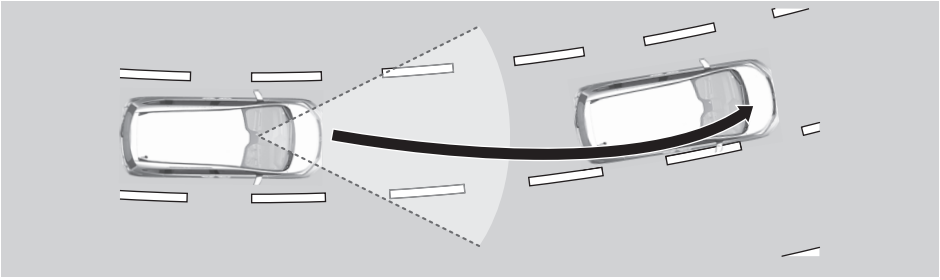


車線変更する場合は、方向指示器(ウィンカー)を操作すると LKAS が一時解除状態になります。その後、車線の中央を走行しカメラが白線(黄線)を検知すると、LKAS が復帰します。ウィンカーを出さずに車線変更すると、LKAS が解除されず車線逸脱警報が作動します。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

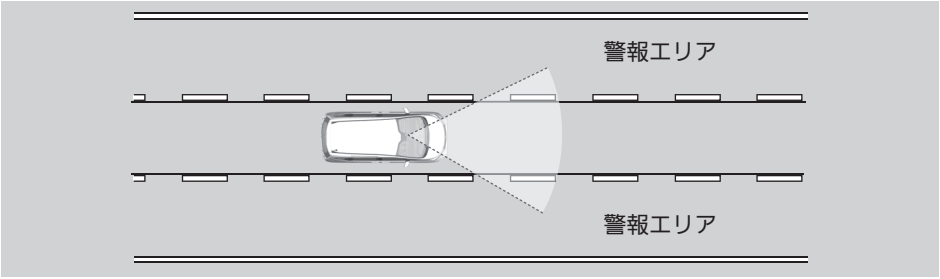
■ 車線維持支援機能

車が車線中央を走行するようにアシストし、白線(黄線)に近づくと電動パワーステアリングの操舵力が強くなります。



■ 車線逸脱警告機能

車が警報エリアに入ると車線逸脱の警報をハンドルの振動とディスプレイ表示で行います。



■ ワイパー作動時の LKAS 自動解除機能

ワイパースイッチを LO、HI または MIST で連続作動しているときは、LKAS は自動解除します。
ワイパーを OFF にすると、LKAS は復帰します。
ワイパーの作動が停止、もしくは間欠作動になると、LKAS は復帰します。

■ 車速による LKAS 自動解除機能

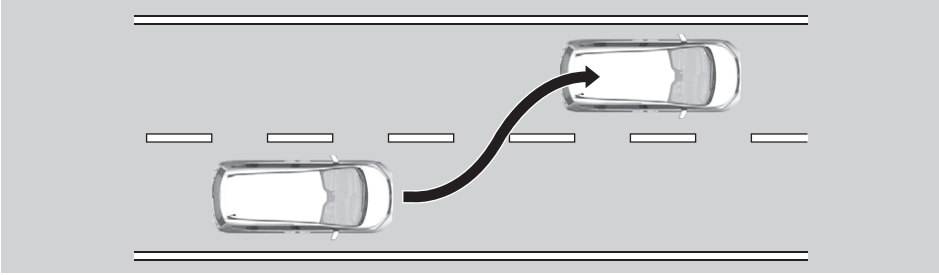
車速が 60km/h 以下になると、LKAS は自動解除します。
車速が 65km/h 以上になると、LKAS は復帰します。

■ ブレーキ操作時の LKAS 自動解除機能

減速などでブレーキペダルを踏むと LKAS が解除され、待機状態になります。ブレーキペダルから足を離し、システムが左右の白線(黄線)を検知すると LKAS が自動で復帰し、車線維持走行を補助します。

■ 車線変更時の一時解除

車線変更する場合は、方向指示器（ウィンカー）を操作すると LKAS が一時解除状態になります。その後、車線の中央を走行しカメラが白線（黄線）を検知すると、LKAS が復帰します。



方向指示器（ウィンカー）を出さずに車線変更すると、LKAS が解除されず車線逸脱警報が作動します。

⚠警告

LKAS は補助システムとして使用してください。LKAS は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

LKAS は方向指示器（ウィンカー）を出さずに車線変更を検知した時のみ警告します。
LKAS は、すべての車線区画線や車線逸脱を検出できない場合があります。また天候や速度、路面状況によっては、システムが機能しないことがあります。
運転者が周囲の道路状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

LKAS は、急なカーブや加速・減速の繰り返しが続く道路では、システムが正常に機能しないおそれがあります。LKAS は、高速道路や自動車専用道路などを運転するときに使用してください。

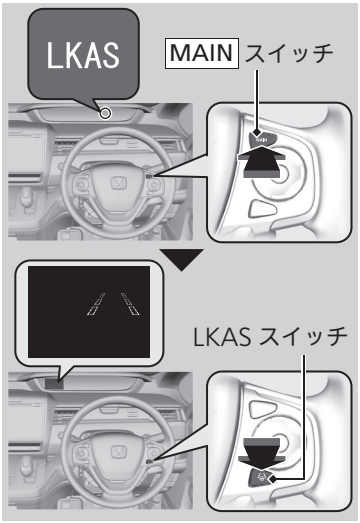
車線の検知に失敗すると一時的にシステムが解除されます。車線を検知するとシステムが自動復帰します。

■ LKAS を作動させるには

LKAS システムは、以下の条件で作動します。

- 車速が約 65 ～ 100km/h で走行しているとき
- 左右に白線（黄線）が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 直線または半径 230m 以上のゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ワイパーを連続で作動させていないとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 方向指示器（ウィンカー）を出していないとき

■ システムの作動方法



1. MAIN スイッチを押す
   ▶ LKAS システムが ON になり、メーター内に LKAS 表示灯（グリーン）が点灯します。

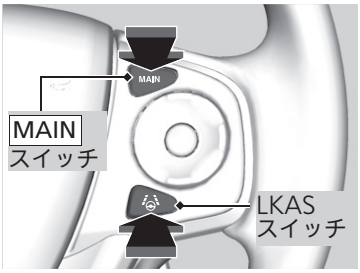
2. LKAS スイッチを押す
   ▶ LKAS システムが待機状態になります。マルチインフォメーションディスプレイに車線表示（点線）が点灯します。



3. 車線の中央付近を走行する
   ▶ 車線中央付近を走行中にカメラが両側の白線（黄線）を検知すると、LKAS が制御を開始します。

サスペンションの改造は行わないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

■ 解除するには

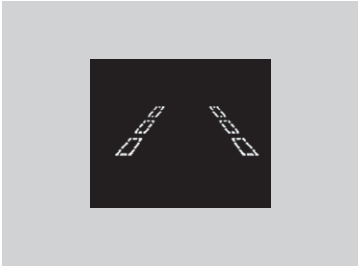


以下のいずれかの操作をすると、LKAS が解除されます。

- MAIN スイッチを押す
- LKAS スイッチを押す

前回走行時に LKAS が ON 状態でも、パワーモードを OFF モードにする度に LKAS は OFF になります。

MAIN スイッチを押すと、LKAS と同時に ACC も解除されます。



■ LKAS の自動解除

次の場合、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が点線で表示され、LKAS が自動解除されます。

- ワイパーを連続作動したとき
  ▶ ワイパースイッチを LO、HI または MIST で連続作動しているときは、LKAS は自動解除します。ワイパーを OFF にすると、LKAS は復帰します。
- ブレーキ操作をしたとき
  ▶ 減速などでブレーキペダルを踏むと LKAS が解除され、待機状態になります。ブレーキペダルから足を離し、システムが左右の白線（黄線）を検知すると LKAS が自動で復帰します。
- 車速が 60km/h 以下になったとき
  ▶ 車速が 60km/h 以下になると、ブザーが鳴り、LKAS は自動解除します。車速が 65km/h 以上になると、LKAS は復帰します。

次の場合、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が点線で表示され、ブザーが鳴り、LKAS が自動解除される場合があります。

- 白線(黄線)を検知できないとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ハンドル操作をしていないとき
- 急なカーブを走行したとき
- 制限速度を超えた速度で走行したとき
- カメラ内部の温度が一定以上高温になったとき
- カメラまたはカメラ付近のフロントガラスが汚れているとき
- ABS、VSA が作動しているとき

■ LKAS の条件と制限

以下の条件では、システムは白線(黄線)を検知できず、LKAS が正しく機能しない場合があります。

■ 環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 天候(雨、霧、雪など)により、白線(黄線)が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき
- ガードレールなどの影が、道路上に映っているとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき

■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着したり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやセカンドシート、サードシート✤ に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 先行車との車間距離が短いとき

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

■ ABS(アンチロックブレーキシステム)機能

P. 184

■ TCS(トラクションコントロールシステム)機能

滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

■ 横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。

電子制御ブレーキアシスト P. 184

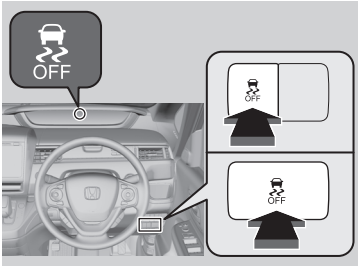
種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSA が正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

■ VSA の作動と警告灯

TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

■ VSA の ON と OFF



VSA 機能を部分的に停止(OFF)状態にするには、OFF を「ピッ」とブザーが鳴るまで押してください。
TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなります。

REAL TIME AWD(オールホイールドライビング)システム✤

AWD(オールホイールドライビング)システムは、積雪地、砂地、ぬかるみ、急坂路など滑りやすい路面において、2WD 車(二輪駆動車)に比べて走破性にすぐれていますが、万能ではありませんので以下の点に注意してください。

- アクセル、ハンドル、ブレーキ操作は一般の車と同じく慎重に行う
- 砂地、ぬかるみなど、前輪が空転しやすい場所での連続走行はしない
- 渡河などの水中走行はしない
- ブレーキ性能は 2WD 車と比べてほとんど差がないため、滑りやすい路面では十分に車間距離をとって走行する

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、AWD が正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

AWD の状態で走行中に車輪の空転が続いてシステム内の油温が上がると、システム保護のため AWD から 2WD に切り換わることがあります。

しばらくして油温が下がると、AWD に復帰します。

高電圧バッテリーの特性

長期間駐車をすると、高電圧バッテリーは少しずつ放電をします。

バッテリーの性能を維持するために、少なくとも 3ヶ月に一度、30 分以上走行をしてください。走行によりバッテリーに充電されます。

長期間走行をしないと、高電圧バッテリー充電容量が低下したり、寿命が縮む原因となります。

バッテリーの寿命を長くするために、夏場は日陰への駐車をおすすめします。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■ エンジンの自動停止・始動

車の状態に応じて、エンジンが自動的に停止、始動します。停車中は、エンジンが停止状態から始動することがあります。

ただし、以下の状態では自動的に停止しないことがあります。

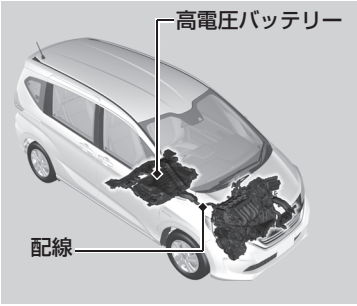
- 急加速、登坂、高速走行時など、瞬間的に駆動力が足りず補助が必要なとき
- オートエアコンの温度を過度に高く設定しているとき
- 高電圧バッテリーの温度が高いとき、または低いとき

これらの状態以外でも、エンジンが自動的に停止しない場合があります。

次のようなときは、エンジンが自動的に始動することがあります。

- シフトポジションがPのまま、運転席のシートベルトをはずし、運転席ドアを開けたとき

ご使用時の注意



■ 高電圧システムには触れない

高電圧システムの分解や配線取り外しなどを行うと感電するおそれがあります。点検・修理は、必ずHonda販売店にご相談ください。

■ 事故が起きたとき

- **感電に注意する**
  ▶ 車体が大きく破損・変形するような事故が起きたときは、感電するおそれがあります。
  高電圧部位やそれらを接続する配線（オレンジ色）には、絶対に触れないでください。
- **高電圧バッテリー液に触れない**
  ▶ 高電圧バッテリー液がもれているときは、バッテリー液が目や皮膚に付くとその部分が侵されますので、十分に注意してください。万一付着したときは、すぐに清浄な水で数分間洗浄した後、ただちに医師の診察を受けてください。
- **火災が発生したら電気火災用消火器を使用する**
  ▶ 少量の水での消火は、かえって危険な場合がありますので、水はかけないでください。
- **Honda販売店で修理を受ける。**
  ▶ 車体が損傷を受けたときは、必ずHonda販売店で修理を受けてください。

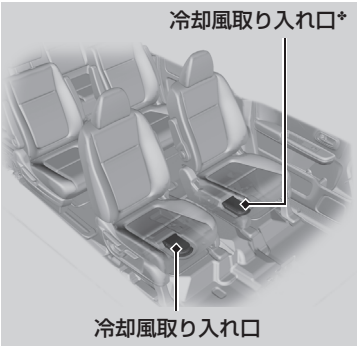
■ 高電圧遮断システム

事故などにより車体が衝撃を受けたときに、高電圧遮断システムが作動する場合があります。システムが作動すると、高電圧システムが自動的に OFF になり、走行可能状態になりません。高電圧システムを再始動するには、Honda 販売店にご連絡ください。

高電圧バッテリーは、リチウムイオンバッテリーを使用しています。廃棄処分については特別な取り扱いが必要です。廃車するときは、必ず下記にご相談ください。

(株)ホンダトレーディング 0120-910574(フリーダイヤル)

■ 冷却風取り入れ口をふさがない



冷却風取り入れ口がふさがれると高電圧バッテリーの温度が上昇するおそれがあります。高電圧バッテリーを保護するために出力が制限され、パワーシステム警告灯や12Vバッテリー充電警告灯が点灯することがあります。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

ハイブリッド車特有の音について

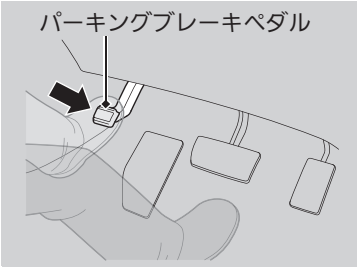
車の始動時や走行中に、次のような箇所から、音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

音が聞こえるとき	状況
エンジンの始動 / 停止、低速走行時	トランスミッションの作動音が車輌前方から聞こえます。
加速時	モーター作動音、エンジン作動音がエンジンルーム内から聞こえます。
減速時・停車時	エネルギーを回生するために、モーター回生作動音がエンジンルーム内から聞こえます。 また、低速走行でブレーキを踏んだとき、アクセルペダルを踏んでいるときやブレーキシステムが切り換わるときにブレーキ装置から、音が聞こえることがあります。
エアコン、ヒーター作動時	コンプレッサーやヒーターシステムの作動音がエンジンルーム内から聞こえます。

ブレーキシステム

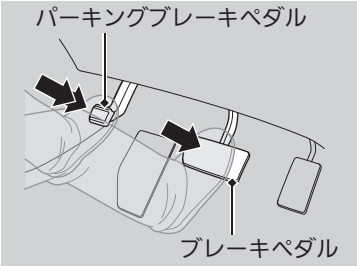
■ パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。パーキングブレーキペダルにより操作します。



■ パーキングブレーキをかける

左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいに踏み込みます。



■ パーキングブレーキを解除する

1. 右足でブレーキペダルを踏む。
2. 左足でパーキングブレーキペダルを踏み、ゆっくりと戻す。

アドバイス

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、リヤブレーキと車軸が損傷するおそれがあります。

パーキングブレーキは完全に解除した状態で、走行してください。

■ フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがありますが、これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。
なお、低速(車速約 10km/h 以下)では ABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABS が正常に機能しないことがあります。

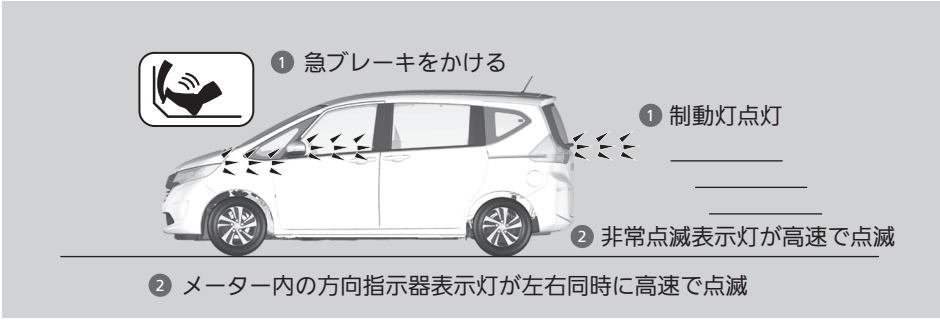
タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

電子制御ブレーキアシスト

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを非常点滅表示灯が自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。60km/h 以上で走行しているときに急ブレーキをかけると作動します。



エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ブレーキペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

衝突軽減ブレーキ(CMBS)*

自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車に正面から衝突するおそれがあるときおよび歩行者に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突を回避したり衝撃を軽減するシステムです。

⚠警告

衝突軽減ブレーキ(CMBS)は、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。レーダーやカメラは天候や速度、路面状況によって検知しにくいことがあります。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

フロントロアグリルの周囲に強い衝撃を与えないようにしてください。

以下の場合、CMBS が自動的に停止し、警告灯が点灯することがあります。

- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- パーキングブレーキをかけて走行したとき
- 雨、霧、雪などの悪天候になったとき
- カメラの温度が高温になっているとき
- フロントロアグリルまたはフロントガラスがほこり、泥、落ち葉、湿った雪などで覆われているとき
- タイヤの異常を検出したとき

CMBS が作動できる状態になると、CMBS は自動復帰します。

パワーモードを ON モードにするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードをONモードにすると、CMBSが作動しない場合があります。

車両の整備や検査の際に、シャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは CMBS を OFF にしてください。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。
- フロントロアグリルは常にきれいにしておく
- フロントロアグリルのお手入れにベンジン、シンナー類、クレンザーなどの磨き粉類を使わない
- フロントロアグリルにステッカーを貼らない
- フロントロアグリルを交換しない

次の場合は、Honda 販売店にご相談ください。
- レーダーセンサーおよびカメラに衝撃が加わったとき
- フロントロアグリルやカメラ周辺の修理を行うとき

頻繁に警報が作動するなど、システムに異常を感じたときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

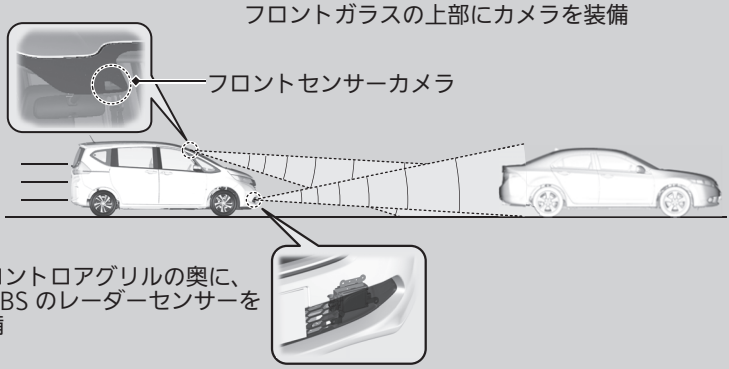
以下のときは、レーダーセンサーが正常に作動しなくなる場合があるため、Honda 販売店で点検を受けてください。
- フロントロアグリルが段差、縁石、輪留め、盛り土などに接触したとき
- 深い水たまりに進入したとき
- 車両前方が衝突、接触したとき

サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

■ システムの作動

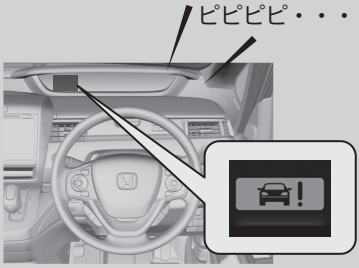
自車の車速が約 5km/h 以上になるとレーダーセンサーとカメラが前方の車両や歩行者の検知を開始。



自車との速度差が約 5km/h 以上ある車両および歩行者に対して衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。
対向車および歩行者に対しては、自車が約 80km/h 以下で走行中に衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。
さらに、約 30 ～ 80km/h で走行中に対向車に対して CMBS が作動する状況では、ステアリング振動による警告も作動します。
CMBS が作動し、停車した後または衝突のおそれがなくなったと判断した後に、自動ブレーキは解除されます。

■ CMBS の警告のしかた

以下の方法により、CMBS は衝突のおそれがあることを、運転者に知らせます。
- マルチインフォメーションディスプレイの警告表示や警告ブザーに加え、ステアリング振動による警告が発生します



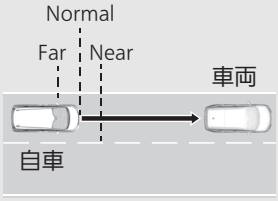
■ ステアリング振動による警告について

対向車に対して衝突のおそれがあるときは、視覚への警告に加え、ハンドルに短時間の弱い振動を発生させて運転者に注意を喚起します。

▶ ブレーキやハンドルを操作するなどの適切な行動で衝突を回避してください。

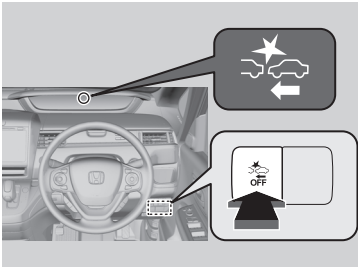
■ CMBS 作動の流れ

CMBSの作動には衝突の可能性に応じ3つの段階があります。しかし、状況によっては途中の段階から作動することがあります。

<table>
<tr><th colspan="2">車両と自車の距離</th><th>状況</th><th>ブザーと表示による警告</th><th>ステアリング</th><th>ブレーキ</th></tr>
<tr><td>第1段階</td><td>
</td><td>車両への衝突のおそれがでてきた状況</td><td>警告表示が2回点滅する
さらに接近すると、警告表示およびブザーによる警報を行う
• 衝突警報距離を変更することができます。</td><td>対向車の場合、ハンドルに短時間の弱い振動が発生</td><td>—</td></tr>
<tr><td>第2段階</td><td>
</td><td>衝突の危険が増し、衝突するまでの余裕が少なくなった状況</td><td rowspan="2">警告表示およびブザーによる警報を行う</td><td rowspan="2">—</td><td>軽いブレーキ</td></tr>
<tr><td>第3段階</td><td>
</td><td>回避が困難な状況</td><td>強いブレーキ</td></tr>
</table>

※: CMBS によるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します。

■ CMBS の ON と OFF



CMBS OFFスイッチを「ピーッ」とブザーが鳴るまで押すことで、システムの ON と OFF を切り換えます。

CMBS が OFF に切り換わったとき CMBS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「CMBS OFF」とメッセージが表示されます。

CMBSをOFFにした状態でパワーシステムを停止すると、再起動時に CMBS は OFF となっています。

次のような場合、レーダーセンサーやカメラが車両、歩行者や路面状況を検知できず、CMBS が正常に作動しない場合があります。

■ 自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- フロントロアグリルが汚れているとき
- フロントガラスの曇り、雨粒、シール等でカメラ前方が覆われているとき
- カーゴスペースやセカンドシート、サードシート✤ に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

■ 環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候
- 夜間やトンネル内等の暗いところ
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 逆光のとき
- 強い光が車両や歩行者、路面に反射しているとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

■道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 路面に水溜りや水膜があるとき
- 雪道や未舗装路などわだちのある道路のとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両や歩行者の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■前方の車両や対向車、歩行者の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 前方の車両や歩行者との距離が極端に短いとき
- 自車の前方に車両が急に割り込んだとき
- 自車の前方に対向車や歩行者が飛び出したとき
- 歩行者の一部(頭や手足など)が荷物等によりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて、カメラが歩行者を検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき
- 暗がりで前方の車両が無灯火のとき

■その他、作動できない事例

- 衝突を回避しようとして、運転者がブレーキやハンドルを操作したとき
- 急加速やハンドル操作をしながら、前方の車両や対向車、歩行者に接近したとき
- 前方の車両や対向車、歩行者が自車の正面にいないとき
- 前方の車両や歩行者との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき
- 交差点などで自車の前方に車両が飛び出したとき
- 歩行者のかたちとしてカメラが正しく検知できないとき

■ 衝突の可能性のない場合の作動について

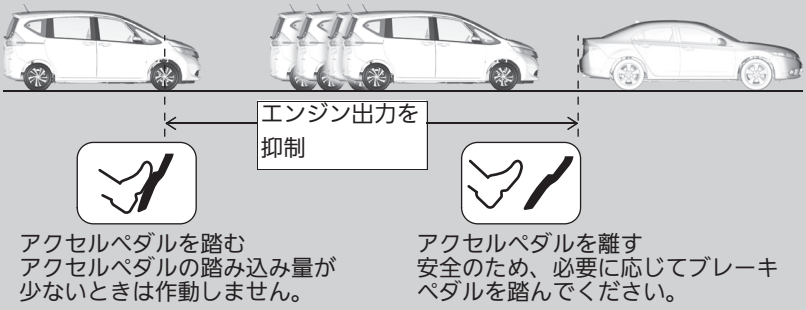
衝突の可能性がなくても、以下のとき、CMBS が作動することがあります。

- 左折、または右折している前方車両がいるとき
- 追い越し時に前方の車両や交差点などで対向車に接近して走行するとき
- 低いゲートや狭いゲートなどの間を規制速度を越えるような速度で通過しようとするとき
- 段差のある道路、線路、工事の鉄板などの上を走行するとき
- カーブ途中の道路脇に標識やガードレールなどがあるとき
- カーブ走行などで自車の正面に対向車がいるとき
- 駐車時など、停止している車両や壁に接近するとき

■ 誤発進抑制機能

停車時や約 10km/h 以下で走行しているとき、自車のほぼ真正面の近距離に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、パワーシステム出力を抑制し、急な発進を防止するとともに、音と表示等で接近を知らせる機能です。
なお、急な坂道やシフトポジションが P、R、N のときは、作動しません。

作動状態



⚠警告

あらゆる状況でアクセルペダルの踏み過ぎによる衝突を軽減したり防止できるものではありません。

運転者が常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行して下さい。

誤発進抑制機能は、CMBS と同じセンサーを使用しています。CMBS を OFF にしているときは、誤発進抑制機能は作動しません。また、誤発進抑制機能を正常に作動させるために守ること、正常な作動ができない状況、衝突の可能性のない場合の作動やレーダーセンサーの取り扱いなどは、CMBS と同じです。

踏切内に閉じ込められたときは、遮断機を障害物として検知することがあります。そのときは、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、CMBS を OFF にして遮断機を押しのけてください。

■ 作動解除の条件

- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約 4 秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- ハンドルを操作して、衝突を避けようとしたとき

駐停車操作

坂道に駐車するときは、かならずパーキングブレーキをかけてください。

仮眠するときは、パワーシステムを停止してください。
無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

停車中の空ぶかしはしない。
万一、シフトポジションがP N以外に入っていた場合、思わぬ急発進のもとになります。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂でP N以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら車を停車させたりしないでください。
トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

枯草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。
排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

⚠注意

駐車時はパワーシステムをオフにする。
万一、シフトポジションがP N以外の場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

アドバイス

車が完全に止まらないうちにPに入れないでください。
トランスミッション破損の原因となります。

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。
パーキングブレーキをかけずに、輪留めをしてください。
輪留めをしないと車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

リアカメラシステム✤

リアカメラの取り扱いについては、別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」オーナーズガイドをご覧ください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

給油

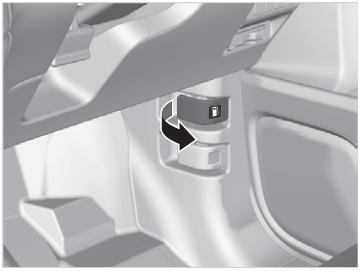
無鉛レギュラーガソリン
レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)

アドバイス

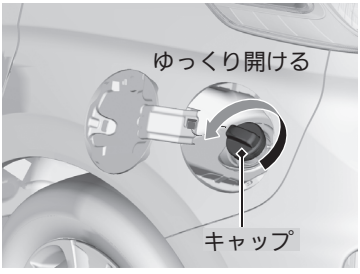
指定燃料以外の燃料(粗悪ガソリン、軽油、灯油等)を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。

- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

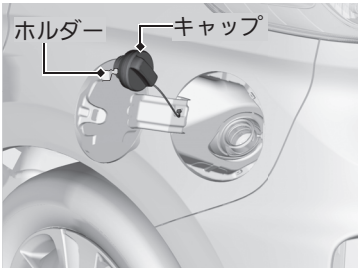
給油のしかた



1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくるように車を停める。
2. パワーシステムを停止させる。
3. 運転席足元にあるフューエルリッドオープナーを引いてリッドを開ける。
   ▶ 車の外側のフューエルリッドが解錠されます。



4. ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップを開ける。



5. キャップをホルダーにかける。
6. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。
   ▶ 満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。
7. 給油後、「カチッ」という音が1回以上するまでキャップを締め付ける。
   ▶ フューエルリッドは、手で押さえ付けて閉めます。

⚠警告

燃料補給時は火気厳禁。
燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。
- パワーシステムは常に停止させる
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

⚠警告

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。
静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

⚠注意

キャップはゆっくり開ける。
急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。
燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料蒸気を吸わないでください。
燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。

⚠注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。
気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。
閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

Honda 純正以外のキャップを使わないでください。
純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。

メンテナンスの前に

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。
普段と違う点（音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど）に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。
点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

■ 点検整備の種類

■ 日常点検
長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■ 定期点検
12 か月および 24 か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■ その他
新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。
お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

⚠警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。
走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。
必ず、取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。
メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。
必ず、取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

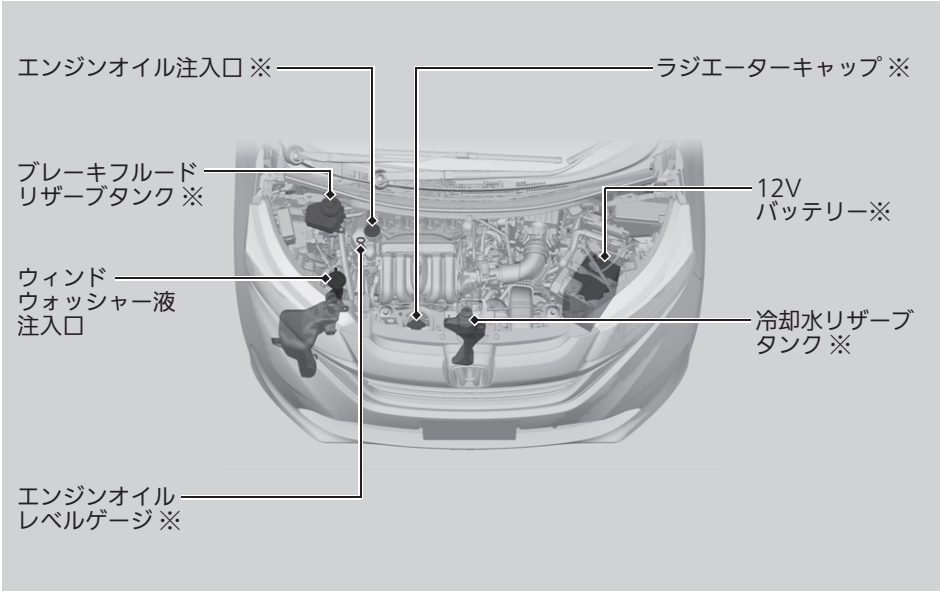
■ メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける。
- エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する。
  ▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する。
  ▶ エンジンを始動するときは必ず十分な換気を行ってください。

■ 車についての安全事項

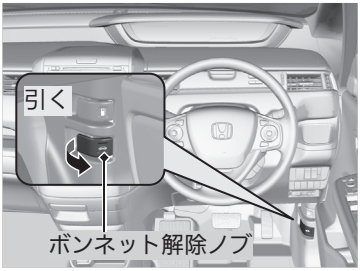
- エンジンルーム内を点検するときは、冷却ファンが止まってから行ってください。
  ▶ エンジンの温度が高い状態でエンジンを停止したとき、冷却ファンが自動的に作動することがあります。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する。
  ▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する。
  ▶ 指示されたとき以外は、パワーモードを OFF モードにして作業してください。ONモードでは、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、エンジン停止中でも冷却ファンが回りだすことがあります。

エンジンルーム内のメンテナンス項目

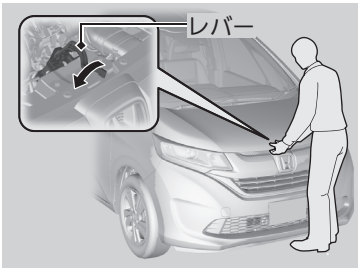


※: 点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

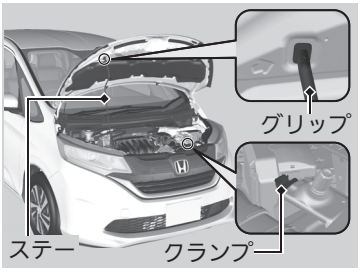
ボンネットを開ける



1. 車を停め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。
   ▶ ボンネットが少し浮き上がります。



3. ボンネット中央のレバーを押してロック機構を解除し、ボンネットを開ける。



4. グリップを持ってステーをクランプから取り外し、ステーをボンネットにかける。

閉めるときは、ステーを外しクランプに納めてからボンネットを静かに下げて、約 30cm の高さから手を離します。

⚠注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。

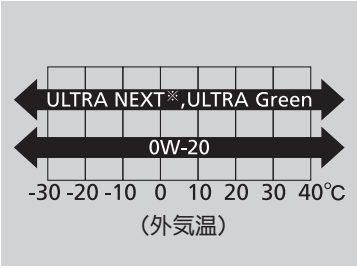
ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

推奨エンジンオイル

推奨エンジンオイル:
Honda 純正エンジンオイル
➡ Honda 純正エンジンオイル P. 256, 258
API SM もしくは SN 以上かオイル缶に API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークの入ったエンジンオイル



エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながることがあります。

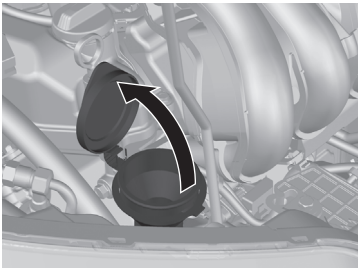


市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

※:最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。Honda 販売店でお求めください。

ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液の量を確認します。



減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

電球の交換

ヘッドライト電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

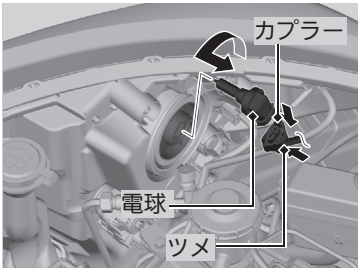
ロービームヘッドライト	
LED ロービームヘッドライト装備車	:LED
ハロゲン ロービームヘッドライト装備車	:12V−55W
ハイビームヘッドライト	:12V−60W

■ ロービームヘッドライト

LED ロービームヘッドライト装備車

ロービームヘッドライトは LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

ハロゲン ロービームヘッドライト装備車



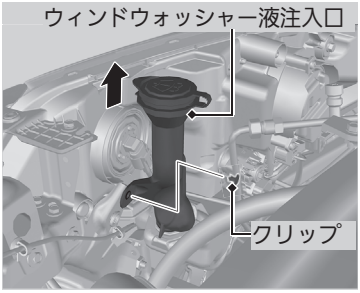
1. カプラーを外す。
   ▶ カプラーはツメを押しながら外します。
2. 古い電球を左に回して抜き取る。
3. 新しい電球を右に回して固定する。
4. カプラーを押し込み、電球に取り付ける。

アドバイス

ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱うときは、熱が冷めてから行ってください。
また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

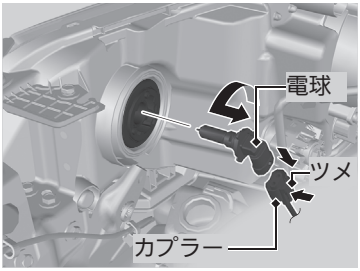
扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。
ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。

■ ハイビームヘッドライト



右側

1. クリップを外し、ウィンドウォッシャー液注入口を取り外す。



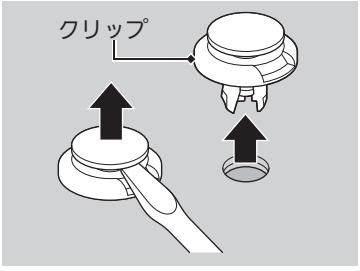
右側 / 左側

2. カプラーを外す。
   ▶ カプラーはツメを押しながら外します。
3. 古い電球を左に回して抜き取る。
4. 新しい電球を右に回して固定する。
5. カプラーを押し込み、電球に取り付ける。

アドバイス

ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱うときは、熱が冷めてから行ってください。
また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。
ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。

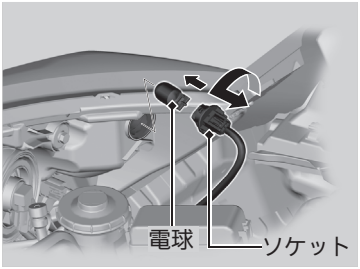


クリップを外すときは、クリップの切り欠き部にマイナスドライバーを差し込んで、取り外します。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯：12V−21W（橙色）



1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
2. 新しい電球を差し込む。

車幅灯電球

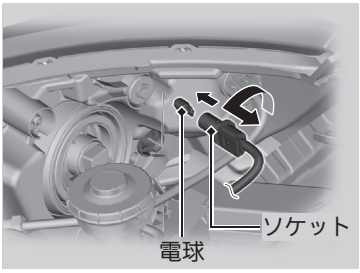
LED タイプ

車幅灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

電球タイプ

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

車幅灯：12V−5W



1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
2. 新しい電球を差し込む。

アクティブコーナリングライト電球*

アクティブコーナリングライトはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

制動灯電球

制動灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

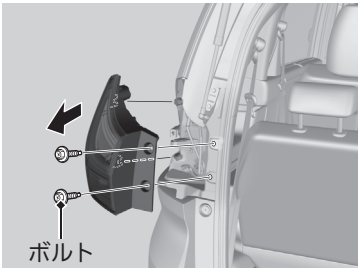
尾灯電球

尾灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

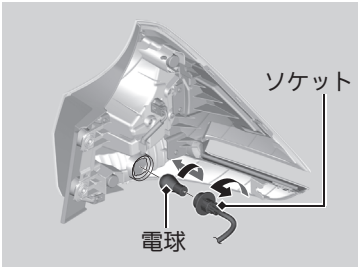
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯: 12V一21W(橙色)



1. ボルトを外し、ランプ本体を車両の後方に引き抜いて取り外す。



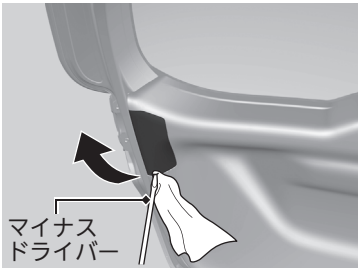
2. ソケットを左に回して外し、古い電球を左に回して抜き取る。
3. 新しい電球を差し込み、右に回して固定する。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

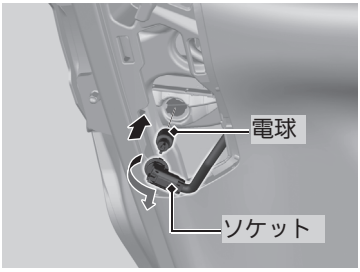
後退灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

後退灯：12V−16W



1. カバーの切り欠き部にマイナスドライバーの先端を差し込み、カバーを取り外す。
   ▶ カバーが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

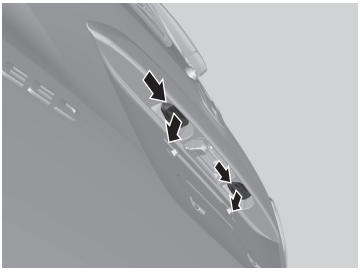


2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

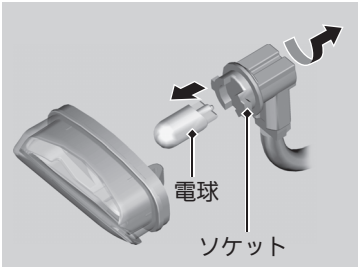
番号灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

番号灯：12V−5W



1. レンズの側面を押してランプ本体を外す。



2. ソケットを右に回して外す。
3. 古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

ハイマウントストップランプ電球

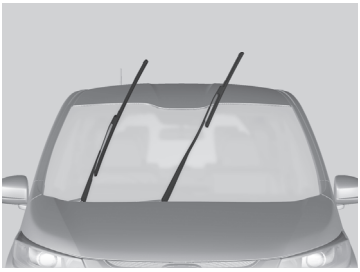
ハイマウントストップランプはLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

ワイパーブレードラバーの点検と整備

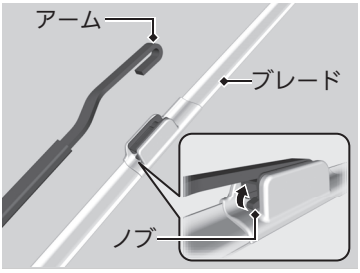
ワイパーブレードラバーの点検

ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードラバーの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

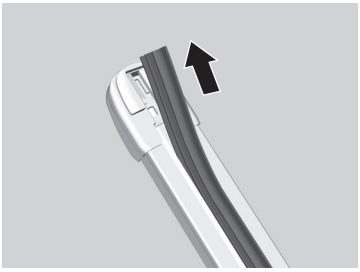
フロントワイパーブレードラバーの交換



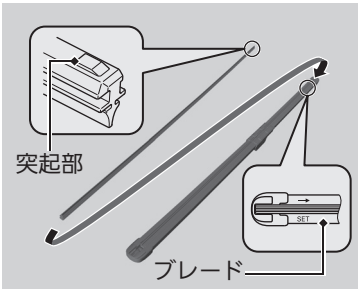
1. 運転席側、助手席側の順にワイパーアームを起こす。



2. ノブを押し上げながら、アームからブレードをスライドさせて外す。



3. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。



4. ラバーを突起部のない側を下にしてブレードに沿って差し込む。
   ▶ ラバーの突起部がブレード先端のツメに挿入されるよう、確実に固定します。
5. ブレードをアームに取り付ける。
   ▶ 正しく固定されているか確認してください。
6. ワイパーアームを戻すときは、助手席側、運転席側の順に戻してください。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。

リヤワイパーブレードラバーの交換

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。

タイヤの点検

■ タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができないばかりか乗り心地も損なわれます。
安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に保ってください。

■ 日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
  ▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
  ▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

■ 空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。
タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

➔ **仕様** P. 257, 259

■ 損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
  ▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
  ▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？

⚠警告

摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でないタイヤを使用しない。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。
必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。
タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベルにも記載されています。
取扱説明書が手元にない場合は、車のラベルをご覧ください。

■ ホイールカバー* の脱着方法

⚠注意

ホイールカバーを取り外すときは、手などをはさまないように十分注意する。

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての４つのタイヤを交換することをお勧めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。

ホイールの仕様が純正ホイールと同一のものか確認してください。

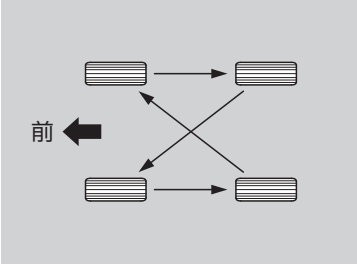
⚠警告

必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤのローテーション

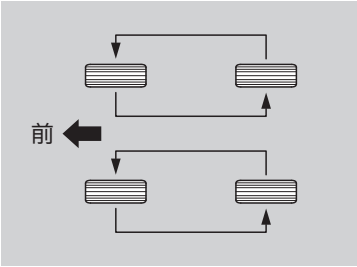
5,000km 走行したときタイヤローテーションをしてください。
タイヤローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

■ 回転指示マークがないタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

■回転指示マークがあるタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。
また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

スノータイヤの場合:

- 四輪とも同じ種類、指定サイズのタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

タイヤチェーンの場合:

- Honda 純正スチールチェーンを、付属の取扱説明書にしたがって前輪に装着する
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着する
- ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認する
- ゆっくり走行する

アドバイス

サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。
チェーンが車のどこかに当たる場合、ただちに走行をやめてください。

タイヤチェーンは 2WD 車、AWD 車ともに前輪に装着します。
後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。

清掃

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。
故障や車両火災の原因となるおそれがあります。
万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

■ ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。
ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

■ 親水ミラー* のお手入れ

アドバイス

ミラーの親水効果が失われますので、以下の点にご注意ください。
- ミラー表面に撥水剤やワックスを付着させない
- 砂の付いた布や油膜取り剤(コンパウンドなど)でミラー表面をこすらない

この「*」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

アクセサリーと改造

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
  ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ドアガラスやフロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーを取り付けていないか？
  ▶ サイドカーテンエアバッグ✤の作動の妨げになるので、上記の場所にはアクセサリーを取り付けないでください。

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

改造や部品交換について

車の改造はしないでください。
Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。
Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。

診断コネクターは、故障診断用の診断装置などの機器のみを接続するためのものです。
それ以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

⚠警告

不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故につながる可能性があります。
適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故につながる可能性があります。

電装品の分解、改造は行わないでください。
故障や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

⚠警告

高電圧バッテリーは、純正品の使用をおすすめします。純正品以外のバッテリーを使用した場合、過充電や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。

発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

➔ **発煙筒** P. 2

⚠警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。
火災や爆発のおそれがあります。

⚠注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

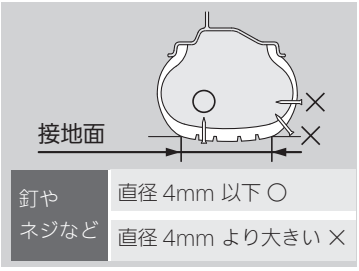
パンクしたタイヤの応急修理

タイヤの損傷が激しい場合は、乗り物をけん引する必要があります。
単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。
パンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. シフトポジションを P にする。
3. パーキングブレーキをかける。
4. 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

以下のような場合、タイヤパンク応急修理キットは使用できません。Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。

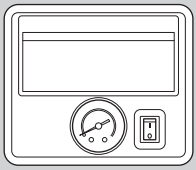
- 応急修理剤の有効期限が切れているとき
- タイヤが 2 本以上パンクしているとき
- 約 4mm 以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき



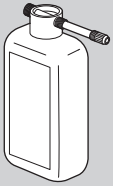
- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき

タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。
抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になる場合があります。

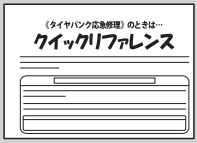
■ タイヤ応急修理の準備



エアコンプレッサー



タイヤパンク
応急修理剤



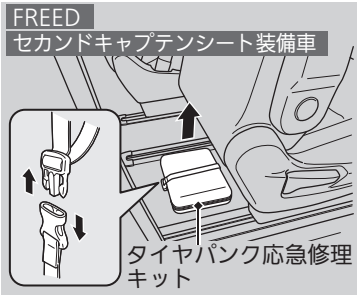
説明書



速度制限シール



減空気圧ツール



FREED

セカンドキャプテンシート装備車

1. 運転席側のセカンドシートを前方いっぱいまで動かす。

➔ **セカンドキャプテンシート*** P. 109



FREED

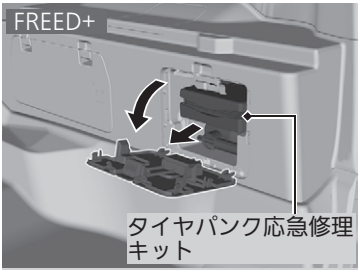
セカンドベンチシート装備車

1. 運転席側のセカンドシートをはね上げる。

➔ **セカンドベンチシート*** P. 104

FREED 共通

2. タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
3. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。

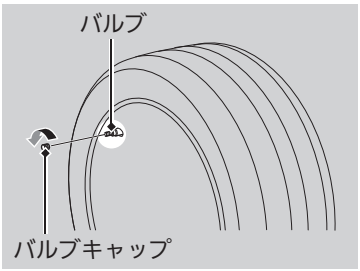


FREED+

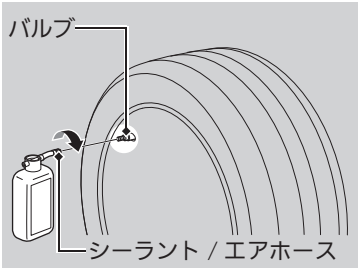
1. カーゴスペース右側のリッドを開ける。
2. タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
3. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。

応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属の説明書をお読みください。

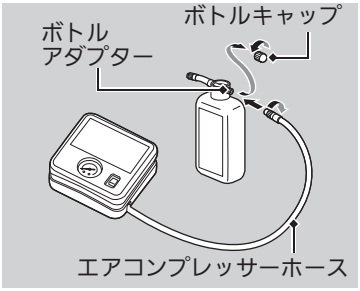
■ 応急修理剤とエアの注入



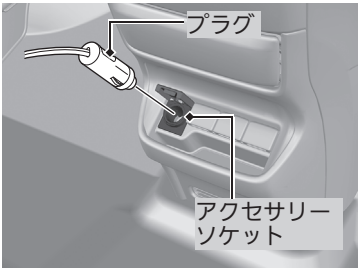
1. バルブからバルブキャップを取り外す。



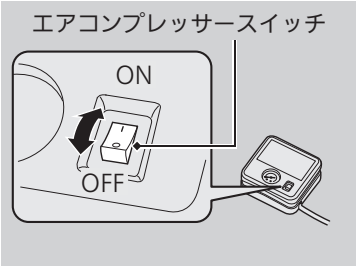
2. 応急修理剤のボトルをよく振る。
3. タイヤのバルブにシーラント/エアホースをきつく締め付ける。
   ▶ シーラントがすべてタイヤに流れ込むようにボトルを垂直にする。



4. ボトルアダプターからボトルキャップを外す。
5. ボトルアダプターにエアコンプレッサーのエアホースをきつく締め付ける。



6. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
   ▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
   ➔ **アクセサリーソケット** P. 119
7. パワーモードを ON モードにする。
   ➔ **一酸化炭素について** P. 44



8. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、指定の空気圧まで高める。
   指定空気圧:
   前輪:240kPa(2.4kgf/cm²)
   後輪:230kPa(2.3kgf/cm²)
   ▶ コンプレッサーはタイヤにシーラントと空気を注入し始めます。
9. 指定の空気圧に達したら、エアコンプレッサーの電源を OFF にする。
   ▶ エアコンプレッサーの空気圧計を確認してください。
10. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットから外す。
11. パワーモードを OFF モードにする。
12. タイヤバルブからシーラント/エアホースを外しバルブキャップを取り付ける。

⚠警告

応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。
誤って飲用した場合、
- できるだけたくさんの水を飲んでください。
- ただちに医師の診察を受けてください。

目に入ったり皮膚に付いた場合
- 水でよく洗い流してください。
- 異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。
ボトル・キャップを外した後、ボトルを振らないでください。修理剤がホースから飛び出るおそれがあります。

外気温が氷点下以下のときはシーラントは容易に流れないかもしれません。車内で温めると流れやすくなります。

応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがありますのでご注意ください。

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

アドバイス

15 分以上コンプレッサーを使用しないでください。
エアコンプレッサーは過熱し、破損するおそれがあります。

エアコンプレッサーホースを取り付けるときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

エアコンプレッサーの電源を ON にすると、振動して音が聞こえますが、故障ではありません。

応急修理剤が注入されている間、圧力は一時的に高くなります。注入が完了すると圧力は落ちますが、再度上昇します。これは正常です。
正しい空気圧を測定するためには、応急修理剤が注入された後にコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

10 分以内に指定空気圧にならないときは、応急修理剤による応急修理はできません。Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

タイヤパンク応急修理剤の購入および空きボトルの適切な処分については販売店にお尋ねください。

タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

Honda 販売店やロードサービスにタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理剤を使用したことを知らせてください。

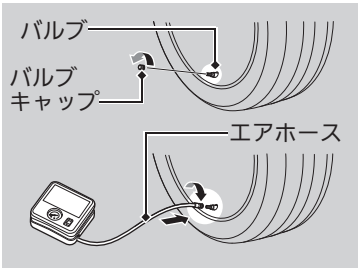
備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- エアコンプレッサーの電源は自動車用 12V 専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

空ボトルは元の位置に収納してください。

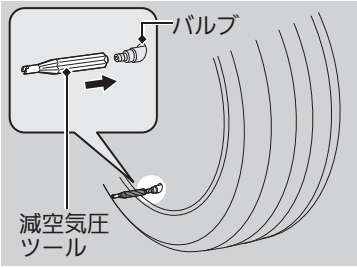
■ 点検走行



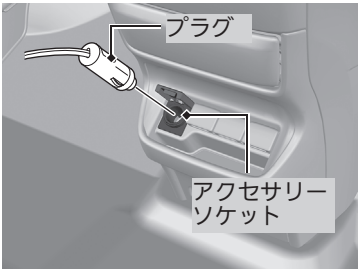


1. 速度制限シールを、運転者のよく見える位置に貼る。
2. 点検走行を開始する。
   ▶ 法定速度を守ってください。高速道路では 80km/h 以下を厳守してください。
3. 10分または5 km 走行したあと安全な場所に車を停める。
4. タイヤのバルブにエアホースをきつく締め付ける。
5. エアコンプレッサーに付属の空気圧計で空気圧を点検する。
   ▶ エアコンプレッサーの電源を ON にしないでください。

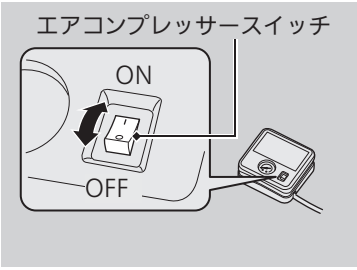
- 空気圧が 130kPa(1.3kgf/cm^2)未満の場合:
  応急修理剤では修理はできません。
  運転を中止して Honda 販売店またはロードサービスに連絡してください。
- 空気圧が指定空気圧の場合、応急修理は完了です。
  指定空気圧:
  前輪:240kPa(2.4kgf/cm^2)
  後輪:230kPa(2.3kgf/cm^2)



- 空気圧が指定空気圧以上の場合:
  減空気圧ツールを使用して数秒間空気を抜いてください。



- 空気圧が 130 kPa(1.3 kgf/cm²)以上、指定空気圧以下の場合はエアコンプレッサーを使って指定空気圧まで高めてください。
  指定空気圧:
  前輪:240kPa(2.4kgf/cm²)
  後輪:230kPa(2.3kgf/cm²)



Honda 販売店または専門修理工場に到着するまで、ステップ 2 から 5 までを繰り返す。

▶ 高速道路では80 km/h 以下で、法定速度を守って指定の Honda 販売店または専門修理工場でタイヤの修理、交換を行ってください。

6. タイヤバルブからエアホースを外しバルブキャップを取り付ける。
7. キットを車両に戻す。

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

⚠注意

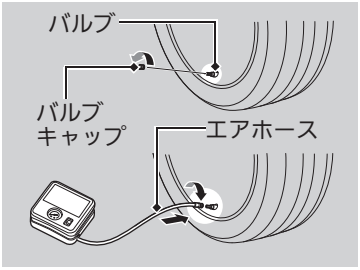
ハンドルのパッドにシールを貼らない。
SRS エアバッグが正常に機能しなくなります。

警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。
安全運転の妨げとなります。

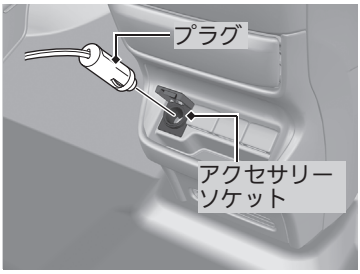
走行前に、エアコンプレッサー、空ボトルなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。

■ タイヤ空気圧の補充

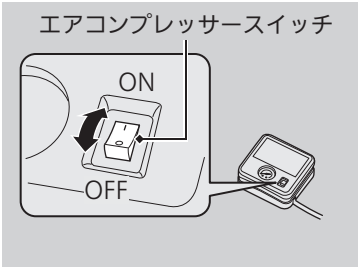
装備されているエアコンプレッサーを使用して、パンクしていないタイヤの空気圧を補充することができます。



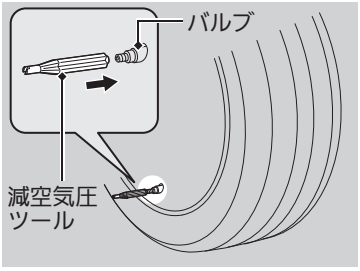
1. エアコンプレッサーを準備する。
2. 交通から遠ざけ、空気を補充するタイヤ付近にキットを水平に置く。
3. バルブからバルブキャップを取り外す。
4. エアコンプレッサーのエアホースをタイヤのバルブにきつく締め付ける。



5. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットに差し込む。
   ▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
   ➔ **アクセサリーソケット** P. 119
6. パワーモードを ON モードにする。
   ➔ **一酸化炭素について** P. 44



7. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、指定空気圧まで高める。
   指定空気圧:
   前輪:240kPa(2.4kgf/cm²)
   後輪:230kPa(2.3kgf/cm²)
   ▶ コンプレッサーはタイヤに空気を注入し始めます。



8. エアコンプレッサーのスイッチを OFF にする。
   ▶ エアコンプレッサーの空気圧計を確認してください。
   ▶ もし空気圧が高ければ、減空気圧ツールを使用して減圧します。
9. パワーモードを OFF モードにし、エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットから外す。
10. タイヤバルブからエアコンプレッサーホースを外しバルブキャップを取り付ける。
11. エアコンプレッサーを車両に戻す。

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。
エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

エアコンプレッサーの電源を ON にすると、振動して音が聞こえますが、故障ではありません。

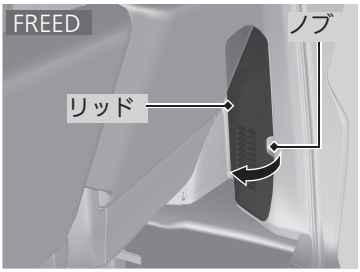
アドバイス
15 分以上コンプレッサーを使用しないでください。
エアコンプレッサーは過熱し、破損するおそれがあります。

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- エアコンプレッサーの電源は自動車用 12V 専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。

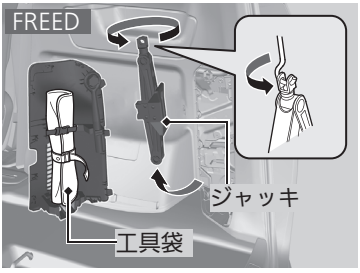
ジャッキのかけかた



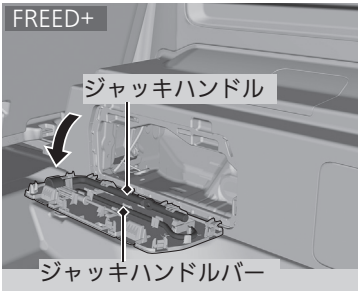
1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. シフトポジションを P にする。
3. パーキングブレーキをかける。
4. パワーモードを OFF モードにする。

FREED

5. ノブを引きながらリッドを外す。

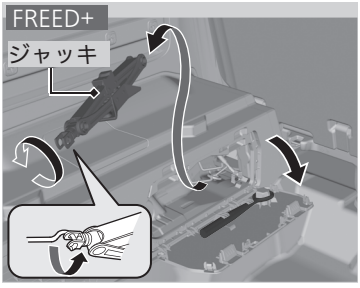


6. 工具袋を取り出す。
7. 工具袋からジャッキハンドルバー、ジャッキハンドルを取り出す。
8. ジャッキをゆるめて外す。
   ▶ ジャッキがゆるみづらいときは、ジャッキハンドルバーを使用してゆるめてください。

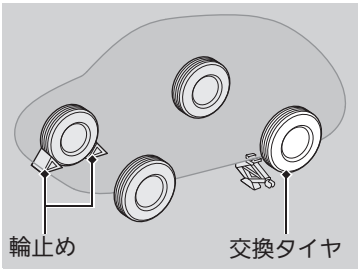


FREED+

5. カーゴスペース右側のリッドを、ノブを引いて開ける。
6. リッドの裏側からジャッキハンドルバー、ジャッキハンドルを取り出す。

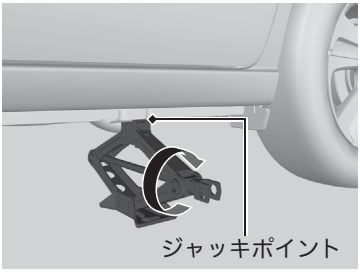


7. カーゴスペース左側のリッドを、ノブを引いて開ける。
8. ジャッキをゆるめて外す。
   ▶ ジャッキがゆるみづらいときは、ジャッキハンドルバーを使用してゆるめてください。

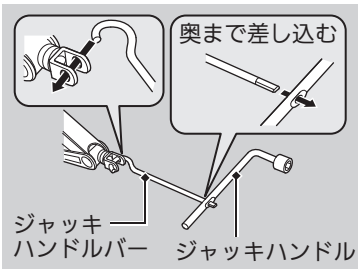


共通

9. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪止めをする。
10. 交換するタイヤに最も近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。



11. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分を矢印の方向に回す。
    ▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。



12. ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

⚠警告

車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。
車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠注意

ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。
- パワーシステムを起動したままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下にものを入れたりしない

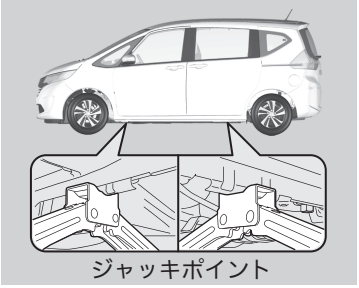
この車に搭載されているジャッキをお使いください。
他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。

パワースライドドア装備車

⚠注意

後輪タイヤを交換するときは、パワースライドドアのメインスイッチをOFFにする。
誤ってスイッチに触れたりしてドアが開き、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

ジャッキをかける位置は、下記の通りです。


ジャッキポイント

ジャッキを格納するときはドライバーなどで無理に締めないでください。
ジャッキ取り付け部が変形するおそれがあります。

パワーシステムが起動しない

パワーシステムの確認

READY 表示灯が点灯せず、「READY TO DRIVE」がマルチインフォメーションディスプレイに表示されない場合、以下のことが考えられます。項目を確認し、適切な処置を行ってください。

項目	状況	対処のしかた
関連した警告灯か警告メッセージが表示されるかどうかを確認する	「外気温が低いために起動できません」と表示される	➡ **マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ** P. 59
	「キーでスイッチに触れて下さい」と表示される ▶Honda スマートキーの作動範囲を確認します。	➡ **Honda スマートキーの電池が切れたとき** P. 235
	パワーシステム警告灯が点灯する	Honda 販売店で点検を受けてください。
	トランスミッション警告灯が点滅し、「トランスミッション点検　停車時はパーキングブレーキを確実にかけて下さい」もしくは、「停車時はパーキングブレーキをかけてください」とメッセージが表示されているとき	応急的にパワーシステムを起動できる場合があります。 ➡ **トランスミッション警告灯** P. 48, 49

項目	状況	対処のしかた
室内灯の明るさを確認する	室内灯などが非常に暗い、または全く点灯しない場合	Honda 販売店で 12V バッテリーの点検を受けてください。
	室内灯などの明るさに問題がない場合	全てのヒューズを確認するか、Honda 販売店で点検を受けてください。 ➔ **ヒューズの点検と交換** P. 249
シフトポジションを確認する	P 以外のシフトポジションが選択されている	パーキングスイッチを押してください。
パワーシステム起動の手順を実行する	もう一度、正しいパワーシステム起動操作をしてみてください。	➔ **パワーシステムの起動** P. 132
セキュリティアラームシステム作動表示灯を確認する	セキュリティアラームシステム作動表示灯が点滅しているときは、パワーシステムの起動ができません。	➔ **イモビライザーシステム** P. 89 ➔ **セキュリティ アラームシステム作動表示灯** P. 57

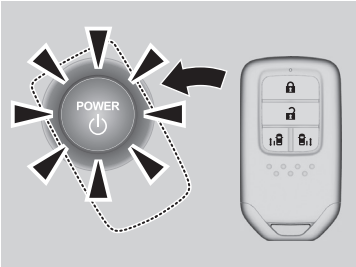
以上の確認をしてもパワーシステムが起動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

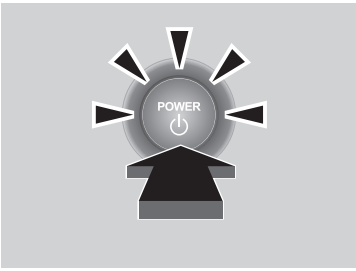
➔ **ジャンプスタートの方法** P. 236

Honda スマートキーの電池が切れたとき

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「キーでスイッチに触れて下さい」とメッセージが表示されるか、POWERのインジケーターが点滅しているときは、READY 表示灯が点灯しません。
以下の手順でパワーシステムを起動してください。



1. POWERを押す。
   ▶「ピーピーピーピーピーピー」とブザーが鳴り、POWERが約 30 秒間点滅します。
2. POWERが点滅している間に、Honda　スマートキーの Honda エンブレムをスイッチに接触させる。
   ▶「ピッ」とブザーが鳴り、POWERが約10秒間点灯します。
3. POWERが点灯している間に、右足でブレーキペダルを踏みながら、POWERを押す。
   ▶ READY 表示灯が点灯します。
   ▶ ブレーキペダルを踏んでいないときは、アクセサリーモードになります。



緊急時のパワーシステム停止方法

POWERスイッチは走行中、緊急事態の場合にパワーシステムを停止するために使用することができます。
パワーシステムを停止しなければならない場合は、次のいずれかを行ってください:

- POWERを約 2 秒以上押す
- POWERを 3 回連続して押す

パワーシステムが停止すると、パワーモードはアクセサリーモードになります。
車が停止すると、自動的にシフトポジションがPになり、パワーモードが OFF モードになります。

緊急時など必要な場合以外は、走行中にPOWERを押さないでください。

ジャンプスタート

ジャンプスタートの方法

⚠警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。
ジャンプスタートの操作を間違えると、12Vバッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。
タバコの火、火花、炎を 12V バッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

アドバイス

気温が極端に低い場所に 12Vバッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。
バッテリー液が凍結した12Vバッテリーでジャンプスタートすると、12Vバッテリーが壊れることがあります。

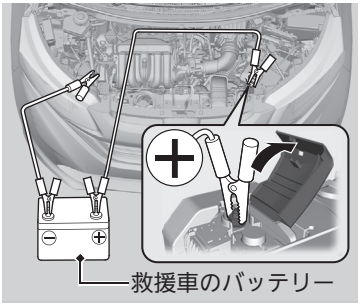
寒冷時は、12V バッテリーの性能が低下します。
パワーシステム起動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。
ケーブルをエンジンのスタッドボルト以外に接続しないでください。

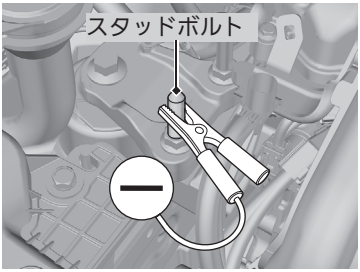
バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
12V バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

■ 処置のしかた

まず、ボンネットを開け、12V バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。
次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。
ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。



1. 自車と救援車のパワーモードを OFF モード / エンジンスイッチを 0 にする。
2. ブースターケーブルを、自車の 12V バッテリーの ⊕ 端子に接続する。
3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの ⊕ 端子に接続する。
   ▶ 救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。
   ▶ 自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。



4. もう1本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの ⊖ 端子に接続する。
5. ケーブルの反対側を、自車のエンジンのスタッドボルトに接続する。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
7. 自車のパワーシステムを起動する。

■ システム起動後の作業

自車のパワーシステムが起動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のエンジンのスタッドボルトからケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車の 12V バッテリーの ⊖ 端子から外す。
3. 自車の 12V バッテリーの ⊕ 端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車の 12V バッテリーの ⊕ 端子から外す。
5. 12V バッテリーの電圧が回復するまでアイドリングしてください。
   ▶ READY 表示灯が点灯すれば走行可能です。
   ▶ ブレーキ、ブレーキシステム、ABS、VSAの警告灯が点灯し消灯しない場合は、パワーシステムを OFF にして、再度、自車のパワーシステムを起動してください。警告灯が消灯しない場合は、異常が考えられますので、販売店で点検してください。
   ▶ パワーシステムが起動しないときは、ジャンプスタートを繰り返してください。

Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

⚠警告

12V バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。
12Vバッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、12Vバッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
12V バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda 販売店で 12V バッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。
バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。
- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

オーバーヒート

オーバーヒートしたときの対処方法

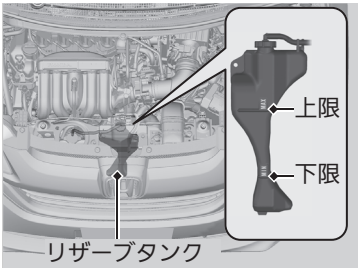
次のようなときは、オーバーヒートです。

- 高水温警告灯(レッド)が点灯したり、エンジンの力が急に落ちる
- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温:安全な場所に車両を停車してください」とメッセージが表示される
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

■最初にすること

1. ただちに車を安全な場所に停める。
   ▶ パーキングスイッチを押し、パーキングブレーキをかけます。
2. すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。
   ▶ **蒸気が出ていない場合:**パワーシステムを起動させたままボンネットを開ける。
   ▶ **蒸気が出ている場合:**パワーシステムを停止させ、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

■次にすること



1. 冷却ファンの作動を確認し、高水温警告灯が消灯してからパワーシステムを停止させる。
   ▶ 冷却ファンが作動していない場合は、すぐにパワーシステムを停止させます。
2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。
   ▶ 冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■最後にすること

- 十分にエンジンが冷えたら、パワーシステムを起動し高水温警告灯を確認する。
  警告灯が消灯している場合は、運転を再開します。点灯しているときは、Honda販売店に修理を依頼します。

⚠警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。
ラジエーターから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

エンジンが熱いうちにラジエーターキャップを外さない。
冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずラジエーターが十分に冷えてからキャップを外してください。

アドバイス

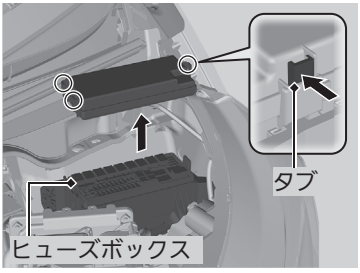
高水温警告灯が点灯した状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

ヒューズ

ヒューズの設置場所

電気装置が作動しない場合、パワーモードをOFFモードにして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、5 つのヒューズボックスに入っています。

■ エンジンルーム内のヒューズボックス



■ヒューズボックス A

エンジンルーム内の助手席側に付いている 12V バッテリーの隣にあります。タブを押して開けてください。

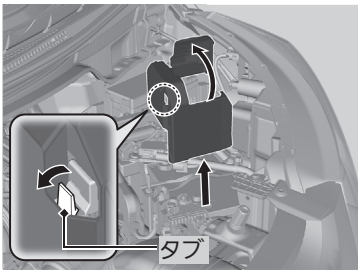
■各ヒューズの装備と容量

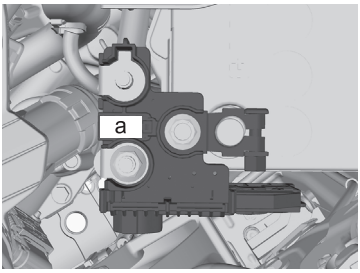
容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

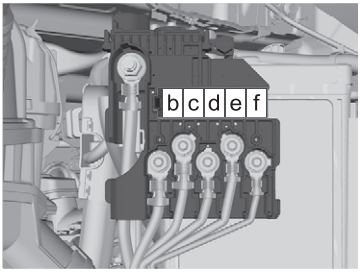
	表示	装備	容量
1		ヘッドライトロービーム(メイン)	20A
2		DCT	20A
3		非常点滅表示灯	10A
4		ドライブバイワイヤー	15A
5		ワイパー	30A
6		制動灯	7.5A
7		PGM-FI	15A
8		イグニッションコイル	15A
9		DCT	20A
10		ウォーターポンプ	30A
11		DCT	30A
12		冷却ファン	30A
13		スターターマグネチックスイッチ	30A
14	—	—	—
15		バッテリーセンサー	7.5A
16	—	—	—

	表示	装備	容量
17		ヒーテッドドアミラー✤	(10A)
18		ホーン	10A
19		フロントデフロスター✤	(10A)
20	—	—	—
21		バックアップ(メイン)	15A
22		室内灯	7.5A
23		サブファン	30A
24	—	—	—
25		START DIAG	7.5A
26	—	—	—
27	—	—	—
28	—	—	—
29		バックアップ	10A
30		LAF センサー	10A
31		PGM-FI(サブ)	7.5A
32	LED	左側ヘッドライトロービーム	10A
33	RED	右側ヘッドライトロービーム	10A

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。







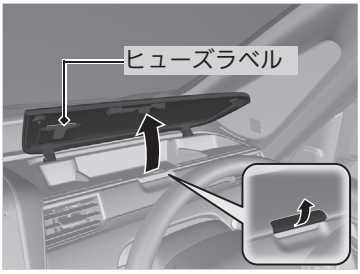
■ヒューズボックス B

エンジンルーム内の助手席側に付いている、12V バッテリーの ⊕ 端子の隣にあります。

1. ⊕ 端子部分のフタを開ける。
2. タブを引いてカバーを取り外す。

■各ヒューズの装備と容量

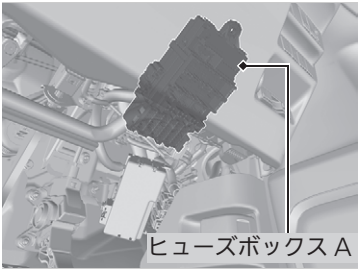
	表示	装備	容量
a		バッテリーメイン	170A
b		RB メイン 1	60A
c		RB メイン 2	80A
d		デュアルクラッチドライブ	60A
e		EPS	70A
f		電動サーボブレーキ	40A



運転席アッパーボックス内に収納されたラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とラベルの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

ヒューズボックス B の各ヒューズのカバーに、容量とアイコンが記載されています。
カバーの表示と図のアルファベットで、該当するヒューズの位置を確認してください。

■ 室内運転席側のヒューズボックス



■ヒューズボックス A
アクセルペダルの上、室内運転席側のヒューズボックス B の上にあります。

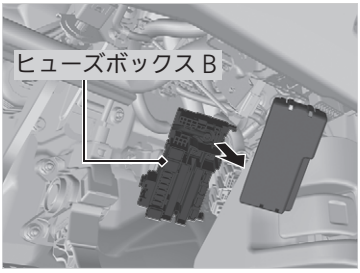
■各ヒューズの装備と容量

容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

	表示	装備	容量
1		ドアロック	20A
2	—	—	—
3		Honda スマートキーシステム	10A
4		左側ドアアンロック	10A
5		右側ドアアンロック	15A
6	—	—	—
7	—	—	—
8		運転席パワーウィンドー	20A
9		助手席パワーウィンドー	20A
10		後席左側パワーウィンドー	15A
11		後席右側パワーウィンドー	15A
12		左側ドアロック	10A
13		右側ドアロック	15A
14	—	—	—
15		右側ヘッドライトハイビーム	10A
16	—	—	—
17		アクティブコーナリングライト✤	(10A)
18		フロントセンサーカメラ✤	(7.5A)
19	—	—	—

	表示	装備	容量
20		運転席側イージードアクローザー	(20A)
21		助手席側イージードアクローザー	20A
22		ウォッシャー	15A
23		リヤワイパーメイン	10A
24		A/C	7.5A
25	—	—	—
26		オートスターター	7.5A
27		VSA/ABS	7.5A
28		SRS エアバッグシステム	10A
29		左側ヘッドライトハイビーム	10A
30		ACG	10A
31		パワーウィンドー	10A
32		フューエルポンプ	15A
33	—	—	—
34		メーター	7.5A
35		MISS SOL	7.5A
36		フロントアクセサリーソケット	20A
37		ACC	7.5A
38	—	—	—
39		オプション	7.5A
40		リヤワイパー	10A
41	—	—	—
42	—	—	—

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。



■ヒューズボックス B

アクセルペダルの上、室内運転席側のヒューズボックス A の下にあります。
カバーの上側を引いて、取り外してください。

■各ヒューズの装備と容量

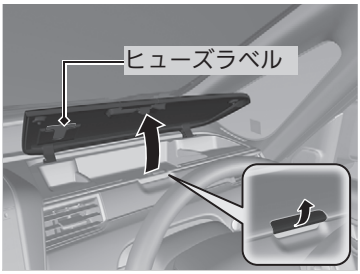
容量に( )がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

	表示	装備	容量
1	—	—	—
	—	—	—
		ヒューズボックスメイン 2	50A
		ABS/VSA モーター	40A
		ヒューズボックスメイン	30A
		ヒューズボックスメイン 3	40A
2		右側パワースライドドア✤	(30A)
		左側パワースライドドア✤	(30A)
		AWD	(30A)※1
	—	—	50A※2
		VMP1	(40A)
		VMP2	(30A)
		VMP2	(30A)※1 (40A)※2

	表示	装備	容量
3		ヒーターモーター	30A
4	—	—	—
5		ABS/VSA FSR	30A
6		シートヒーター✤	(20A)
7		スモールライト	10A
8		—	(10A)
9		—	(7.5A)
10		ACC SOCKET (CONSOLE)	(20A)
11		リヤデフロスター	30A
12	—	—	—
13	—	—	—
14	—	—	—
15	—	—	—

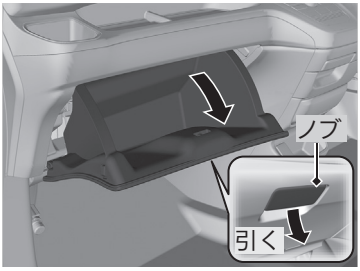
※1: AWD 車
※2: 2WD 車

この「✤」はタイプやオプションなど、装備が異なる場合に付きます。

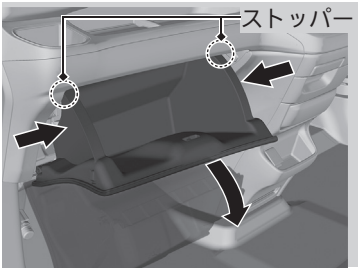


運転席アッパーボックス内に収納されたラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とラベルの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

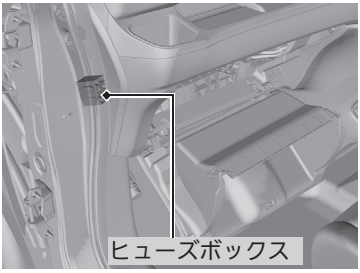
■ 室内助手席側のヒューズボックス



1. グローブボックスを開ける。

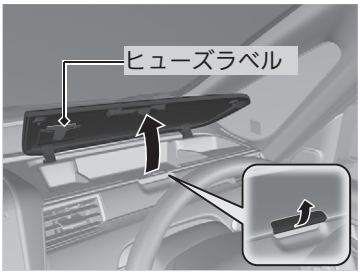


2. グローブボックスの両端に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。
   ▶ エアコンフィルターの左側にあります。



■各ヒューズの装備と容量

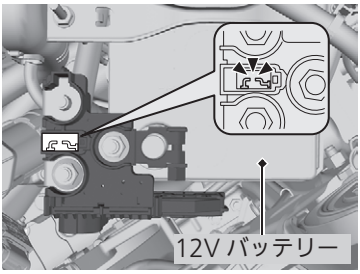
	表示	装備	容量
1	📖	イグニッション メイン	30A
2	📖	SBW	10A
3	📖	Honda スマート キーシステム	10A
4	📖	IMA1	10A
5	—	—	—
6	📖	イグニッション メイン 2	30A
7	📖	IMA2	15A
8	—	—	—



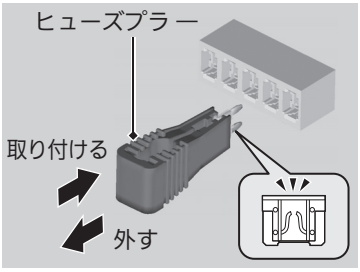
運転席アッパーボックス内に収納されたラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とラベルの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

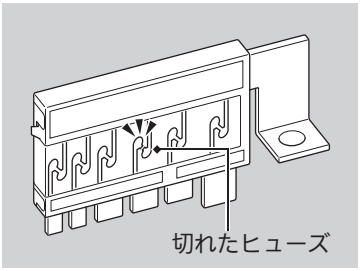
ヒューズの点検と交換



1. パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリーを OFF にする。
2. 12Vバッテリーの⊕端子の隣にあるカバーを開ける。
3. 内部のヒューズを点検する。
   ▶ 切れているヒューズがあったら、Honda 販売店に修理を依頼してください。



4. エンジンルーム内のヒューズボックス A のフタを取り外す。
5. 内部のヒューズを点検する。
   ▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。



6. 室内の大きいヒューズを点検する。
   ▶ 切れているヒューズがあったら、プラスドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。
7. 室内の小さいヒューズを点検する。
   ▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。
交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

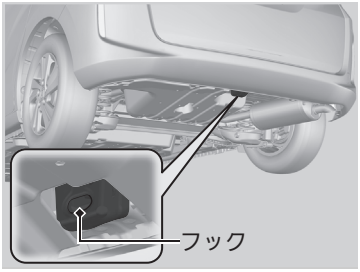
けん引

非常時のけん引

けん引するときは、Honda 販売店にご連絡ください。
けん引は専門業者に依頼して 2WD 車は四輪または前輪、AWD 車は四輪を持ち上げて行ってください。

アドバイス

バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。
バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

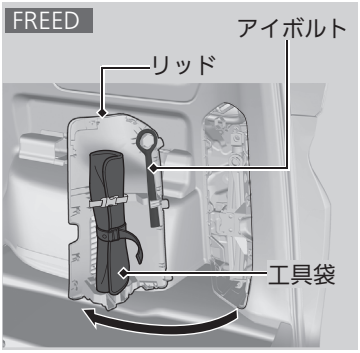


車両後方についているフックを他車のけん引や緊急時の脱出に使用することはできません。
フックが破損するおそれがあります。後方からけん引する必要がある場合は、アイボルトを使用してください。

➡ **やむをえず他車をけん引する場合** P. 250

■ やむをえず他車をけん引する場合

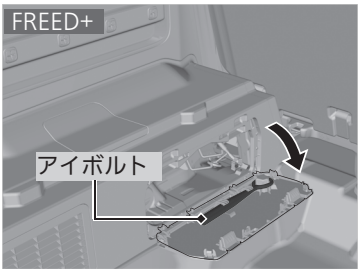
やむをえず他車のけん引を行う場合、次の方法で行ってください。



FREED

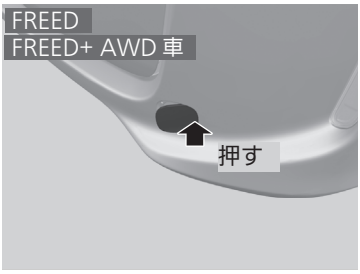
1. リッドを開け、工具袋、アイボルトを取り出す。
   ▶ ジャッキハンドルバーとマイナスドライバーを工具袋から取り出します。

➡ **ジャッキのかけかた** P. 230



FREED+

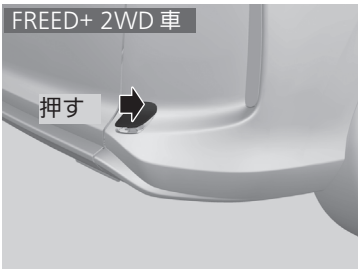
1. カーゴスペース左右のリッドを開け、工具、アイボルトを取り出す。
   ▶ ジャッキハンドルバーとマイナスドライバーを右側のリッドから取り出します。
   ➔ **ジャッキのかけかた** P. 230



FREED

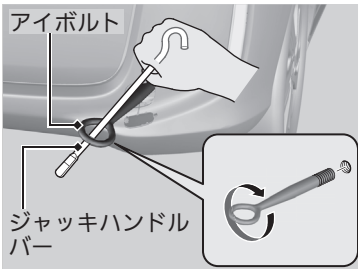
FREED+ AWD 車

2. リッドの右側を押して、リッドを開ける。



FREED+ 2WD 車

2. リッドの上側を押して、リッドを開ける。



共通

3. アイボルトがガタつかない程度まで手で締め付けてから、ジャッキハンドルバーで確実に締め付ける。

アドバイス

アイボルト以外のところにロープをかけないでください。

車体が破損、変形する場合があります。

ロープやチェーンなどを使ってけん引するときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。

そのままけん引すると、車体に傷が付くことがあります。

自車より重い車のけん引は避けてください。

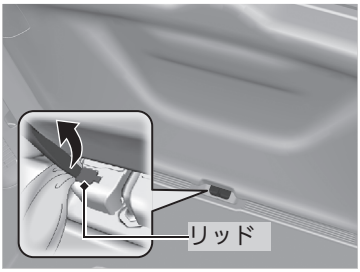
マルチインフォメーションディスプレイに「トランスミッション高温:安全な場所に車両を停車して下さい」の警告メッセージが出た場合は、安全な場所に停止してアイドリングで冷やしてください。

➔ **マルチインフォメーションディスプレイのメッセージ** P. 59

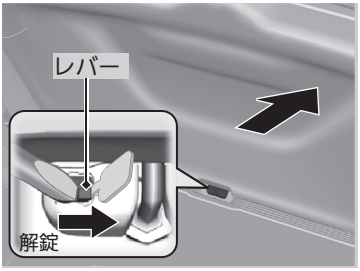
テールゲートが開かないとき

■ 開かないときの対処方法

万一、テールゲートを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。



1. テールゲートのロック部分のリッドに、マイナスドライバーの先端を差し込み、リッドを開ける。
   ▶ リッドが傷付かないよう、マイナスドライバーに布などを巻き付けてください。



2. マイナスドライバーを使ってレバーを右に動かしたままの状態で、テールゲートを押し開ける。

⚠注意

テールゲートを内側から開けるときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認する。
人やものにぶつかり思わぬけがをするおそれがあります。

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

Q ブレーキペダルを踏んだらガタガタと振動した

A
- ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

Q 後席ドアが車内から開けられない

A
- チャイルドプルーフが施錠の位置になっていませんか？後席ドアを外から開け、チャイルドプルーフのツマミを解錠の位置にしてください。

Q ドアを解錠したはずなのに施錠されている

A
- キーレスエントリーシステム、Honda スマートキーシステムで解錠してから、約 30 秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。

Q 運転席ドアを開けるとブザーが鳴る

A
- パワーモードをアクセサリーモード以外にしていませんか？
- ライトを消し忘れていませんか？

Q 走行するとブザーが鳴る

A
- 運転席または助手席シートベルトを着用していますか？
- パーキングブレーキを完全に戻していますか？

Q 車を後退させるとき、後方を確認するために運転席ドアを開けるとシフトポジションがPになって車が停止した

A
- 運転席シートベルトを着用していますか？
  運転席ドアを閉めて、改めてシフト操作を行ってください。
  ➡ ドア Open 自動パーキング選択制御 P. 137

Q 走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする

A
- ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。
  Honda 販売店で点検を受けてください。

Q レギュラーガソリン仕様車にプレミアム(ハイオク)ガソリンを使用しても大丈夫ですか？

A
- プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

9 仕様

この章には、仕様に関する情報が記載されています。

FREED

■ 仕様

名称	FREED
排気量	1,496 cm^3
車体形状	4 ドアステーションワゴン
乗車定員	6 名※1 7 名※2

※1： セカンドキャプテンシート装備車
※2： セカンドベンチシート装備車

■ 調節

点火プラグ	NGK	DILZKAR7C11S
	DENSO	DXE22HCR11S
電極のすき間	基準値	1.0-1.1mm

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。
交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■ 確認

ブレーキペダル	遊び	9.0-17.3mm
	床板とのすき間	105mm 以上 { 約 196N(20kgf) の力 }
	カーペットとのすき間(参考値)	89mm 以上 { 約 196N(20kgf) の力 }
パーキングブレーキ	踏みしろ	6 ～ 8 ノッチ { 約 294N(30kgf) の力 }

■ 燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	36 ℓ※1 40 ℓ※2

※1： 2WD
※2： AWD

■ エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式

■ 12V バッテリー

容量 / タイプ	28AH(5)/38B19L-MF

■ ウォッシャー液

タンク容量	2.0 ℓ

■ 電球

ヘッドライト(ロービーム)	LED※1 12V-55W※2
ヘッドライト(ハイビーム)	12V-60W
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯	12V-21W (橙色)
車幅灯	LED※3 12V-5W※4
アクティブコーナリングライト※5	LED
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯	LED
制動灯	LED
尾灯	LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	12V-21W (橙色)
後退灯	12V-16W
番号灯	12V-5W
ハイマウントストップランプ	LED
マップランプ	12V-8W
室内灯	12V-8W
バニティミラー照明灯※6	12V-1.8W

※1： LED ヘッドライト装備車
※2： ハロゲンヘッドライト装備車
※3： LED 車幅灯装備車
※4： LED 車幅灯非装備車
※5： アクティブコーナリングライト装備車
※6： バニティミラー照明灯装備車

■ デファレンシャルオイル AWD 車

指定液	Honda 純正ウルトラ DPSF-II
規定量	1.2 ℓ (交換時)

■ ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4

■ トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正ウルトラ ATF DW-1	2WD	1.3 ℓ (交換時)
		AWD	1.6 ℓ (交換時)

■ 推奨エンジンオイル

Honda 純正エンジンオイル	ULTRA NEXT※1	
	ULTRA Green	
	ULTRA LEO	API SN SAE 0W-20
規定量	オイル交換時	3.1 ℓ
	オイル、オイルフィルター同時交換時	3.3 ℓ

※1： 最も省燃費性に優れたオイルです。

■ 冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	3.65 ℓ（交換時：リザーブタンク 0.41 ℓ 含む）

■ タイヤ

サイズ	185/65R15 88S	
空気圧 (kPa[kgf/cm²])	前輪	240[2.4]
	後輪	230[2.3]
リムサイズ	15×5 1/2J	

FREED+

■ 仕様

名称	FREED+
排気量	1,496 cm^3
車体形状	4 ドアステーションワゴン
乗車定員	5 名

■ 調節

点火プラグ	NGK	DILZKAR7C11S
	DENSO	DXE22HCR11S
電極のすき間	基準値	1.0-1.1mm

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。
交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

■ 確認

ブレーキペダル	遊び	9.0-17.3mm
	床板とのすき間	105mm 以上 { 約 196N(20kgf) の力 }
	カーペットとのすき間 (参考値)	89mm 以上 { 約 196N(20kgf) の力 }
パーキングブレーキ	踏みしろ	6 ～ 8 ノッチ { 約 294N(30kgf) の力 }

■ 燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	36 ℓ ※1 40 ℓ ※2

※1： 2WD
※2： AWD

■ エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式

■ 12V バッテリー

容量 / タイプ	28AH(5)/38B19L-MF

■ ウォッシャー液

タンク容量	2.0 ℓ

■ 電球

ヘッドライト (ロービーム)	LED※1 12V-55W※2
ヘッドライト (ハイビーム)	12V-60W
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯	12V-21W (橙色)
車幅灯	LED※3 12V-5W※4
アクティブコーナリングライト※5	LED
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯	LED
制動灯	LED
尾灯	LED
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	12V-21W (橙色)
後退灯	12V-16W
番号灯	12V-5W
ハイマウントストップランプ	LED
マップランプ	12V-8W
室内灯	12V-8W
テールゲート照明灯	12V-8W
バニティミラー照明灯※6	12V-1.8W

※1： LED ヘッドライト装備車
※2： ハロゲンヘッドライト装備車
※3： LED 車幅灯装備車
※4： LED 車幅灯非装備車
※5： アクティブコーナリングライト装備車
※6： バニティミラー照明灯装備車

■ デファレンシャルオイル AWD 車

指定液	Honda 純正ウルトラ DPSF-II
規定量	1.2 ℓ (交換時)

■ ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4

■ トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正ウルトラ ATF DW-1	2WD	1.3 ℓ (交換時)
		AWD	1.6 ℓ (交換時)

■ 推奨エンジンオイル

Honda 純正エンジンオイル	ULTRA NEXT※1	
	ULTRA Green	
	ULTRA LEO	API SN SAE 0W-20
規定量	オイル交換時	3.1 ℓ
	オイル、オイルフィルター同時交換時	3.3 ℓ

※1： 最も省燃費性に優れたオイルです。

■ 冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	3.65 ℓ（交換時：リザーブタンク 0.41 ℓ 含む）

■ タイヤ

サイズ	185/65R15 88S	
空気圧 (kPa[kgf/cm²])	前輪	240[2.4]
	後輪	230[2.3]
リムサイズ	15×5 1/2J	

索引

数字

12V バッテリー充電警告灯 48

A

A/C(エアコン) 126
ABS(アンチロックブレーキシステム)
ABS 警告灯 51
ACC 157
ACC(アダプティブクルーズ
コントロール)
ACC 表示灯 58
ACC 警告灯 50

C

CHRG(チャージメーター表示) 67
CMBS(衝突軽減ブレーキ) 186
CMBS 警告灯 52, 53
CRUISE CONTROL
(クルーズコントロール) 140
CVT(オートマチック
トランスミッション) 134

E

ECON スイッチ 139
ECO スコア 71
ECO ドライブディスプレイ 70
EPS システム警告灯 54
EV 表示灯 57

H

Honda スマートキー 77
ENGINE START/STOP
スイッチ 93
パワーシステム停止操作の方法 .. 133

I

ISOFIX 29

L

LKAS(車線維持支援システム) 171
LKAS 警告灯 50
LKAS 表示灯 58

P

PGM-FI 警告灯 47
POWER スイッチ 93

R

READY 表示灯 57
REAL TIME AWD
(オールホイールドライビング)
システム 179
AWD システム警告灯 54

S

SRS エアバッグ 17
エアバッグシステム警告灯 24, 51

V

VSA(ビークルスタビリティ
アシスト) 178
VSA OFF 警告灯 52, 178
VSA 警告灯 52, 178

W

W(ワット)数 256, 258

あ

アームレスト 117
アクセサリー 217
アクセサリーソケット 119
アクティブコーナリングライト 94
電球の交換 207
アダプティブクルーズコントロール
(ACC) 157
ACC 表示灯 58

安全なドライブのために 8
安全に関する表示 6
安全のための確認事項 8
アンチロックブレーキシステム（ABS） 184
ABS 警告灯 51
アンビエントメーター 74

い

イージードアクローザー 88
一酸化炭素の危険性 44
イルミネーションコントロール 100
インフォメーション表示灯 56

う

ウィンカースイッチ（方向指示器）
方向指示器表示灯 56
ウィンドウォッシャー液の補給 203
ウィンドーの開閉 91
運転
クルーズコントロール 140
シフト操作 135
パワーシステムの起動 132
ブレーキ操作 183
運転席アッパーボックス 118

え

エアコン
オートエアコンの使いかた 127
エアバッグ
SRS エアバッグ 17
エアバッグシステム故障診断記録装置 6
エアバッグのお手入れ 25
サイドエアバッグ 20
サイドカーテンエアバッグ 22
エコアシストシステム 74
エマージェンシーストップシグナル 185
エンジンオイル 203, 257, 259
油圧警告灯 46
エンジン作動表示 72
エンジンルーム内のメンテナンス 201
ウィンドウォッシャー液の補給 203
エンジンルーム内のメンテナンス項目 201
推奨エンジンオイル 203
ボンネットを開ける 202
エンジン冷却水 257, 259

お

オーディオ装置 128
オーバーヒート 239
オールホイールドライビング（AWD）システム
AWD システム警告灯 54

か

カーゴフック 122
鍵（かぎ） 77
ガソリン 256, 258

き

キー
Honda スマートキー 77
Honda スマートキーの電池が切れたとき 235
キーの種類と機能 77
キーレスエントリー 81
キーレスエントリーでドアが開かない 254
後席ドアが開かない 254
内蔵キー 77
キーレスエントリー 81
給油 196
燃料計 67
燃料残量警告灯 50

く

空気圧 257, 259
クルーズコントロール 140
　クルーズコントロール表示灯 58
　クルーズメイン表示灯 58
車の改造 218
グローブボックス 118

け

計器 45
警告灯
　12V バッテリー充電警告灯 48
　ABS 警告灯 51
　ACC 警告灯 50
　AWD(オールホイールドライブ)
　　システム警告灯 54
　CMBS 警告灯 52, 53
　EPS システム警告灯 54
　LKAS 警告灯 50
　PGM-FI 警告灯 47
　VSA OFF 警告灯 52, 178
　VSA 警告灯 52, 178
　エアバッグシステム警告灯 24, 51
　高水温警告灯 51
　シートベルト非着用警告灯 50
　トランスミッション警告灯 48, 49
　燃料残量警告灯 50
　パワーシステム警告灯 52
　ブレーキ警告灯 45, 47
　油圧警告灯 46
　路外逸脱抑制機能警告灯 55
けん引 250

こ

交換
　アクティブコーナリングライト
　　電球 207
　後退灯電球 208
　後面方向指示器 /
　　後面非常点滅表示灯電球 207
　車幅灯電球 206
　制動灯電球 207
　前面方向指示器 /
　　前面非常点滅表示灯電球 206
　側面方向指示器 /
　　側面非常点滅表示灯電球 207
　ハイマウントストップランプ
　　電球 209
　番号灯電球 209
　尾灯電球 207
　ヒューズ 249
　ヘッドライト電球 204
　ワイパーブレードラバー 210
高水温警告灯 51
後退灯 208
高電圧バッテリー残量 72
高電圧バッテリーの特性 179
後面方向指示器 / 後面非常点滅
　表示灯 207
誤発進抑制機能 192
コンビニフック 120

さ

サードシート
　シートをはね上げて固定する
　　とき 113
　ヘッドレスト 116
サービス診断記録装置 6
　データの開示について 7
サイドカーテンエアバッグ 22

し

シートヒーター 121
シートベルト
　アンカーポイント 16
シートの調節
　アームレスト 117
　サードシート 111
　シートをはね上げて固定する
　　とき 113
　セカンドキャプテンシート 109

セカンドベンチシート 104
フラットシート 114
フロントシート 102
ヘッドレスト 115
シートベルト
シートベルトの着用 9, 11
シートベルト非着用警告灯 10, 50
シートベルトプリテンショナー 10
シートベルトリマインダー 10
妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた 14
シフト操作 135
シフトポジション表示灯 57
車線維持支援システム(LKAS) 171
LKAS 警告灯 50
LKAS 表示灯 58
ジャッキ 230
車幅灯 206
車両接近通報装置 139
ジャンプスタート 236
衝突軽減ブレーキ(CMBS) 186
信号情報活用運転支援システム 143

す

スイッチ操作
ECON スイッチ 139
POWER スイッチ 93
アクティブコーナリングライト 94
イルミネーションコントロール ..100
ステアリング 100
フロントガラス熱線スイッチ 99
ヘッドライトレベリングダイヤル 95
ライトスイッチ 95
リヤデフロスタースイッチ 99
ワイパー/ ウォッシャー 97
ステアリング 100
スノータイヤ 215
スパークプラグ 256, 258
スライドドアウィンドウサンシェード 120
スライドドアの開閉 85

せ

清掃 216
制動灯 207
セカンドキャプテンシート 109
セカンドベンチシート 104
シートをはね上げるとき 105
背もたれを倒すとき 107
ヘッドレスト 115
セキュリティシステム
イモビライザーシステム 89
セキュリティアラームシステム 89
セキュリティアラームシステム作動表示灯 57
セレクトレバー
セレクトレバーの操作 136
先行車発進お知らせ機能 155
センターテーブル 119
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯 206

そ

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球 207

た

タイヤ
タイヤの点検 212
タイヤのローテーション 214
タイヤパンク応急修理キット 220
冬期のタイヤ 215
パンク 220
タイヤ角度モニター 73
タイヤチェーン 215

ち

チェーン 215
チャージメーター表示(CHRG) 67

チャイルドシート
ジュニアシート 43
乳児のチャイルドシート 27
幼児のチャイルドシート 28
チャイルドプルーフ 83
駐停車操作 194

て

低水温表示灯 56
テールゲートの開閉
テールゲートが開かないとき 253
デフロスター
リヤデフロスタースイッチ 99
点火プラグ 256, 258

と

ドアの施錠と解錠
Honda スマートキー 77, 80
キーの種類と機能 77
キーレスエントリー 81
キーレスエントリーでドアが開かない 254
後席ドアが開かない 254
車外でのドアの施錠と解錠 80
車内での施錠と解錠 82
チャイルドプルーフ 83
マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠 83
ドアミラー 101
冬期のタイヤ
スノータイヤ 215
タイヤチェーン 215
トラブルシューティング
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 254
キーレスエントリーでドアが開かない 254
けん引してもらいたい 250
後席ドアが開かない 254
ジャンプスタートしたい 236
走行するとブザーが鳴る 255
ハイオクガソリンは使える？ 255
パンクした 220
ヒューズが切れた 249
ブレーキを踏むと音がする 255
ブレーキを踏むと振動する 254
トランスミッション警告灯 48, 49
トランスミッション
フルード 256, 258
トリップメーター 69
ドリンクホルダー 119

な

内蔵キー 77

ね

燃料 256, 258
燃料計 67
燃料残量警告灯 50

は

パーキングブレーキ 183
排気ガスの危険性 44
ハイビーム 95
電球の交換 205
ハイビーム表示灯 56
ハイマウントストップランプ 209
発炎筒 219
バッテリー
12V バッテリー充電警告灯 48
ジャンプスタート 236
容量 256, 258
パワーウィンドーの開閉 91
パワーシステム警告灯 52
パワーシステムの起動
ジャンプスタート 236
パワーシステムが起動しない 233
パワースライドドアの開閉 86
自動で開閉するときの条件 88
パワーフロー 72
パンク 220

番号灯 209
ハンドル位置調節レバー 100

ひ

ヒーテッドドアミラー 99
尾灯 207
ヒューズ
各ヒューズの装備と容量 241, 244, 247
ヒューズの設置場所 241
ヒューズの点検と交換 249
標識認識機能 167
表示灯
ACC(アダプティブクルーズコントロール)表示灯(グリーン) 58
EV 表示灯 57
LKAS(車線維持支援システム)表示灯(グリーン) 58
READY 表示灯 57
インフォメーション表示灯 56
クルーズコントロール表示灯 58
クルーズメイン表示灯 58
シフトポジション表示灯 57
セキュリティアラームシステム作動表示灯 57
低水温表示灯 56
ハイビーム表示灯 56
方向指示器表示灯 56
ライト点灯表示灯 56

ふ

ブースターケーブル 236
ブザー
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る 254
走行するとブザーが鳴る 255
フューエルリッドの開けかた 196
ブレーキ 183
ABS(アンチロックブレーキシステム) 184
エマージェンシーストップシグナル 185
電子制御ブレーキアシスト 184
パーキングブレーキ 183
フットブレーキ 183
ブレーキ警告灯 45, 47
ブレーキを踏むと音がする 255
ブレーキを踏むと振動する 254
ブレーキフルード 256, 258
ブレーキ警告灯 45, 47
フロアボード 123
フロントガラス熱線スイッチ 99
フロントシート 102
フロントセンサーカメラ 147

へ

ヘッドライト 95
電球の交換(ハイビーム) 205
電球の交換(ロービーム) 204
ハイビーム表示灯 56
ライト点灯表示灯 56
ヘッドレスト
サードシート 112, 116
セカンドキャプテンシート 110, 115
セカンドベンチシート 105, 116
フロントシート 102, 115

ほ

ホイールカバー 213
方向指示器(ウィンカースイッチ)
方向指示器表示灯 56
歩行者事故低減ステアリング 148

ま

マスタードアロックスイッチ 83
マルチインフォメーションディスプレイ 68
警告メッセージ 59

み

ミラー 101

め

メーター 67
アンビエントメーター 74
チャージメーター表示(CHRG) 67
燃料計 67
マルチインフォメーション
ディスプレイ 68
メンテナンス
エンジンルーム内の
メンテナンス 201
清掃 216
タイヤの点検と整備 212
メンテナンスを安全に行う
ために 200
ライト類の点検と整備 204
ワイパーブレードラバーの点検と
整備 210

ゆ

油圧警告灯 46
ユーティリティーフック 122

ら

ライトスイッチ 95
ハイビーム 95
ハイビーム表示灯 56
ライト点灯表示灯 56
ロービーム 95
ライト類の点検と整備
アクティブコーナリングライト
電球 207
後退灯電球 208
後面方向指示器 /
後面非常点滅表示灯電球 207
車幅灯電球 206
制動灯電球 207
前面方向指示器 /
前面非常点滅表示灯電球 206
側面方向指示器 /
側面非常点滅表示灯電球 207
ハイマウントストップランプ
電球 209
番号灯電球 209
尾灯電球 207
ヘッドライト電球 204
ラジエーター 239

り

リアカメラシステム 195
リムサイズ 257, 259
リヤデフロスタースイッチ 99

る

ルームミラー 101

れ

冷却水
オーバーヒート 239
高水温警告灯 51
低水温表示灯 56
補給 239

ろ

ロービーム 95
電球の交換 204
路外逸脱抑制機能 151

わ

ワイパー/ ウォッシャー 97
ワイパーブレードラバー 210

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず、Honda 販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新の Honda 販売店を検索することが可能です。
Honda ホームページ　http://www.honda.co.jp/
（Honda ホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください）

携帯電話からは、携帯電話用 Honda ホームページをご覧ください。
http://dream.honda.co.jp/dealerlocator/
※：QR コード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右の QR コードをご利用ください。
ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。
QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120-112010（イイフレアイオ）

受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00
〒351-0188　埼玉県和光市本町8ー1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
② 車種名、タイプ名、走行距離　③ ご購入年月日　④ 販売店名